

TOHOKU UNIVERSITY HOSPITAL 2023



東北大学病院 病院案内

MESSAGE

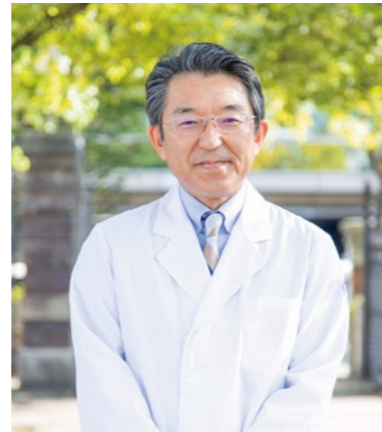
病院長あいさつ

東北大学病院はこれまで百有余年にわたって、日本の医療の発展に貢献してまいりました。同時に、東北地方における医療の要として、最先端の医療を提供するとともに地域医療を支えてきました。3.11東日本大震災により大きなダメージを受けた東北地方は、高齢化・過疎化がすすみ、解決しなければならない医療課題が山積しています。さまざまな革新的医療技術を積極的に取り入れるとともに優秀な医療人材を育成し、東北地方の医療の向上と課題解決にむけて力を尽くすことが、東北大学病院の重要な責務と考えています。

一方で、東北大学病院は厚生労働省から「特定機能病院」に指定されており、高度医療を安全に提供するだけでなく、高度医療の開発や研修をその使命としています。高度医療の開発については、我が国で最初に認定された「臨床研究中核病院」の一つとして、総合大学としての強みを活かしながらさまざまな企業とともに、国際的水準の臨床研究や創業、医療機器開発を積極的に実施しています。また、がん診療においては「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定されており、東北メディカル・メガバンク機構、医学系研究科と密に連携し、高度ながんゲノム医療を展開しています。

このような医療の高度化に伴い、医療安全や医療倫理が以前にも増して重要になってきています。医療の安全は高度医療や先進医療ばかりでなく、日々の医療業務のすべてに求められます。当院では、医療安全のための専従の医師、看護師、薬剤師などからなる「医療安全推進室」を中心に、職員の医療安全や倫理教育を行い、一丸となって、日々、安全安心な医療の提供に取り組んでいます。

東北大学病院の理念は「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」です。東北大学病院は、最先端の医療と全人的で温かみのある医療を両立すべく、今後もより一層の努力をしてまいります。皆さまのご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。



東北大学病院
病院長

張替 秀郎

CONTENTS

基本理念等	1	地域医療連携センターのご案内	8	統計	53
機構図	2	医科診療科	9	沿革	60
役職員	4	歯科部門	31	病院フロア案内	62
診療予約受付のご案内	6	中央診療施設等	42	建物配置	64
外来受診のご案内	7	病院概要	51	アクセス	65

「患者さんに優しい医療」と 「先進医療」との調和を目指した病院

基本理念と将来構想

Our Mission and Vision

- 1 社会の要請に応える開かれた病院
- 2 最先端の医療技術の開発・応用・評価
- 3 着実かつ独創的な研究の推進
- 4 人間性豊かな医療人の養成
- 5 患者の人間性を尊重した全人的医療と高度に専門化した先進的医療の調和

医療安全取り組み宣言

The Declaration on Clinical Safety

- 1 患者さん・家族及びチームの相互の意志の疎通を良好にし、患者さん本位の医療の質と安全を追求します。
- 2 医療の質と安全の確保はすべての職員の責務であることを自覚し、失敗に学び改善につなぐ文化を育みます。
- 3 医療の質と安全を保証するためのシステムの構築を組織をあげて行います。

患者さんに優しい医療と高度先進医療の調和を目指す、という理念を掲げた当院においては、下記の3項目に主眼を置き、当院に対する信頼性の向上と医療安全の推進に全力を尽くすことをここに宣言します。

東北大学病院 病院長



救急救命と医療安全の碑

患者さんの権利と義務 Patient Right and Responsibilities

診療を受ける権利

いかなる人にも平等に、最善かつ安全な医療を継続して受ける権利を有します。

セカンドオピニオンを求める権利

患者さんの負担で、他の医療機関の医師の説明を受ける権利を有します。

医療情報を知る権利

自己に関する医療情報を取得することができ、診療計画や処置等に関して理解し、納得するまで説明を受ける権利を有します。

情報を提供する義務

医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、患者さんは自身の健康状態に関する情報を可能な限り正確に提供してください。

自己の診療について決定する権利

医療従事者が提示する診療計画や治療法等について、自己の意志に基づいて自由に選択・決定する権利を有します。

診療に協力する義務

診療を円滑に行うために、患者さんは院内の医療行為の妨げとならないよう協力してください。

プライバシーが保護される権利

個人情報は完全に保護され、私生活は不当に侵害されることはありません。

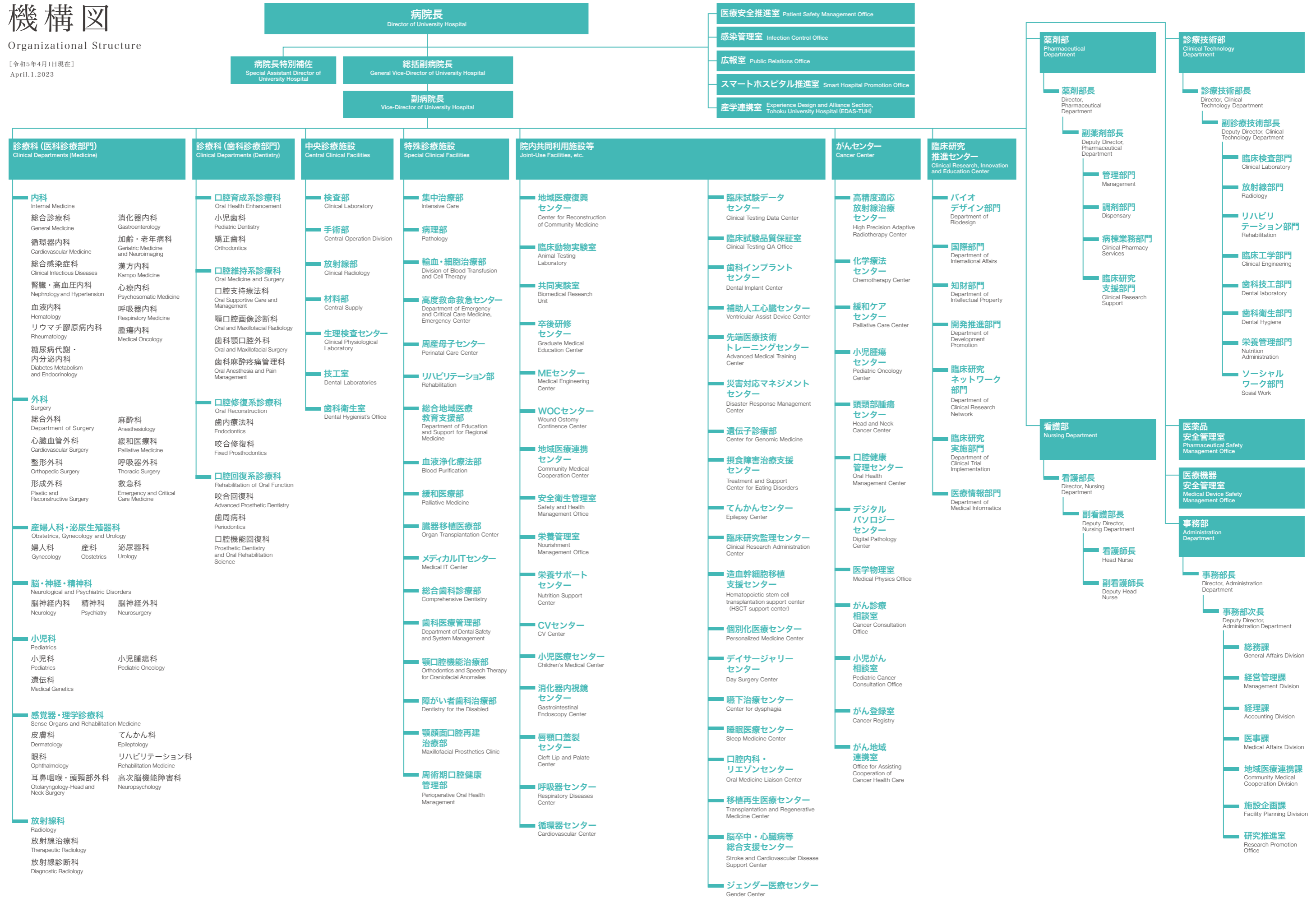
診療費を支払う義務

受けた医療に対し、診療費を滞滞なくお支払いください。

機構図

Organizational Structure

[令和5年4月1日現在]
April.1.2023



■ 診療科数 49 (医科38、歯科11)

診療予約受付のご案内

地域医療連携センター TEL 022-717-7131 FAX 022-717-7132

予約専用フリーダイヤル 0120-201273

受付時間 月曜～金曜 8時30分～17時まで(土曜・日曜・祝日・年末年始を除く)



予約
フォーマット集
はこちら

当院では、紹介患者さんの初診予約受付を行っております。

お電話でご希望の診療科をお知らせください。その場で予約日時をお返事いたします。

診療予約受付の流れ



※翌日分の予約については、前日(前診療日)14時までにお問い合わせいたします。

※予約受付時間外のお申込みについては、原則として翌診療日に対応となります。

※予約枠に制限があり、ご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承願います。

※診療予約の受付は、紹介元医療機関から直接お申込みいただいた場合に限りです。患者さんご本人からのお申込みは受け付けておりません。

※再診予約及び救急患者さん、入院を要する患者さんのご紹介につきましては、直接該当診療科にお問い合わせください。

当院は、一部診療科を除き予約制を導入しております

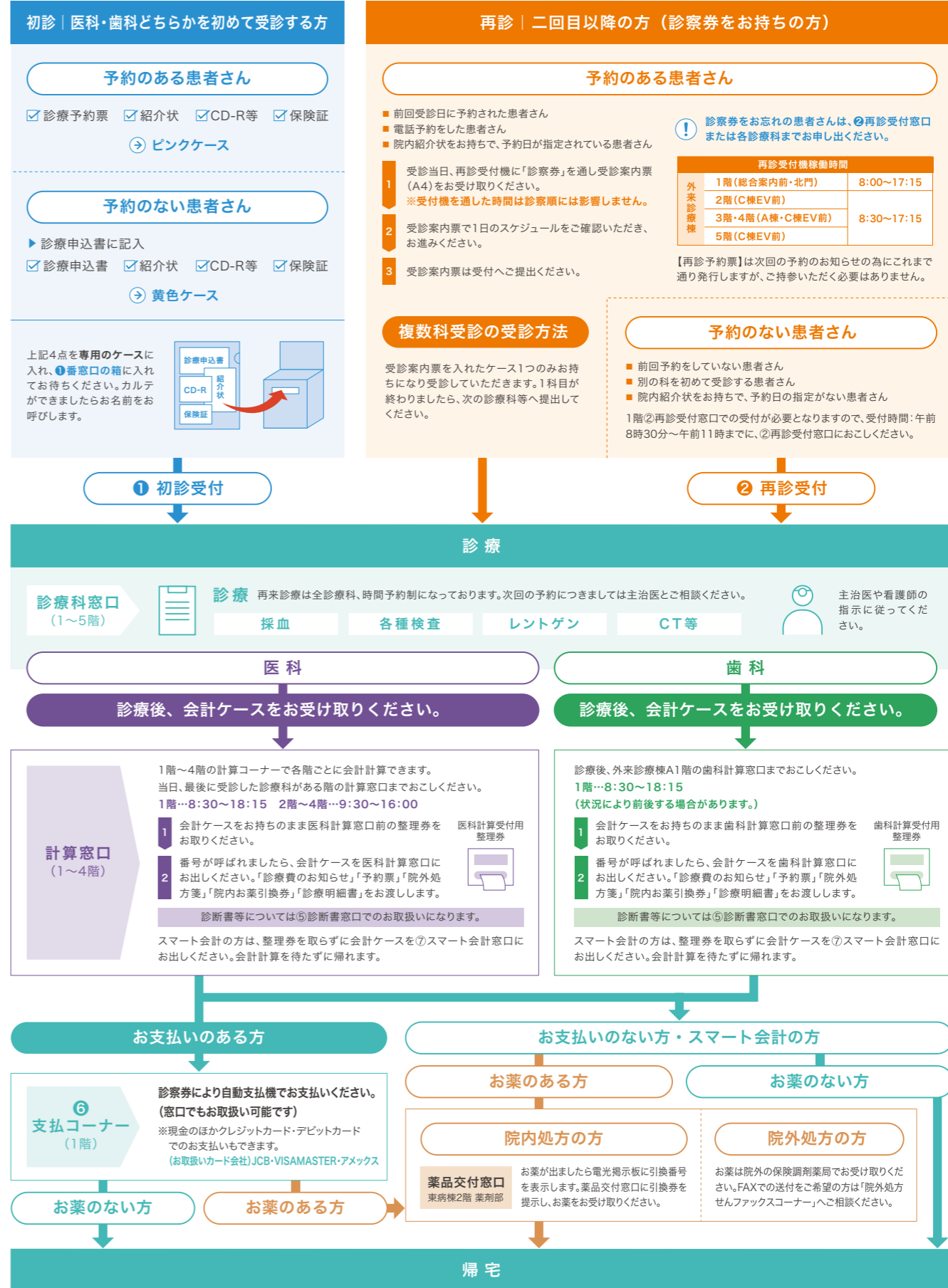
※予約されないで来院された場合、当日中に受診できない場合がございますのでご注意ください。

原則として紹介状が必要です

当院は高度・先進医療を提供する「特定機能病院」です。当院を受診希望される場合は、原則として他の医療機関からの紹介状が必要となります。紹介状をお持ちでない患者さんでも受診可能な場合もございますが、その場合は初診に係る費用として7,700円(医科)、5,500円(歯科)を自費でご負担いただきます。

※初診に係る費用(選定療養費)とは国が病院と診療所の機能分担の推進を図るために、「初期の診療は診療所・医院で、高度・専門医療は病院で」行うことを目的として定められた制度で、他の医療機関等から紹介状をお持ちでなく200床以上の病院を訪れる患者さんは、特別・高度な医療を求めていると考えられ、初診科の他に各病院が定めた金額を徴収できることとなっています。
※医科と歯科の診療料はそれぞれ別に初診扱いとなりますのでご了承ください。

外来受診のご案内



地域医療連携センターのご紹介

TEL 022-717-7618(看護師・SW) / 7131(事務)



診療科WEB

センター長あいさつ

2023年4月より地域医療連携センター長を務めます岡田克典(おかだよしのり、呼吸器外科)です。どうぞよろしくお願い申し上げます。地域医療連携センターは、地域医療機関からの紹介をスムーズに受け入れるための前方支援(新患予約など)、当院から地域の医療機関への紹介を行うための後方支援(退院支援など)を担います。センター内に、入退院センター(入院予定患者さんへの説明など)や、医療(費)相談窓口、難病相談窓口などを含み、看護師や医療ソーシャルワーカー、事務職など多職種のスタッフで、医療の質向上と患者さんの利便性向上を目指して日々業務に取り組んでいます。地域医療機関との連携・機能分化为目的として2006年に設立された地域医療連携協議会には県内を中心に1,212施設にご加入いただき、毎年1回情報交換会を開催しています。2004年のセンター設立以来、初代センター長の佐々木巖先生、2代目の海野倫明先生、3代目の青木正志先生と代を重ねるに従ってスタッフも増え、支援内容も充実して参りました。今後とも皆さまに親しみを持たれ信頼される東北大学病院を目指しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



センター長
岡田 克典

業務内容

新患予約受付

退院・在宅支援、退院調整

入退院センター

各種相談窓口

- 医療そうだん窓口
- ご意見窓口
- がん診療相談室 / 小児がん相談室
- 難病相談窓口
- セカンドオピニオン外来予約窓口
- 脳卒中・心臓病相談窓口
- 肝疾患相談窓口
- 患者申出療養相談窓口

地域医療連携協議会



退院・在宅支援、退院調整



入退院センター

診療科のご案内

CLINICAL DEPARTMENT [Medical]

医科診療科

内科	産婦人科・泌尿生殖器科
総合診療科 10	婦人科 22
循環器内科 10	産科 23
総合感染症科 11	泌尿器科 23
腎臓・高血圧内科 11	
血液内科 12	脳・神経・精神科
リウマチ膠原病内科 12	脳神経内科 24
糖尿病代謝・内分泌内科 13	脳神経外科 24
消化器内科 13	精神科 25
加齢・老年病科 14	
漢方内科 14	小児科
心療内科 15	小児科 25
呼吸器内科 15	遺伝科 26
腫瘍内科 16	小児腫瘍科 26
外科	感覚器・理学診療科
総合外科(肝胆膵・移植グループ) 16	皮膚科 27
総合外科(上部消化管・血管グループ) 17	眼科 27
総合外科(下部消化管グループ) 17	耳鼻咽喉・頭頸部外科 28
総合外科(乳腺・内分泌グループ) 18	リハビリテーション科 28
総合外科(小児外科グループ) 18	てんかん科 29
心臓血管外科 19	高次脳機能障害科 29
整形外科 19	
形成外科 20	放射線科
麻酔科 20	放射線治療科 30
緩和医療科 21	放射線診断科 30
呼吸器外科 21	
救急科 22	



外来担当医表

内科 総合感染症科

TEL 022-717-7766(外来) 完全予約制 | 科長 青柳 哲史

主な対象疾患

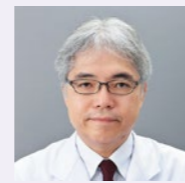
重症全身性感染症：敗血症、細菌性心内膜炎、髄膜炎／呼吸器感染症：肺炎、気管支炎（慢性・急性）、上気道炎、結核、非結核性抗酸菌症、インフルエンザ／消化器感染症：腸管感染症（細菌性・ウイルス性など）、胆道感染症／尿路感染症／外科手術関連感染症、移植関連感染症、免疫不全関連感染症、その他各科領域関連感染症／HIV感染症／薬剤耐性菌感染症／熱帯感染症：寄生虫感染症、渡航者感染症／新興ウイルス感染症（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）、エボラウイルス病（EVD）、中東呼吸器症候群（MERS）、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）など）

総合感染症科は、感染症専門医、抗菌化学療法指導医等の資格を有する医師が診療に携わり、薬剤耐性菌感染症、免疫不全関連感染症、術後感染症など多様な感染症の診断・治療・予防のトータルマネジメントを実践しています。

公衆衛生の発展や優れた抗微生物薬の開発で制圧できたかに見えた感染症は再び私たちの前に大きな脅威として立ちはだかっています。メチシリン耐性黄色ブドウ球菌などの薬剤耐性菌による院内感染の全国的な発生や、世界的大流行（パンデミック）に発展した2009年の新型インフルエンザウイルス感染症、西アフリカにおけるエボラウイルス病、中東を中心に現在も発生が続いている中東呼吸器症候群（MERS）、そしてまさに今、パンデミックとなっている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）など、さまざまな新興・再興感染症が次々と出現しています。感染症は個人・病院の問題に留まらず時に社会全体の脅威となることから、当診療科では病院内外における感染症マネジメントを行っています。さらに、宮城県における唯一の第一種感染症指定医療機関として、エボラウイルス病など感染リスクの高い感染症にも対応可能な第一種病室を設置し、宮城県の感染症診療を支えていきたいと考えています。



外来担当医表



内科 総合診療科

TEL 022-717-7509(外来) | 科長 石井 正

主な対象疾患

・以下のような症状を一つもしくは複数呈し、かつ診断がついてなくて症状が遷延しお困りの方を対象としています。
全身症状（ほてり、全身倦怠感、体重減少、不明熱、寝汗など）、疼痛（頭痛、胸痛、腹痛、腰痛、関節痛、整形外科的な主訴など）、神経系（めまい、意識消失、しびれなど）、その他よくある訴え（遷延する関、呼吸困難感、動悸、浮腫、嘔気嘔吐、下痢・便秘、頸部のしこり、発疹、不眠、精神科的主訴、フレイル、認知症的症状など）、ポリファーマシー（多剤服用による有害事象）、薬物有害事象 など
・新型コロナウイルス感染症後遺症

医療の臓器別・領域別の専門医分担化が進むなかで、その前段階のプライマリ・ケアとして診療科横断的診療を行う総合診療は、近年の患者さんの高齢化に伴う持病の多様化・複数化傾向もあいまって、その重要性はますます高まっています。

当院総合診療科には、診断のついていない症状や健康問題を有する患者さん、複数の病院や医療機関を受診されても症状が改善しないために結局どの診療科に相談したらよいか分からなくて困っている患者さん、さらに精神疾患が重なって複雑な病態となっている患者さんなどが受診されます。当科では丁寧な医療面接・身体診察を行ったのち必要な検査を実施し、患者さんの病態について探索していきます。診断的治療を行う場合もあります。診断鑑別の方向性がついた時点で、適切と考えられる診療科へご紹介いたします。なかには、当外来に通院していただきながら、徐々に問題が解決する患者さんもうらっしゃいます。また2021年度から新型コロナウイルス感染症後遺症外来も開始しています。

当科は漢方内科と深く連携して診療を行っており、漢方内科とよく相談しながら漢方薬処方にてフォローアップすることもあります。



外来担当医表



内科 腎臓・高血圧内科

TEL 022-717-7778(外来) 完全予約制 | 科長 田中 哲洋

主な対象疾患

慢性糸球体腎炎／ネフローゼ症候群／糖尿病や全身性疾患に続発する腎臓病／遺伝性の腎疾患／薬剤性腎障害（急性、慢性）コンサルテーション／保存期腎不全：糖尿病性腎症の透析予防、将来の腎代替療法の選択を見据えた透析前の管理／末期腎不全：血液透析、腹膜透析、腎移植の選択支援と導入期医療／治療抵抗性高血圧症／二次性高血圧症の精査・治療／妊娠高血圧症候群／腎血管性高血圧症

当科では腎臓病および高血圧の診療を行っています。腎臓病に関しては、急性腎障害や慢性腎臓病の管理をはじめ電解質異常、腎炎・ネフローゼ症候群など腎疾患全般を担当し、遺伝性疾患や希少疾患の診療も行っています。適応症例に対してエコーガイド下腎生検を年間114例（R4年度）実施しています。疾患毎の診療実績としては、IgA腎症25例、原発性ネフローゼ症候群約50例（膜性腎症、微小変化型ネフローゼ症候群など）、その他二次性腎臓病（ループス腎炎など）、ANCA関連腎炎、糖尿病性腎症、多発性嚢胞腎、など多岐にわたります。また、腎代替療法の導入を患者さんやご家族の意思、身体・生活状況を多角的に検討し、協働で意思決定を行いながら進めています。高血圧に関しては、高血圧緊急症、若年高血圧や治療抵抗性高血圧などの精査や治療をはじめ、腎血管性高血圧の診断と治療（血管拡張術や薬物療法）など幅広く対応しています。また、糖尿病代謝・内分泌内科と共同で内分泌性高血圧の診療にも従事しています。さらに当科領域の疾患を持つ患者さんの周術期・周産期コンサルテーションなど、重症・高難度疾患の診療にも貢献しています。



外来担当医表



内科 循環器内科

TEL 022-717-7728(外来) | 科長 安田 聡

主な対象疾患

虚血性心疾患：狭心症、心筋梗塞／心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症など）／心筋症：拡張型心筋症、肥大型心筋症、高血圧性心筋症、不整脈原性右室心筋症、心ファブリー病、心サルコイドーシス、心アミロイドーシス／心筋炎／肺高血圧症：肺動脈性肺高血圧症、慢性血栓性肺高血圧症／徐脈性不整脈：洞不全症候群、房室ブロック、徐脈頻脈症候群／頻脈性不整脈：心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍、心房性期外収縮、心室性期外収縮、心室頻拍、心室細動、Brugada症候群、QT延長症候群／成人先天性心疾患／静脈血栓塞栓症／がん治療に伴う心疾患：薬剤性心筋症、放射線性心膜炎

当科では、循環器疾患に対するカテーテル診断を年間約1,400例施行しています。重症大動脈弁狭窄症症例に対してはハートチームのもと経カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を年間約60例、更に重症僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁接合不全修復術にも取り組んでいます。

不整脈領域では心房細動を含む頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を年間約200例施行しています。ペースメーカー、両室ペースング、植込型除細動器などあらゆるデバイス治療を行っています。

心筋疾患、弁膜症等に伴う重症心不全は当科の重要な治療ターゲットで、心臓血管外科と協力して補助人工心臓[補助循環用ポンプカテーテル（インペラ）を含む]による治療を行っています。慢性血栓性肺高血圧症に対する肺動脈バルーン拡張術を年間約70件施行しています。

また当科では、低侵襲検査法による疾患の病態解明を重視しています。心臓MRI検査を用いた多面的解析に加え、冠動脈CT検査での動脈硬化病変の量的・質的解析、ポジトロン断層撮影（PET）・心筋シンチ検査などの心臓核医学検査により心筋虚血を評価しています。



診療科WEB



外来担当医表



内科 糖尿病代謝・内分泌内科

TEL 022-717-7779 | 科長 片桐 秀樹

主な対象疾患

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病、ステロイド糖尿病、内分泌異常に伴う糖尿病、膵性糖尿病、ミトコンドリア糖尿病 など糖尿病全般 / 肥満症、家族性高コレステロール血症、低血糖症など代謝疾患 / 原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの内分泌性高血圧症及び副腎疾患 / クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症、中枢性尿崩症などの下垂体疾患 / 原発性副甲状腺機能亢進症、内分泌性骨粗鬆症 などのカルシウム・骨代謝疾患

2023年4月に糖尿病代謝科と内分泌内科が統合しました。これにより、1型・2型をはじめ多岐にわたる糖尿病全般、肥満症や脂質異常症、低血糖症などの代謝疾患、副腎疾患・下垂体疾患・甲状腺や副甲状腺疾患などの内分泌疾患全般の診療を担当します。

種々の病態の糖尿病に対し、さまざまな作用機序の内服薬やインスリン・インクレチンの注射製剤など、無数の組み合わせの中から個々の患者さんのその時々々の病状に最も適した治療法を選択しています。また、持続血糖測定システム(CGMS)を活用し、ポンプを用いたインスリン注入療法(CSII)やセンサー併用型インスリンポンプ療法(SAP)の症例も豊富です。糖尿病療養指導士や管理栄養士とともにチーム医療で全人的な診療に取り組んでいます。

また、内分泌疾患は、原発性アルドステロン症150例、褐色細胞腫約20例、クッシング症候群30例、視床下部・下垂体疾患約50例、原発性副甲状腺機能亢進症約30例などの年間入院数を診療し、全国から多くの患者さんをご紹介をいただいています。各種負荷試験や画像診断、副腎静脈サンプリング検査などにより、内分泌疾患や二次性高血圧症に丁寧で確実な診療を進めています。



診療科WEB



外来担当医表



内科 消化器内科

TEL 022-717-7731(外来) | 科長 正宗 淳

主な対象疾患

早期食道癌 / 早期胃癌 / 食道および胃粘膜下腫瘍 / 十二指腸腫瘍 / 食道胃静脈瘤 / 胃食道逆流症 / 胃・十二指腸潰瘍 / 機能性ディスペプシア / 潰瘍性大腸炎 / クロウン病 / 腸管型ベーチェット病 / 大腸ポリープ / 早期大腸癌 / 急性肝炎 / 急性肝不全 / ウイルス性肝炎 / 自己免疫性肝炎 / 非アルコール性脂肪性肝炎 / 肝硬変(代償性・非代償性) / 肝細胞癌をはじめとする肝腫瘍 / 膵癌、膵管内乳頭粘液性腫瘍を(IPMN)をはじめとする膵腫瘍 / 急性膵炎 / 慢性膵炎 / 自己免疫性膵炎 / 胆道癌 / 胆石症

消化器内科は上部消化管、下部消化管、肝臓、膵臓・胆道の4診療グループで構成され、各診療グループでは専門医・指導医を中心に経験豊富な多くの医師が診療に従事しており、安全で良質な医療を提供できる体制を整えています。

上部消化管疾患: 胃・食道早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)、内視鏡的静脈瘤硬化療法等の内視鏡治療を中心に診療を行っています。また、胃食道逆流症や機能性消化管疾患についても専門性を生かし診療にあたっております。**下部消化管疾患:** 炎症性腸疾患の診断から寛解導入・維持療法の他、腫瘍性疾患のESD、カプセル小腸内視鏡検査やバルーン式小腸内視鏡検査等による診療を行なっています。**肝疾患:** 肝疾患診療連携拠点病院としてさまざまな肝疾患の診断・治療を行っています。肝癌に対してはラジオ波焼灼療法や血管塞栓術、持続動注療法、化学療法などを行い、肝不全に対しては総合外科と連携して肝移植を含めた治療を行っています。**膵臓・胆道疾患:** 幅広く診療を行っており、特に膵癌の早期診断、感染性膵壊死や膵石・膵管狭窄に対する内視鏡的治療や体外衝撃波結石破砕術、遺伝子診断を含めた急性膵炎・慢性膵炎診療に力を入れています。



診療科WEB



外来担当医表



内科 血液内科

TEL 022-717-7730(外来) | 完全予約制 | 科長 横山 寿行

主な対象疾患

急性骨髄性白血病、急性リンパ芽球性白血病
悪性リンパ腫
多発性骨髄腫
骨髄異形成症候群
慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病
真性赤血球増加症
本態性血小板血症
骨髄線維症
再生不良性貧血
溶血性貧血
巨赤芽球性貧血
免疫性血小板減少症
血友病

血液内科では、難治性の血液疾患を専門領域として診療しています。一般的な治療から最新の治療まで幅広い対応ができるように、複数の専門医がチームで診療にあたっています。特に造血器腫瘍に対しては、分子標的薬や生物学的製剤、さらに必要に応じて細胞治療や造血幹細胞移植を組み入れ、患者さんの状態に合わせた最善の治療を行うよう心がけています。新薬を用いた治験を数多く行い、新しい治療の開発に積極的に取り組んでいるのも当科の特徴です。血液疾患は全身にさまざまな症状を呈する場合がありますが、当院に数多くある他診療科と迅速に連携して治療を進めているほか、リハビリテーション科、総合感染症科、歯科、臨床心理士、栄養科との協力体制を構築し、集学的治療を実施しています。造血幹細胞移植については、非血縁者間移植実施の認定を受けており、骨髄移植/末梢血幹細胞移植/臍帯血移植すべてが実施可能です。移植件数は常に東北地区のトップクラスで、全国に12施設ある造血幹細胞移植推進拠点病院に選定されています。また、キメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)療法と呼ばれる最新の細胞治療を実施することができる限られた施設の一つです。



診療科WEB



外来担当医表



内科 リウマチ膠原病内科

TEL 022-717-7730(外来) | 完全予約制 | 科長 藤井 博司

主な対象疾患

関節リウマチ / 全身性エリテマトーデス / 強皮症 / 多発性筋炎、皮膚筋炎 / 混合性結合組織病 / 抗リン脂質抗体症候群 / シェーグレン症候群 / 高安動脈炎 / 巨細胞動脈炎 / 結節性多発動脈炎 / 顕微鏡的多発血管炎 / 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 / 多発血管炎性肉芽腫症 / 成人発症スティル病 / ベーチェット病 / IgG4関連疾患 / リウマチ性多発筋痛症 / 乾癆性関節症 / 家族性地中海熱 / 不明熱、不明炎症

私たちは、主に全身の炎症性疾患である膠原病を専門領域として診療を行っております。膠原病とは全身の組織や臓器に慢性的な炎症が起こり、未治療であれば複数の臓器障害をきたし致命的になることもある疾患です。膠原病の炎症は自己免疫により引き起こされていることが多く、治療はステロイドなどによる免疫抑制療法が主体となります。一昔前は診断がつきにくく治療開始が遅れたり、治療に伴う副作用で致命的になることも珍しくなかった疾患ですが、近年、疾患特異的抗体の測定、画像診断法の進歩による早期診断が可能となり、生物学的製剤などの分子標的療法の導入による治療成績の向上、副作用の軽減が実現してきております。当科はわが国を代表するリウマチ膠原病診療施設の一つであり、日本リウマチ学会専門医を中心として専門的診療にあたっています。16床の病床を有し、大量ステロイド療法などが必要な場合は入院加療も行い、新規の治療も積極的に導入します。全身性疾患であり、他の診療科の先生方の協力を得て診療にあたりますが、各診療科にも優れた専門医、スタッフがそろっており、患者さんが最良の診療が受けられるように努めています。



診療科WEB



外来担当医表

内科

心療内科

TEL 022-717-7734(外来) 完全予約制 科長 福土 審

主な対象疾患

ストレス関連疾患全般、心身症、過敏性腸症候群、機能性ディスベプシア、神経性やせ症、神経性過食症、機能性便秘、機能性下痢、機能性腹部膨満症、中枢性腹痛症候群、慢性疼痛、線維筋痛症、慢性疲労症候群、慢性悪心嘔吐症候群、周期性嘔吐症候群、回避・制限性食物摂取症、過食性障害、機能性食道障害、機能性身体症候群、パニック症、不眠症、内科疾患(身体疾患)に併存するうつ病、内科疾患(身体疾患)に併存する不安症、内科疾患(身体疾患)に併存する適応障害、内科疾患(身体疾患)に併存する身体症状

私たちは、「心理社会的ストレスによって発症もしくは増悪する内科疾患」を主な診療対象にしています。現代社会に増えてきた心理社会的ストレスによって発症・増悪する身体疾患を心身症と言います。不安症、うつ病も、心理社会的ストレスによって発症・増悪し、しばしば内科疾患を合併します。これらの疾患の根底に、海馬、扁桃体、前帯状回などの情動を司る脳部位あるいはそれらを制御する前頭前野の機能的異常や器質的異常が存在します。心身症では、ストレスを受けてから脳機能が変化し、各臓器が影響を受ける心→身の経路があります。それだけでなく、各臓器の信号が脳に伝達されて脳機能が変化する身→心の経路が病態を作っています。過敏性腸症候群は世界トップクラスの評価を得ています。AMEDムーンショット型研究開発事業の対象疾患として腸内細菌分析、バイオマーカー測定、遺伝子多型分析が可能です。摂食障害については治療支援拠点病院に指定され、国の役割を担って活動しています。治療としては、最新の脳科学と臨床薬理学に基づく薬物療法を行います。心身医学療法として、自律訓練法、交流分析法、認知行動療法などを実施しています。



診療科WEB



外来担当医表



内科

加齢・老年病科

TEL 022-717-7736(外来) 完全予約制 科長 中瀬 泰然

主な対象疾患

アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、脳梗塞後遺症・血管性認知症、パーキンソン病、多病を有する高齢者、総合機能評価が必要な高齢者、加齢性筋肉減少症(サルコペニア)、認知機能低下が心配な人、認知機能低下について画像診断を希望する人、ポリファーマシー改善を希望する人

認知症にはアルツハイマー型認知症をはじめ、レビー小体型認知症や前頭側頭型認知症などさまざまなタイプが存在します。症状も記憶力低下以外に注意力低下や言語能力低下、視空間認知障害などの中核症状、意欲低下や幻覚、妄想、徘徊などの周辺症状とさまざまです。また、うつ病や内臓疾患でも記憶障害や注意力低下のように認知症と似た症状が見られます。新たな治療策が開発されつつある今、認知症の鑑別や原因解明、早期発見などが重要といえます。認知機能低下が疑われる人から認知症になってしまった高齢者まで幅広く診療するため、「老年・もの忘れ外来」に加えて「認知機能外来」も高次脳機能障害科と協働して整備しています。

また、当科では「老年症候群」の精密な原因分析を行っています。老年症候群とは、正常加齢以外に複数の原因で生活機能低下につながる病態を指します。骨粗しょう症、せん妄、フレイルなど約20種類もの症状や状態が提示されています。種々の検査や総合機能評価を通じて老年症候群を評価し、介入可能な原因の同定と結果として生じ得るポリファーマシーへの対応を、薬剤部や看護部など多職種と協力して行なっています。



診療科WEB



外来担当医表

内科

呼吸器内科

TEL 022-717-7875(外来) 科長 杉浦 久敏

主な対象疾患

慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、肺癌、縦隔および胸膜腫瘍、間質性肺炎、種々の病原体(細菌、抗酸菌、ウイルス、真菌など)による呼吸器感染症、びまん性汎細気管支炎、気管支拡張症、全身性疾患による肺病変、免疫・アレルギー性肺疾患、気胸、胸膜炎、職業性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群、サルコイドーシス、リンパ脈管筋腫症・肺胞蛋白症などの希少疾患など呼吸器疾患全般

当科は呼吸器疾患全般を対象とし診療を行っております。エビデンスに基づく治療や臨床試験を実施しながら、安全で適切な医療を提供しています。

COPD: 精密呼吸機能検査や呼気ガス検査、画像検査を駆使して診断し、気管支拡張薬を用いて治療します。増悪時の対応、呼吸リハビリや在宅酸素療法など包括的な診療を行っています。**気管支喘息:** 症状に加え、呼吸機能検査、呼気ガス検査などを用いて診断し、吸入薬による治療を行います。重症例での生物学的製剤による治療経験も豊富です。**肺癌・縦隔腫瘍・胸膜腫瘍:** 遺伝子変異検査により分子標的薬の適応を評価し、化学療法や免疫療法、放射線療法、緩和ケアを組み合わせながら集学的に治療しています。**間質性肺疾患:** 種々の間質性肺炎に対して適切な診断と治療を心がけています。**呼吸器感染症:** さまざまな感染症を対象としています。適切な抗菌薬治療を行います。**睡眠時無呼吸症候群:** 中等症以上では主に経鼻的持続陽圧呼吸療法による治療を行っています。**サルコイドーシス:** 気管支鏡検査などの検査によって診断します。各科と協力し、最適な治療法を提供します。



診療科WEB



外来担当医表



内科

漢方内科

TEL 022-717-7736(外来) 完全予約制 科長 石井 正

主な対象疾患

冷え症、ほてり、のぼせ
倦怠感、食欲不振
虚弱体質
しびれ、痛み
月経に関連する諸症状
更年期に関連する諸症状
膠原病に伴う諸症状
加齢に伴う諸症状
慢性的な消化器症状がん治療のサポート
COVID-19罹患後症状

漢方の診察は、望診(視る)・問診(聞く、嗅ぐ)・問診(話を聞く)・切診(触る)といわれる診察方法により行われ、漢方独自の理論体系に基づいて診断が下されます。この診断をもとに、西洋医学による治療だけでは十分な回復が得られない方々に漢方による併用治療を行っております。

漢方内科では漢方薬及び鍼灸治療を実践しています。漢方薬による治療は、エキス剤と煎じ薬を用いて行っています。エキス剤はあらかじめ決められた分量で服用しやすいように包装されたものを処方し、煎じ薬は患者さんの症状にあわせて各々の生薬を独自に配合し、煎じてから内服します。鍼灸治療はツボに鍼や灸で刺激を加えて筋肉痛や関節痛を緩和しますが、時には内臓や精神的な症状にも用いられます。

当科では漢方治療の科学的検証も積極的に進めています。最近では、「脳血管障害後遺症患者さんの機能性便秘に対する漢方薬の効果」、「COVID-19急性期症状、罹患後症状に対する漢方薬の効果」、「鍼灸治療による嚥下機能の改善効果」、「がん治療のサポート」など最新の研究を報告しつつ、臨床に応用しています。



診療科WEB
外来担当医表



科長 亀井 尚

外科 総合外科(上部消化管・血管グループ)

TEL 022-717-7742(食道・血管) / 7740(胃) 一部予約制

私たちは上部消化管(食道・胃)外科、腹部・末梢血管外科を中心に診療を行っており、豊富な経験から日本をリードする実績を誇っております。

食道外科では本邦初の胸腔鏡下食道癌手術を開始して以降、高度進行癌に対してもロボット手術含め低侵襲な手術を行っている他、ESDや光線力学療法などQOLを重視した局所治療も広く提供しています。また、食道アカラシアに対するPOEMなど食道良性疾患に対する最新の外科治療も行っています。

胃外科では腹腔鏡、ロボット手術による低侵襲な胃癌手術を標準的にを行っています。病的肥満症の外科治療では、保険診療のスリーブ状胃切除術と先進医療のスリーブ・バイパス術を施行しています。高い減量効果と糖尿病改善効果があり、QOL、生命予後の改善が期待されます。

血管外科では脈管疾患を幅広く診療しています。近年、血管疾患に対する治療は従来の直達手術とともに血管内治療(ステント治療)も大きく進歩しており、より低侵襲な治療が可能となっています。これらの治療法にはそれぞれ長所・短所があり、病変部位や重症度と患者さんの耐術能を検討して適切な治療の提供を心がけております。

主な対象疾患

胸部食道癌、食道胃接合部癌、頸部食道癌、食道アカラシア、食道運動機能異常、食道裂孔ヘルニア、難治性逆流性食道炎、食道良性腫瘍、食道憩室、特異性食道破裂、機械的食道損傷、食道異物、胃癌、GIST、胃十二指腸潰瘍穿孔、病的肥満症、腹壁癒痕ヘルニア、鼠径ヘルニア、腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患、腹部内臓動脈疾患、腎動脈疾患、下肢静脈瘤、深部静脈血栓症、静脈疾患一般、透析用バスキュラーアクセス、血管損傷



診療科WEB
外来担当医表



科長 石岡 千加史

内科 腫瘍内科

TEL 022-717-7879(外来) 完全予約制

私たちの腫瘍内科は、主に進行・再発のがん患者さんを対象として、がん薬物療法とその副作用および合併症に対する支持療法を担当する診療科です。対象疾患は消化器系の悪性腫瘍やその他の臓器や希少がん・難治がんなどで、それらに対するがん薬物療法を中心とした治療を積極的に行っています。

2018年2月、当院はがんゲノム医療中核拠点病院に指定され、がんゲノム医療の東北地方の拠点になりました。当科は院内関連診療科と連携病院と協力し、がん遺伝子パネル検査(別名、がんゲノムプロファイリング検査)のエキスパートパネル(最終診断のための専門家会議)を主催し、がんのゲノム検査の結果に基づいた診療、臨床研究、治験を実施しています。

当科の外来診療は東棟棟4階(診察室5室)で、入院診療は西棟棟16階(病床数26床)で行っています。また、治療の多くは外来に隣接する化学療法センターで実施しています。当院の化学療法センターは全国大学病院中で最大規模(35床、年間約16,000件の治療)であり、当科はその運営の一翼を担います。専門性の高い看護師や薬剤師等のスタッフのもと、安全かつ快適に治療を受けていただけます。

主な対象疾患

消化器がん
(食道、胃、大腸、肝・胆・膵、消化管間質腫瘍)
頭頸部がん
骨軟部腫瘍
細胞腫瘍悪性黒色腫瘍
神経内分泌腫瘍
原発不明がん
上記以外の希少がん・難治がん
特定遺伝子に変異を有するがん
遺伝性腫瘍・家族性腫瘍
その他の悪性腫瘍全般



診療科WEB
外来担当医表



科長 大沼 忍

外科 総合外科(下部消化管グループ)

TEL 022-717-7740(外来) 完全予約制

下部消化管グループは、小腸・大腸の良性・悪性疾患を診療しています。悪性疾患の大腸癌に対する手術は、原則、腹腔鏡・ロボット手術で行います。直腸癌ではできるだけ自然肛門を残し人工肛門を避ける手術(括約筋間直腸切除術:ISR)を心がけています。また、進行直腸癌に対し、術前化学放射線療法後に手術を行うことで、機能温存と根治性の向上を目指しています。さらに、遠隔転移例、局所再発例には手術療法・放射線療法・化学療法を組み合わせ治療成績の向上に努めています。家族性大腸腺腫症、神経内分泌腫瘍(カルチノイド)、消化管間質性腫瘍(GIST)、悪性黒色種など稀腫瘍に対する手術治療にも対応しています。良性疾患では、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患に力を入れているのも当科の特徴です。潰瘍性大腸炎では大腸を全摘して、自然排便が可能な回腸・肛門吻合術を標準としています。クローン病では病変部の狭窄が高度な場合は病変部の切除を行いますが、比較的軽度の場合は狭窄を解除する術式を組み合わせ、可能な限り腸管を温存し、短腸症候群の予防に努めています。

主な対象疾患

大腸癌(結腸癌・直腸癌)に対する腹腔鏡手術・ロボット手術 / 直腸癌に対する肛門機能温存手術 / 進行大腸癌・大腸癌再発に対する積極的切除、集学的治療 / 遺伝性大腸癌(家族性大腸腺腫症、リンチ症候群)に対する手術治療 / 神経内分泌腫瘍(カルチノイド)、消化管間質性腫瘍(GIST)、悪性黒色腫など稀少腫瘍に対する手術治療 / 炎症性腸疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎)に対する腹腔鏡を中心とした手術治療 / 人工肛門(ストマ)ケア、短腸症候群の予防と管理中心静脈栄養カテーテル・ポート管理



診療科WEB
外来担当医表



科長 海野 倫明

外科 総合外科(肝胆膵・移植グループ)

TEL 022-717-7740(肝胆膵) / 7742(移植) 完全予約制

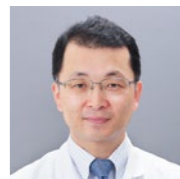
我々は、肝胆膵領域の良性疾患から癌の外科治療、移植医療を専門とした日本有数の症例数を誇る施設です。

胆道及び膵臓分野では、当科が代表となり行った多施設共同研究により切除可能膵癌に対する術前化学療法の有効性を示し、現在の標準治療を確立しました。他院で切除不能と言われた膵癌、胆道癌でも、化学療法と手術を組み合わせた集学的治療により良好な成績を発表しています。また、肝胆膵領域の内視鏡技術認定医が数多く在籍し、内視鏡やロボット手術を積極的に取り入れています。エビデンスの創出が患者さんの幸せに繋がるよう、日々新しいことに挑戦し続けています。

肝臓分野では、肝癌に対して腹腔鏡やロボット肝切除を取り入れ、安全で低侵襲な手術を行っております。移植分野では、肝・膵・腎移植を行っております。肝移植はこれまで230例施行し、近年の5年生存率は90%以上と非常に良好な成績を得ており、先進医療である切除不能肝門部領域胆管癌・切除不能大腸癌肝転移に対する生体肝移植にも取り組んでいます。また膵腎同時移植16例、膵島移植3例、腎移植150例を施行し、いずれも良好な成績を維持しております。

主な対象疾患

肝臓: 肝細胞癌、転移性肝癌、肝巨大血管腫、肝内結石症、門脈圧亢進症、肝胆膵領域近傍の後腹膜腫瘍など / 胆道: 肝内胆管癌、肝外胆管癌、胆嚢癌、乳頭部癌、十二指腸癌、膵・胆道合流異常症、先天性胆道拡張症など / 膵臓: 膵臓癌、嚢胞性膵腫瘍(IPMN, MCN)、膵神経内分泌腫瘍(pNET)、慢性膵炎など / 肝移植: ウィルス性肝硬変、肝細胞癌、アルコール性肝炎、非アルコール性脂肪肝炎、原発性胆汁性胆管炎、原発性硬化性胆管炎、急性肝不全など / 腎移植: 末期腎不全 / 膵・膵島移植: 1型糖尿病



外来担当医表

外科 心臓血管外科

TEL 022-717-7743(外来) 完全予約制 科長 齋木 佳克

乳幼児から高齢者に至る幅広い年齢層に対応した心臓大血管疾患に対して、標準的な手術はもとより、高度先進医療技術を取り入れた手術治療を行っております。

先天性心疾患では学会認定の成人先天性心疾患総合修練施設に認定されています。弁膜症治療及び虚血性心疾患では、小開胸アプローチによる低侵襲心臓手術を導入しています。心筋梗塞の機械的合併症等、高度の全身の臓器障害を伴う患者さんに対しても、補助循環装置（Impella, ECMO等）を先行導入させ、救命率の改善に努めております。胸部・胸腹部大動脈瘤は東北地方から難易度の高い症例が集まってきており、開胸手術及びステントグラフト内挿術を年間100～120例施行しています。再手術症例や緊急手術症例も含め、その治療成績は良好です。重症心不全治療においては補助人工心臓センターを立ち上げます。植込型補助人工心臓の実施施設であり、東北地方唯一の心臓移植認定施設です。また、心臓移植を前提としない植込型補助人工心臓装着（Destination therapy）を、全国認定7施設の一つとして実践しています。

主な対象疾患

胸部大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、急性大動脈解離（Stanford type A, type B）
虚血性心疾患、心筋梗塞の機械的合併症（心室中隔穿孔、左室破裂、乳頭筋断裂）、大動脈弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症、三尖弁閉鎖不全症、先天性心疾患（動脈管開存症、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症等）、成人先天性心疾患（ファロー四徴症術後遠隔期肺動脈弁閉鎖不全症、修正大血管転位症の弁膜症等）、重症心不全（拡張型心筋症、拡張相肥大型心筋症、虚血性心筋症、薬剤誘発性心筋症等）、心房細動に対する外科治療



外来担当医表



外科 総合外科（乳腺・内分泌グループ）

TEL 022-717-7742(外来) 一部予約制 科長 石田 孝宣

乳腺と内分泌（甲状腺、副甲状腺）を対象に、主にがんに関する診療、研究に取り組んでいます。乳腺疾患では、女性で最も多い「乳がん」の専門施設として最先端の医療を提供しています。手術では、根治性と整容性を兼ね備えた「乳房温存療法」を確立し、優れた成績を挙げています。また、乳房全摘後の乳房再建も保険適応の認定施設であり、多様な治療選択が可能です。一方、進行・再発例では、がんの性格や病状に応じて薬物、放射線、手術を適切に組み合わせ、高い治療効果を達成しています。また、乳がん卵巣がん症候群等の遺伝医療でも中核となり、乳房や卵巣の予防切除も可能な施設です。甲状腺疾患では、しこりと機能（ホルモン量）が問題になります。しこりの多くは手術が不要な良性ですが、手術を必要とする悪性（がん）もあります。悪性でもその多くは、進行の緩徐な治りやすいタイプに属します。一方、機能の病気では甲状腺および副甲状腺の機能亢進症があります。前者の場合、手術以外にも、内服薬、放射性ヨードによる治療があり、長所と短所を考慮した治療法の選択が可能です。乳腺・甲状腺を専門とする、外科専門医13名、乳腺専門医8名、内分泌外科専門医1名が高度な医療を提供しており、当院は日本専門医機構基幹施設、日本乳癌学会認定施設、内分泌・甲状腺外科専門医認定施設に認定されています。

主な対象疾患

乳腺疾患として：乳腺悪性腫瘍（乳がん、悪性葉状腫瘍、肉腫など）、乳腺良性腫瘍（線維腺腫、乳頭腫など）、乳腺炎、乳腺膿瘍 など
甲状腺、副甲状腺（上皮小体）疾患として：甲状腺悪性腫瘍（甲状腺がん、悪性リンパ腫など）、甲状腺良性腫瘍（腺腫様甲状腺腫など）、甲状腺機能亢進症（バセドウ病）および低下症、副甲状腺（上皮小体）腫瘍、原発性および続発性副甲状腺機能亢進症 など

外来日：新患・再来ともに診察致します。
乳 腺：月曜日、水曜日、木曜日
甲 状 腺：火曜日、金曜日



外来担当医表



外科 総合外科（小児外科グループ）

TEL 022-717-7758(外来) 完全予約制 科長 和田 基

当診療グループは、新生児外科、小児消化器外科、小児肝胆道外科、小児呼吸器外科、小児移植外科、小児腫瘍外科、小児内視鏡外科といった各領域の専門家が最先端の医療を行っています。一方、虫垂炎などの救急疾患や鼠径ヘルニアや便秘などの一般的な疾患にも広く対応しています。疾患に応じて、小児内科や産婦人科などの関連診療各科・診療部門、東北大学病院以外の施設とも連携して治療を行います。

故葛西森夫名誉教授が世界で初めて手術（葛西手術）を成功させた胆道閉鎖症や、静脈栄養から小腸移植までの一貫した腸管リハビリプログラムを行っている短腸症、腸管機能不全に関しては、全国から多くの症例が集まる日本を代表する施設の一つです。また小児がん拠点病院として、関連診療科と連携した集学的治療を行うことができる全国有数の施設です。

内視鏡手術や臍部切開による手術といった低侵襲で整容性にも考慮した手術や、チャイルドライフスペシャリティ、小児精神科医や児童心理学者などと連携した心理的ケアを積極的に行い、理想的な小児外科医療の提供を目指しています。

主な対象疾患

鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニア、先天性頸部瘻孔・嚢胞、食道閉鎖・狭窄症、胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、腸閉鎖・狭窄症、腸重積症、急性虫垂炎、鎖肛（直腸肛門奇形）、ヒルシュスプリング病（含類縁疾患）、短腸症候群、胆道閉鎖症、胆道拡張症、肝外門脈閉塞症、門脈体循環シャント、嚢胞性肺炎、漏斗胸、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、横隔膜ヘルニア、良性腫瘍（血管腫、リンパ管腫、奇形腫など）、悪性腫瘍（神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、悪性胚細胞腫瘍など）

外科 整形外科

TEL 022-717-7747(外来) 完全予約制 科長 相澤 俊峰

日本は世界に先駆けて超高齢社会を迎え、ただ生きているだけでなく、動ける体を維持することが求められる時代になりました。自分の体を自分の意思で動かすための部位（器官）には、関節やせぼねなどの骨格、骨をつなぐ靭帯、関節や骨を動かす神経・筋が含まれます。これらはまとめて運動器と呼ばれます。整形外科はこの運動器の疾患を扱う診療科です。「外科系」の診療科ですが、手術のみならず内科的な治療（薬や理学療法）も行っています。診療対象は脊椎・脊髄、上肢、骨盤、下肢など全身に及び、年齢層は新生児から高齢者のすべてが対象となります。高齢者にみられる骨粗鬆症、脊柱管狭窄症、変形性関節症等の変性疾患はもちろんのこと、外傷や若年者に多いスポーツ障害などにも積極的に取り組み、運動器疾患の予防・治療を通して人々の生活の質の向上と健康寿命（介護なしで活動できる年数）の伸延に努めています。体に負担の少ない関節鏡下手術や脊椎内視鏡手術、悪性腫瘍に対する患肢温存手術も行っています。骨折などの外傷は、当院高度救命救急センターにある外傷センターの整形外科医が主に担当しています。

主な対象疾患

脊椎脊髄疾患：頸部脊髄症・腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニア・胸椎後縦靭帯骨化症・胸椎黄色靭帯骨化症・脊椎・脊髄腫瘍・成人脊柱変形など／肩関節疾患：反復性肩関節脱臼・肩腱板断裂・凍結肩など／股関節疾患：変形性股関節症・特発性大腿骨頭壊死症など／膝関節疾患：変形性膝関節症・膝靭帯損傷・膝半月板損傷など／骨軟部腫瘍：良性腫瘍、悪性腫瘍、転移性骨腫瘍など／感染症：感染性脊椎炎・感染性関節炎など／関節リウマチ／骨粗鬆症／スポーツ障害／外傷：各種骨折や脱臼など／その他



外来担当医表





外来担当医表

外科 緩和医療科

TEL 022-717-7768(外来) | 科長 井上 彰

私たちは、何らかの疾患によって生じるさまざまな「つらさ」を和らげ、患者さんの生活の質(QOL)を高める緩和ケアを専門とする診療科です。世界標準である「早期からの緩和ケア(病気そのものに対する治療と並行した緩和ケア)」を実践しており、外来患者さんには「緩和ケア外来」において、入院中の患者さんには「サポーターケアチーム」として、各診療科と連携して対応しています。痛みや呼吸困難など身体のはらさはもちろんのこと、不安や抑うつなどのこころのはらさ、仕事との両立や介護に関わる社会的なつらさなど、患者さんが抱える多種多様な問題に対して、当科医師だけでなく他科医師、認定・専門看護師、薬剤師、理学・作業療法士、栄養士、メディカルソーシャルワーカー、臨床宗教師など、多職種の専門家と連携して最善策を検討します。大学病院としては日本で最初に設立された緩和ケア病棟(ホスピス)では、宮城県が誇る多くの在宅診療施設と密に連携して、進行がんの患者さんが最期まで穏やかな療養生活を送れるよう努力しています。

主な対象疾患

何らかの苦痛でお困りの患者さんであれば、がん・非がんを問わず対象となります。ただし、緩和ケア病棟での療養については、がん患者さんのみが対象です。

外科 形成外科

TEL 022-717-7748(外来) | 完全予約制 | 科長 今井 啓道



外来担当医表

我々形成外科では外見に関わる疾患・外傷に対して広く治療しております。口唇・口蓋裂など顔の先天性疾患に対して「唇顎口蓋裂センター」を設け医科・歯科を横断し心理士も加わった最先端の包括治療を提供し、本邦のオピニオンリーダーとなっています。その技術を活かして、一般的な顎変形症や顔面外傷・顔面骨折についても整容性と機能性を兼ねた治療を提供しています。高齢化社会でお困りの方が増えている眼瞼下垂症では、高齢の方でも安心して手術を受けて頂けるように入院での局所麻酔手術に対応しています。一方、乳がん術後の乳房再建では、人工乳房を用いたものから自家組織移植術を用いた方法までさまざまな方法を用意し、患者さんに合った再建法を提案させていただき、他院で切除術を受けた症例にも対応しております。この他、傷跡に関する問題や、血管腫などさまざまな外見上問題となる病態に対応しております。形成外科の「新患外来」ではお一人1時間をかけて丁寧にお話を伺います。乳房再建、眼瞼下垂、血管腫につきましては、直接専門外来へ予約も可能です。外傷など急患は随時対応いたしますのでお気軽にご紹介ください。

主な対象疾患

口唇・口蓋裂 / 先天性頭蓋顔面疾患 / その他の体表先天性疾患 / 顎変形症 / 顔面外傷・骨折 / 裂傷・挫創 / 頭頸部腫瘍切除後変形 / 乳がん術後乳房変形 / 顔面神経麻痺 / 眼瞼下垂 / 血管腫・リンパ管腫 / ケロイド・瘢痕 / 熱傷 / 熱傷瘢痕 / 皮膚皮下腫瘍

外科 麻酔科

TEL 022-717-7760(外来) | 科長 山内 正憲



外来担当医表

臨床麻酔:麻酔の基本は、手術を受ける患者さんの安心と、安全な医療を行なうことです。まず術前診察では、患者さんの状態把握、動画を用いた麻酔の説明、禁煙指導をはじめとする合併症対策を行います。重篤な合併症や特殊な手術では、執刀医・看護師・臨床工学技士・薬剤師とのミーティングもします。手術中は術式と患者さんの状態に合わせた全身管理、術後は集中治療も含め麻酔と一貫性のある管理と鎮痛を実践しています。高度医療を受けるために全国から来院する重症患者さんも多く、脳死移植(心臓、肺、肝臓、小腸)、生体部分移植(肺、肝臓、腎臓)など、本邦で可能な全ての臓器移植手術や特殊な術式への麻酔・全身管理 を行っています。

集中治療:臓器不全や人工呼吸を必要とする重症疾患を対象に、全身への治療を麻酔科が中心となって行っています。

ペインクリニック:さまざまな痛みに対し、薬物治療(漢方薬を含む)、神経ブロック、脊髄刺激療法、痛みの受容アプローチを行っています。近年は悪性疾患への神経ブロック、腰下肢痛や帯状疱疹の痛みにも力を入れています。

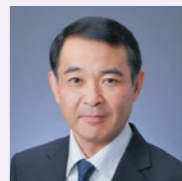
主な対象疾患

術前診察:
動揺歯、開口障害、睡眠時無呼吸、重度心疾患、重度呼吸器疾患、先天異常、移植医療、内分泌異常、消化器疾患、神経疾患、血液疾患、腎疾患、肝疾患、高度肥満

ペインクリニック:
帯状疱疹、帯状疱疹後神経痛、低髄液圧症候群、脊椎疾患による痛み、凍結肩(五十肩)、手足の血行障害、術後痛、頸部痛、がんの術後痛、片頭痛、群発頭痛、小児の難治性痛、リハビリテーション時の痛み

外科 呼吸器外科

TEL 022-717-7877(外来) | 完全予約制 | 科長 岡田 克典



外来担当医表

呼吸器外科は、肺、縦隔、胸壁などの胸部疾患のうち、外科的治療を要するものを対象とする診療科です。

肺癌診療においては、4cm程度の皮切で行う完全胸腔鏡下肺切除術(いわゆるcomplete VATS)またはロボット支援下肺切除術を基本術式として手術の低侵襲化を進めています。当科において2010年から2014年までの5年間に切除術が施行された383例の非小細胞肺癌症例の5年生存率は、病理病期IA期で91.8%、IB期で76.9%、IIA期で81.2%、IIB期で75.9%と良好です。縦隔腫瘍手術においてもcomplete VATSまたはロボット支援下手術を取り入れ、できるだけ負担の少ない手術を目指しています。

また、当院は全国に11施設ある肺移植実施施設の一つに認定されており、2000年の本邦初となる脳死肺移植以来、2022年12月までに160例の肺移植(脳死肺移植:144例、生体肺移植:16例)を実施しました。呼吸不全に苦しむ多くの患者さんが社会復帰を果たしています。肺移植後の5年生存率は約75%と、世界的にみても良好な成績が得られています。

主な対象疾患

胸部疾患(心臓・大血管疾患以外)のうち手術適応となるものが呼吸器外科の対象疾患です。
肺癌:臨床病期I~II期とIII期の一部の患者さんが切除術の対象となります。それ以上進行した病状の場合には、呼吸器内科と相談の上で診療を進めます。/ 転移性肺腫瘍 / 縦隔腫瘍 / 胸壁腫瘍 / 悪性胸膜中皮腫 / 気胸 / 膿胸 / 胸部外傷 / 気道異物 / 重症筋無力症(拡大胸腺摘除) / 慢性進行性肺疾患(肺移植):肺高血圧症、特発性・二次性間質性肺炎、肺気腫、造血幹細胞移植後肺障害、気管支拡張症、リンパ脈管筋腫症などが主な対象疾患です。60歳未満が対象です。



診療科WEB



外来担当医表

産婦人科・泌尿生殖器科

産科

TEL 022-717-7746(外来)

完全予約制

科長 齋藤 昌利

産科は総合周産期母子医療センターとして、県内のハイリスク妊娠・分娩症例を扱っています。他科と連携しながら、より良い妊娠・分娩を目指して診療を行っており、年間の分娩数は約850件となっています。また、その他にも県内の一次・二次医療機関から産後危機的出血症例をほぼ全例受け入れ、先進的かつ効率的な治療を行なっています。

日々の診療では、最新の超音波診断装置を用いて、胎児の形態評価のみならず胎児の心機能評価も行い、新生児科と密に連携を取りながら最適なタイミング、方法での分娩を求めて診療しています。また、切迫早産の原因となる子宮内炎症の評価のために羊水内のサイトカイン測定などを行い、より厳格な診断基準の下、胎児の娩出時期の決定と愛護的な帝王切開術の施行に努めています。

このような日常診療の他に、県内の周産期救急搬送症例のコーディネーター業務も行っており、一次・二次施設で発生した救急症例の搬送コーディネートも行なっています。その連絡件数は年間約500件にのぼり、そのうち約200件を当院で受け入れています。

主な対象疾患

稽留流産、胎状奇胎、切迫流産、重症妊娠悪阻、子宮頸管無力症、切迫早産、妊娠高血圧症候群、HELLP症候群、前置胎盤、癒着胎盤、合併症妊娠、子宮内胎児発育遅延、妊娠糖尿病、血液型不適合妊娠、羊水過多症、羊水過小症、一絨毛膜二羊膜性双胎、胎児形態異常症、胎児染色体以上、弛緩出血、子宮破裂、子宮内反症、産道血腫、帝王切開術後合併症、胎盤遺残、RPOC、社会的ハイリスク症例

外科

救急科

TEL 022-717-7024(外来)

科長 久志本 成樹



診療科WEB

主な対象疾患

重症患者さんを中心とした、すべての救急治療を要する患者さんを受け入れています。また、初期及び第二次救急医療施設の後方病院として十分に機能できるように、365日、24時間体制で診療を行っています。

病院外心停止(心停止後症候群に対する治療も含みます)／外傷／熱傷／重症感染症(敗血症)や特殊感染症(ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風など)／急性腹症／急性中毒／体温異常(熱中症や偶発性低体温症)／急性冠症候群／大動脈疾患(急性大動脈解離、大動脈瘤破裂など)／脳血管障害／呼吸不全／心不全／出血性ショック／意識障害／複数の領域診療科にわたる重篤な病態

救急科では、救急車で運ばれてくる患者さんを中心として救急科専門医が初期診療を担当します。多発外傷や重症熱傷、心肺機能停止状態に対する蘇生と心停止後症候群の治療、敗血症、原因不明のショック、熱中症などの環境障害、呼吸不全に対する集中治療、急性腹症に対する外科的治療などを必要とする患者さんに対しては、初期診療から集中治療までを救急科医師が中心となって診療します。救急治療を必要とする患者さんを積極的に受け入れ、救急科スタッフのみでなく、施設の総合力を集結して最善の治療を提供します。

救急診療だけでなく、集中治療、外傷、外科、そして熱傷専門医認定施設として、我が国の指導的な役割を担います。さらに、急性期外科診療 - acute care surgery、膜型人工肺による補助循環を用いた治療を行うECMOセンターとして、集中治療領域にも広く診療体制を整備しています。“外傷再建センター”として、機能的再建が必要な整形外科領域の患者さんの診療を専門チームが積極的に行っています。宮城県ドクターヘリ基地病院として活動を行い、県内全域に質の高い救急医療と集中治療を常に提供しています。

産婦人科・泌尿生殖器科

婦人科

TEL 022-717-7745(外来)

完全予約制

科長 島田 宗昭



診療科WEB



外来担当医表

産婦人科・泌尿生殖器科

泌尿器科

TEL 022-717-7756(外来)

完全予約制

科長 伊藤 明宏



診療科WEB



外来担当医表

泌尿器系および男性生殖器腫瘍、副腎腫瘍、尿路結石症、先天性水腎症、前立腺肥大症、排尿障害、男性不妊症、男性機能障害など、泌尿器疾患全般に渡って診療を行っています。ロボット支援手術システムを使用することで繊細な操作による低侵襲手術が可能となり、前立腺全摘除術、膀胱全摘除術と尿路変向、腎部分切除術、腎摘除術、尿管全摘除術、副腎摘除術、腎盂形成術などをロボット支援手術で行い、精巣癌での後腹膜リンパ節郭清術は腹腔鏡で行い、手術による負担ができるだけ少なくなるような治療を心掛けています。進行癌に対しては、全身化学療法、分子標的治療薬、免疫療法などを行い、泌尿器科癌診療において、診断から手術・放射線治療・薬物療法・緩和医療まで、一貫して診療を行う体制を整えています。尿路結石内視鏡下レーザー手術、精索静脈瘤に対する顕微鏡下手術も、熟練した専門医が診療にあたっています。重症尿失禁に対する人工尿道括約筋埋込術の手術件数は全国でも有数です。間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術やDMSO注入療法、難治性過活動膀胱に対する仙骨神経刺激装置埋込み術なども行っています。

主な対象疾患

前立腺癌、腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、尿道癌、陰莖癌、精巣腫瘍、副腎腫瘍(原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、クッシング症候群など)、尿路結石症、尿路感染症、先天性水腎症、前立腺肥大症、排尿障害、尿失禁、過活動膀胱、間質性膀胱炎、精索静脈瘤、男性性機能障害、勃起不全、男性不妊症、男性性腺機能低下症

主な対象疾患

子宮頸がん、子宮体がん、子宮肉腫、卵巣がん・卵管がん・腹膜がん、遺伝性腫瘍(子宮、卵巣)、外陰がん、腔がん、絨毛性疾患、骨盤内腫瘍／月経異常、月経困難症、多嚢胞性卵巣症候群、思春期早発、初経遅延、原発性無月経、続発性無月経、体重減少性無月経、性分化疾患、性同一性障害／月経前症候群、月経前不快気分障害、不妊症、不育症、妊孕性温存治療を必要とするAYAがん、子宮内膜症、子宮筋腫、子宮内膜ポリープ、良性卵巣腫瘍、子宮腺筋症、異所性妊娠、炎症、各種性感染症、骨盤腹膜炎、更年期障害、閉経後骨粗鬆症、骨盤臓器脱、過活動膀胱

腫瘍分野：年間200例以上の悪性腫瘍に対してガイドラインに準拠した標準治療と機能温存に努めています。1.早期子宮頸癌：妊孕性温存腹腔鏡下広汎子宮頸部摘出術 2.早期子宮がん：ロボット支援/腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 3.治験などの治療開発 4.リスク低減卵巣卵管摘出術 5.がんゲノム医療

生殖分野：一般不妊から高度生殖補助技術、鏡視下手術(腹腔鏡、子宮鏡、卵管鏡)、不育症の診療に取り組んでいます。院内にみやぎ・せんだい不妊・不育相談センター、宮城県がん・生殖医療ネットワーク事務局を設置し、行政と連携して地域の患者さんが気軽に相談できる体制を整えています。

女性ヘルスケア：更年期障害などの多・不定愁訴に対して、心身一如(心と体を1つに捉える)の観点から漢方治療を行っています。特に原因の見えにくい機能的な異常に漢方治療は大変有効です。漢方／西洋治療との統合医療も実践しておりますので、女性診療の広い窓口としてお役立て下さい。

内分泌・思春期分野：月経異常、婦人科良性腫瘍、思春期、性分化疾患を対象としています。性機能やこころの問題も他科と連携可能な診療体制を整えています。

脳・神経・精神科

脳神経内科

TEL 022-717-7735(外来) **完全予約制** | 科長 青木 正志



脳は人類にとって最も大切な臓器と考えられています。脳神経内科は、この脳をはじめとして脊髄、末梢神経、筋肉などにおこる幅広い疾患を対象としています。神経学的診察法により原因となる責任病巣を特定し、各種の特殊検査や画像検査などを用いて内科的に診断し、その原因を特定して治療します。脳神経内科が担当する領域は、頭痛・めまい・しびれ・物忘れ等のよくある症状から、認知症やパーキンソン病等の神経変性疾患をはじめとする慢性疾患、そして脳炎・脳血管障害・てんかんなどの神経救急疾患まで多岐にわたります。私たちはこれらの幅広い疾患を診療し、脳神経外科やリハビリテーション科などの他診療科、高度救命救急センターや医療ネットワークを通じた各病院との診療連携を大切にしています。

外来診療は、新患外来および各種専門外来よりなり、的確な診断と治療のためMRIや脳脊髄液検査、各種血清自己抗体検査、節電図などの電気生理学的検査、筋生検による病理学的診断、MIBG心筋シンチグラフィ、遺伝子検査等を行っています。国内外の治験や医師主導治験にも取り組んでおり、セカンドオピニオン依頼を積極的に受け入れています。

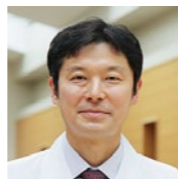
主な対象疾患

筋萎縮性側索硬化症、球脊髄性筋萎縮症、パーキンソン病、多系統萎縮症、脊髄小脳変性症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、多発性硬化症、視神経脊髄炎、筋炎、筋ジストロフィー、ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発根神経炎、脳炎・髄膜炎、プリオン病、HTLV-1関連脊髄症、痙性対麻痺、脳血管障害（脳卒中）、認知症、てんかん、頭痛、めまい、しびれ、歩行障害

脳・神経・精神科

脳神経外科

TEL 022-717-7752(外来) **完全予約制** | 科長 遠藤 英徳



私たちは、脳血管障害・脳腫瘍・てんかん・頭部外傷・水頭症など、幅広い脳神経疾患の診療を行っています。脳血管障害の分野では、脳動脈瘤・脳動脈静脈奇形に対して、開頭術に加えて先進的なカテーテル治療により良好な治療成績を誇っています。当科で命名したもやもや病に対するバイパス術、頸動脈狭窄症に対する内膜剥離術やステント留置術においても日本をリードする立場で診療を行っています。脳腫瘍の分野では、ナビゲーションや術中MRIなどの最新機器を使用した安全で質の高い手術を行い、さらに化学療法や放射線治療を加えた集学的治療も行っています。また、国内有数のてんかんセンターの外科部門を担当し、てんかん科・小児科・放射線診断科・高次脳機能障害科と連携した包括的医療を行い、個々に最適な治療とサポートを提供しています。関連施設と連携し、脳卒中急性期治療や下垂体腫瘍（広南病院）、小児神経疾患（宮城県立こども病院）、パーキンソン病や疼痛などの機能的疾患（宮城病院・仙台西多賀病院）、定位放射線治療（鈴木二郎記念ガンマハウス）にも取り組んでいます。

主な対象疾患

脳血管障害（脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動脈静脈奇形・脳内出血・脳梗塞・頸動脈狭窄・もやもや病・硬膜動静脈瘻・海綿状血管腫）／脳腫瘍（神経膠腫・髄膜腫・神経鞘腫・頭蓋咽頭腫・拝細胞腫・下垂体腺腫・転移性脳腫瘍）／頭部外傷（急性硬膜下血腫・急性硬膜外血腫・慢性硬膜下血腫・脳挫傷）／てんかん／機能的疾患（顔面痙攣・三叉神経痛・パーキンソン病・疼痛・不随意運動）／水頭症／小児脳神経疾患（先天奇形・小児脳腫瘍）／脊髄・脊椎疾患（脊髄腫瘍・脊髄血管障害）

脳・神経・精神科

精神科

TEL 022-717-7737(外来) **完全予約制** | 科長 富田 博秋



精神疾患は検査等により客観的に病態を捉えることが難しく、適切な診断や診療方針を定めることは容易でないこともある一方、検査等により把握可能な身体要因が潜むことも稀ではありません。また、慢性の経過をたどる精神疾患の診療の過程で、症状が繰り返す、症状の顕れ方が変わる、治療に反応しなくなるなどのことが生じることも少なくありません。大学病院では、高度な精査や診療技術、最先端の情報、多数の医師・多職種による検討の体制を活かして、身体的側面から心理社会的な側面に至るまでの総合的なアセスメントに基づいて鑑別診断や診療方針の組み立てを行います。お一人お一人にあわせて、心理教育、生活指導、精神療法、合理的薬物療法を含む身体治療をバランスよく行います。また、通常の治療への反応が低く難治化する場合、適宜、治療抵抗性の精神疾患に有効とされる治療法の導入を検討、実施します。認知症、睡眠障害、摂食障害、てんかん、性別不合等は、院内の関連診療科と連携することで病院として専門性の高い診療体制を作っています。

主な対象疾患

精神病的障害群（統合失調症など）／双極性障害（躁うつ病）および関連障害群／抑うつ障害群（うつ病など）／不安症群（社交不安症、パニック症、全般不安症など）／強迫症および関連症群／心的外傷およびストレス因関連障害群／身体症状症および関連症群／睡眠-覚醒障害群（中枢性過眠症群など）／神経認知障害群／物質関連障害および嗜癖性障害群／性別不合

小児科

小児科

TEL 022-717-7744(外来) **一部予約制** | 科長 菊池 敦生



小児科はこどもの全身を診る総合診療科です。小児科が担当する病気には成人と異なることも特有のものが数多く含まれています。

当院小児科では7つの診療グループ（血液・腫瘍・免疫、内分泌、腎臓、先天代謝異常、神経・発達障害、循環器、新生児）による専門分野の高度先進医療を提供し、必要時には各領域間で協力しながら診療を行っています。東北大学病院は東北地区で唯一の小児がん拠点病院に指定されており、小児血液・腫瘍性疾患の専門的医療を提供していることは特色の一つです。また、小児がんを含むさまざまな病気のお子さんやご家族を支えるために、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、院内学級教師、保育士、栄養士、小児専門ソーシャルワーカー、CLS（チャイルドライフスペシャリスト）、長期フォローアップ専任看護師による多職種スタッフが、多角的なケアや支援を行っています。小児科のみでは診療が難しい疾患については、小児外科をはじめとする多くの他科診療科と緊密に連携をとって診療を行っています。さらに宮城県立こども病院をはじめ関連施設と連携して診療する場合があります。

主な対象疾患

血液・腫瘍・免疫疾患（小児血液疾患、小児腫瘍性疾患、原発性免疫不全症など）、小児神経疾患（てんかん、小児神経筋疾患、発達障害など）、小児腎疾患（ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、尿管機能異常症、先天性腎尿路異常、学校検尿精査など）、小児内分泌疾患（低身長、甲状腺疾患、副腎疾患、性腺疾患、小児糖尿病など）、先天代謝異常症（アミノ酸代謝異常症、有機酸代謝異常症、脂肪酸代謝異常症、尿素回路異常症、ライソゾーム病など）、小児循環器疾患（先天性心疾患、不整脈、川崎病、心筋炎など）、新生児疾患（早産児を含む病的新生児全般）

小児科 遺伝科

TEL 022-717-7744(外来) | 完全予約制 | 科長 青木 洋子



近年、遺伝子・ゲノムに関する研究の飛躍的な進歩に伴い、保険収載での遺伝学的検査が可能になった疾患も増加し、遺伝医療の範囲が急速に拡大しています。さらに、遺伝性疾患は自分自身だけでなく血縁者に共通な問題であることが多いため、その心理面に十分な配慮した対応が必要になります。遺伝科では、遺伝の関わる疾患に対しての正確な情報を説明し、検査の事、あるいは今後の事を共に相談していくプロセスである「遺伝カウンセリング」を行っています。遺伝カウンセリングでは、臨床遺伝専門医を含む複数の医師と認定遺伝カウンセラーが十分な時間をかけて問題点や不安に感じている点を伺います。難病やがん遺伝子パネル検査と連携した遺伝学的検査への対応の他、研究として未診断疾患イニシアチブ(IRUD)の事務局にもなっています。初診時は、約1時間から1時間30分の診療時間が必要となります。そのため、完全予約制で毎週木曜日午後を初診の方の診療日としています。

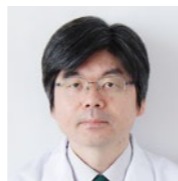
当院では遺伝科を中心に、腫瘍内科、血液内科、脳神経内科、総合外科乳腺・内分泌グループ、産婦人科、小児科が遺伝子診療部を形成し、高度な遺伝子診療に対応しています。

主な対象疾患

遺伝性疾患全般
(周産期、小児科、成人期、遺伝性腫瘍)
の遺伝カウンセリング

小児科 小児腫瘍科

TEL 022-717-7878(外来) | 科長 笹原 洋二



小児の血液腫瘍、固形腫瘍、脳腫瘍、良性血液疾患、原発性免疫不全症、難治性ウイルス感染症などを小児科各診療グループとともに診療しています。小児がんの治療は、全国規模の治療グループスタディへ参加し治療成績向上を目指しています。難治性疾患に対しては造血幹細胞移植やCAR-T療法を併用した治療を行い、個別化医療センターを介したがんゲノム医療や分子標的療法も行っています。良性疾患や慢性活動性EBウイルス感染症で造血幹細胞移植が必要な場合は、RIST(強度低減前処置による造血幹細胞移植)を施行し、長期的な生活の質(QOL)の向上を目指しています。

当院は東北地区で唯一の小児がん拠点病院に指定されています。小児腫瘍センターを組織化し、小児がん相談室やAYAルーム・院内学級を設け、セミクリーン域と専用プレイルームを設置して長期入院環境を整備しています。看護師・臨床心理士・MSW・院内学級教師・CLS(チャイルドライフスペシャリスト)・保育士の多職種スタッフが連携して相談支援や復学支援、長期フォローアップ外来を通じて、入院生活や治療後の長期的サポートも行っています。

主な対象疾患

小児血液腫瘍(白血病、悪性リンパ腫、ランゲルハンス細胞組織球症など) / 小児固形腫瘍(神経芽腫、肝芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫、骨腫瘍、性腺腫瘍など) / 小児脳腫瘍(髄芽腫、胚細胞腫瘍、神経膠腫など) / 小児良性血液疾患(再生不良性貧血、先天性造血不全症、免疫性血小板減少症、先天性血小板減少症など) / 原発性免疫不全症(重症複合免疫不全症、Wiskott-Aldrich症候群、自己炎症性疾患など) / 難治性ウイルス感染症(慢性活動性EBウイルス感染症、臓器移植後ウイルス感染症など)
を、関連診療科と連携しながら診療致します。

感覚器・理学診療科 皮膚科

TEL 022-717-7759(外来) | 完全予約制 | 科長 浅野 善英



皮膚科は皮疹を伴うすべての疾患を扱う診療科です。みなさんは皮疹と聞くことどのような病気をイメージされるでしょうか。アトピー性皮膚炎やじんましん、水虫、にきびなどが挙げられると思いますが、実際に皮膚科で扱う疾患は約2000種類にのぼります。ちょっと気になる皮膚症状で受診し、それがきっかけで内臓の悪性腫瘍が見つかることや、膠原病のような全身性疾患が見つかることも多く、皮膚科という単一診療科の枠を超えた疾患にも対応しています。私たちは宮城県ひいては東北地方の中核病院における皮膚科専門医として、当院が掲げる「患者さんに優しい医療と先進医療の調和を目指した病院」という理念を実践することを常に意識し、受診された患者さんの生活の質を重視した最善・最適な皮膚科医療を提供するように心がけています。また、臨床研究中核病院の一診療科として、患者さんと協力しながら治験(新しい治療薬を試す臨床試験)や皮膚疾患の臨床研究にも積極的に取り組んでいます。最適・最新の治療方法の情報をお知りになりたい場合には、近くの皮膚科専門医もしくはかかりつけ医と相談し、当科の受診をご検討ください。

主な対象疾患

当科では皮膚腫瘍(特に悪性黒色腫、基底細胞癌、有棘細胞癌、皮膚リンパ腫)、膠原病・血管炎(特に全身性強皮症、限局性強皮症、皮膚筋炎、エリテマトーデス)、アトピー性皮膚炎、乾癬、白斑、脱毛症、水疱症、レーザー(美容を除く)の診療を重点的に行っています。これらの疾患については専門外来を設けており、患者さんが大学病院に求める安全で質の高い治療の提供に努めています。2023年度より診療科長浅野は厚生労働省強皮症研究班の代表を務めており、全身性強皮症と限局性強皮症については日本の中心施設として最先端の医療を提供しています。

感覚器・理学診療科 眼科

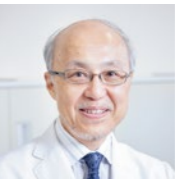
TEL 022-717-7757(外来) | 完全予約制 | 科長 中澤 徹



眼科では医局員各々が専門分野を持ち、最新知見や知識を共有し「失明ゼロ」を目指して診療に従事しています。緑内障外来では血液中の酸化ストレス値や末梢毛細血管の血流動態を測定し眼圧以外の進行リスクについて研究を行い、生活指導やサプリメント内服も治療に取り入れています。また冷え性や睡眠時無呼吸症候群など緑内障との関連が報告されている因子に対し、他科と連携して精査・治療を行っています。網膜・ぶどう膜外来では27ゲージ針による極小切開硝子体手術や、術中眼底OCTといった最新鋭の機器を用いて手術を行っています。眼内の感染症に対してはPCR検査を行うことで、迅速かつ正確に診断を行い、治療予後改善に役立てています。角膜ドライアイ外来では角膜病変深度に応じた角膜パーツ移植を施行し、良好な手術成績を挙げています。また、角膜感染症患者の微量な検体から原因ウイルス・細菌を特定するPCR検査を行っております。神経斜視外来では最新の画像診断装置・遺伝子検索を診断に用い、他科と密な連携治療を行っています。さらに斜視・弱視の専門医師による斜視手術・弱視治療を行っています。

主な対象疾患

診断・治療にお困りのすべての疾患を対象とし眼科疾患別に専門外来を設けています。緑内障外来は他院での治療が難しい末期緑内障症例だけでなく、発症初期の若い緑内障症例も緑内障進行リスク精査のために県内外より御紹介頂いております。網膜ぶどう膜外来は手術が必要な症例や加齢黄斑変性症などの薬物治療が必要な症例、神経斜視外来は腫瘍や斜視・弱視の症例、角膜・ドライアイ外来では、難治性角膜混濁疾患や角膜感染症などを対象に診療を行っています。



外来担当医表

感覚器・理学診療科

てんかん科

TEL 022-717-7751 (外来) **完全予約制** | 科長 中里 信和

主な対象疾患

てんかん及び、てんかんと鑑別を要する疾患が対象です。けいれん発作や意識消失発作だけでなく、意識がもうろうとする発作、異常知覚や精神症状の発作も対象です。てんかんでは発作や疾患型の分類が治療方針決定に必須です。てんかん発作と非てんかん発作の混在例では、入院精査の良い適応となります。発作の有無にかかわらず、てんかんの合併症や誤解・偏見・スティグマに悩む場合も、てんかん専門診療の果たす役割は小さくありません。てんかんがあるうがなかるうがベストの人生を歩めるよう、私たちは包括的診療を目指しています。

てんかんは100人に1人の「ありふれた病」で、専門的診断をうけずに治療されているケースが少なくありません。たとえば医師本人やその家族がてんかんになった場合、脳・神経系の専門医であっても「とりあえず治療」を続けてしまいがちであり、発作や発作以外の症状が何年も続けられることは珍しくありません。どのような主治医による治療でも、約1年の経過で発作が消失しない場合は全体の約1/3にのぼり、入院精査が必要とされています。

てんかん科の新患外来では、ひとりに1時間をかけた診察を実施しています。発作のみならず、発作以外の悩みを聞きだすことも重要です。遠隔地の症例には「オンライン・セカンドオピニオン(自由診療)」も実施しています。外来で治療方針を決定できない場合、2週間の検査入院を行います。最初の4日間では脳波とビデオを同時記録し、発作の瞬間をとらえたり、発作がなくても異常な脳活動を記録します。これにより発作や病型が特定できれば、治療方針がたてやすくなります。また長年てんかんとして診療されていた患者さんが、まったく別の疾患だったこともあります。



外来担当医表

感覚器・理学診療科

耳鼻咽喉・頭頸部外科

TEL 022-717-7755 (外来) **完全予約制** | 科長 香取 幸夫



外来担当医表

主な対象疾患

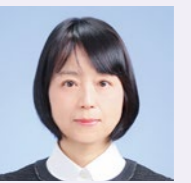
慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、耳硬化症、中耳奇形、滲出性中耳炎、突発性難聴、遺伝性難聴、先天性難聴、音響性聴覚障害、加齢性難聴、耳鳴症、メニエール病、良性発作性頭位めまい症、前庭神経炎、顔面神経麻痺、慢性副鼻腔炎、鼻中隔彎曲症、アレルギー性鼻炎、鼻副鼻腔腫瘍、嗅覚障害、急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍、深頭部膿瘍、味覚障害、睡眠時無呼吸症候群、嚥下障害、咽頭・食道異物、気道異物、音声障害、けいれん性発声障害、反回神経麻痺、唾液腺腫瘍・唾石症、正中頸嚢胞、頭頸部がん(聴器、鼻副鼻腔、舌、歯肉、咽頭、喉頭、唾液腺、甲状腺)

診療内容: 耳、鼻、のどの疾患、頭頸部癌の治療を行います。全ての領域に内視鏡や顕微鏡を用いて低侵襲で安全な手術を行います。耳科領域では中耳手術、高度難聴に対する人工内耳手術、聴覚リハビリテーション、先天性難聴に対する遺伝子検査、耳鳴症に対する耳鳴り順応療法や補聴器の導入を行っています。鼻科領域では好酸球副鼻腔炎に対する生物学的製剤の治療や、花粉症に対する舌下免疫療法を行っています。のどの領域では、嚥下障害、声の障害、睡眠時無呼吸症候群の治療を行っています。咽頭癌や舌癌など頭頸部がんの治療では、頭頸部腫瘍センターの主要な診療科のひとつとして、放射線科、腫瘍内科、脳神経外科、形成外科、甲状腺外科、歯科顎口腔外科とともに手術・放射線療法・化学療法を組み合わせた集学的な治療を行っています。

得意分野: 嚥下障害ならびに音声障害の診断と手術に豊富な経験を有しています。頭頸部癌治療では、3Dモデルを使用した下顎骨再建手術や咽頭癌に対するロボット手術等の先進的治療を行っています。重度難聴に対して最先端の人工聴覚器手術と言語聴覚士によるリハビリテーションを行っています。



外来担当医表



感覚器・理学診療科

高次脳機能障害科

TEL 022-717-7751 (外来) **完全予約制** | 科長 鈴木 匡子

主な対象疾患

認知症疾患(アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、正常圧水頭症、大脳皮質基底核変性症、進行性核上性麻痺、進行性失語症、血管性認知症等)、脳血管障害、パーキンソン病等神経変性疾患、脳腫瘍、脳炎、てんかん、低酸素脳症、頭部外傷等による高次脳機能障害 [対象となる主な症状] 健忘、注意障害、言語の障害(失語、失読、失書)、対象認知の障害(失認)、行為・行動の障害(失行、遂行機能障害)、視空間認知障害(構成障害、視覚性注意障害、半側空間無視、道迷い)、脳損傷による精神症状(うつ状態、幻覚、妄想、意欲低下等)

当科は「高次脳機能障害」と「認知症」を専門とする診療科です。神経疾患や頭部外傷により、失語、健忘、視空間認知障害などの高次脳機能障害をきたした患者さんの診断・治療を行っています。全国に50万人以上いる高次脳機能障害患者は麻痺などと違って気づかれにくく、適切な医療に結びついていない方が多くいます。当科では高次脳機能を専門とする神経内科専門医・認知症専門医を中心に詳細な診察と検査によりどのような高次脳機能障害があるかを診断し、原因疾患を考慮しながら最適な治療・対応を行います。福祉制度の利用に必要な診断書の作成も積極的に行っています。

また、「認知症」は高次脳機能障害により社会生活に支障がある状態です。その原因はさまざまですので、原因診断、治療方針の決定を行い、かかりつけ医や福祉関係の方と協力しながら最適な医療を進めています。特に若年性認知症、診断に苦慮する症例については、最新の知見をもとに診断、治療を行いますのでぜひご相談ください。健忘以外の言語障害や視空間認知障害等が目立つ非典型的な認知症、運動症状を伴う認知症についても豊富な経験を有しています。



外来担当医表



感覚器・理学診療科

リハビリテーション科

TEL 022-717-7751 (外来) | 科長 海老原 覚

主な対象疾患

脳卒中・脳外傷のリハビリテーション/脊髄損傷のリハビリテーション/神経・筋疾患のリハビリテーション/リウマチ・骨関節疾患のリハビリテーション/切断のリハビリテーション/フレイル高齢者のリハビリテーション/小児リハビリテーション/慢性疼痛のリハビリテーション/スポーツ・リハビリテーション/嚥下障害のリハビリテーション/心臓機能の障害のリハビリテーション/呼吸機能の障害のリハビリテーション/肥満症のリハビリテーション/慢性腎不全のリハビリテーション/廃用症候群のリハビリテーション/重複障害のリハビリテーション

私たちはリハビリテーション治療の適応となる障害全般を対象として診療を行っています。どんなに医学が進歩しても治らない病気があります。治らない機能障害も存在し続けるでしょう。加齢による心身の衰えも、先延ばしするだけでいつかはやってきます。そのような不治の病、不可逆の障害、不可避の老いに対して、少しでも改善する方法・なんとか対応する方法を探り続けるのがリハビリテーション医学です。近年の超高齢社会に置いては、その障害は一つでなく、多くの障害を併せ持つ重複障害となっており、ますます障害の複雑性が増しています。そのような障害に対して、大勢の医療スタッフで多職種連携して目の前の患者さんに挑んでいく、そのような医療を実践していく場が東北大学病院リハビリテーション科です。それは「患者さんに寄り添う医学」「治し支える医療」の実践の場であると同時に、チャレンジの場でもあります。どんな患者さんに対しても「患者さんに寄り添う医学」「治し支える医療」を行っていくためには、柔軟な発想でありとあらゆる手段を駆使して、治療法・対処法を開発していく所存です。

放射線科

放射線治療科

TEL 022-717-7732(外来)

完全予約制

科長 神宮 啓一



外来担当医表

放射線治療には直線加速器による外部照射と密封小線源による腔内照射や組織内照射、RI内用療法があります。初診時には、まず、放射線治療の適応があるかどうかを、全身状態や画像、生化学検査等で判断いたします。照射適応があれば、放射線治療計画を実施します。この治療計画には時間がかかるため、通常は新患日とは別な日に予約をとるという形をとらせていただいております。腫瘍による脊髄圧迫や腫瘍出血など、早急な治療が必要な場合はその限りではありません。放射線治療は一般的に1回数分間の治療を1日1回、週5回治療で、病状に応じて数回から30回程度の治療を行います。近年では通院回数をできるだけ減らした治療も実施しています。更に、定位的放射線治療(SBRT)や強度変調放射線治療(IMRT)といった先進的な放射線治療も数多く行っています。2021年度からは最新のMRIリニアックを用いた放射線治療を開始しました。この装置で前立腺癌や膵臓がん、腎臓癌などへの定位放射線治療を開始しています。その他、密封小線源治療においても三次元的なCTガイド下で安全に実施しています。

主な対象疾患

ほとんどすべての悪性腫瘍が対象となります。また、神経内分泌腫瘍や甲状腺眼症、ケロイド、血管腫なども適応となることがあります。

放射線科

放射線診断科

TEL 022-717-7880(外来)

完全予約制

科長 高瀬 圭



外来担当医表

最新の医療機器を用いた画像診断業務と、血管造影や超音波等の画像技術を用いて治療を行うインターベンショナル・ラジオロジー(IVR)を行っています。

画像診断業務は単に画像を読むことではありません。患者さん毎に必要な医学的情報を個別判断しながら、放射線被曝や造影剤・磁場の負担を必要最低限に抑え、放射線技師との協力で最適化しています。CT、MRI、一般核医学検査およびPET-CTは、年間約7万2千件の全てを当科が管理・読影しています。依頼に応じて単純X線撮影の読影、超音波検査を施行しています。

IVRは、経血管的な腫瘍や出血の塞栓術、動脈静脈奇形や内臓等の動脈・静脈瘤塞栓術、腎動脈や四肢末梢、透析シャント、肺動脈等の血管形成術、頭頸部癌の超選択的抗癌剤動注療法、先天性心疾患等、全身のIVRを行っています。副腎静脈サンプリングは世界一の実績です。CTガイド下や超音波ガイド下に行なう経皮的治療では、生検(肺、骨軟部等)、膿瘍ドレナージ、ラジオ波焼灼術に加え、東北で唯一となる腎癌の凍結療法を行っています。いずれも数mmの傷で施行できる低侵襲な治療です。救急IVRは、365日体制で、外傷、産後出血、術後出血、消化管出血等に対応しています。

主な対象疾患

画像診断の対象となる疾患全般
各種のインターベンショナル・ラジオロジー(IVR)の対象となる疾患全般
— IVRとはカテーテル等を用いた血管内治療や画像ガイド下に行なう低侵襲治療です —
例：小径腎癌(凍結療法)、内臓動脈瘤、体幹部(肺・腎等)肺・内臓・四肢の動脈静脈奇形、難治性咯血、各種画像ガイド下生検、各種腫瘍の塞栓術、ステントグラフト留置後のエンドリーク、透析シャントトラブル、肝細胞癌、四肢の閉塞性動脈硬化症、椎体圧迫骨折、動注療法、外傷、出血、静脈サンプリング、胆道疾患、原発性アルドステロン症(ラジオ波焼灼治療) etc

CLINICAL DEPARTMENT

[Dental]

歯科部門

口腔育成系診療科

小児歯科	32
矯正歯科	32

口腔修復系診療科

歯内療法科	35
咬合修復科	36

特殊診療施設

総合歯科診療部	38
顎口腔機能治療部	38
障がい者歯科治療部	39
顎顔面口腔再建治療部	39
周術期口腔健康管理部	40

口腔維持系診療科

口腔支持療法科	33
顎口腔画像診断科	33
歯科顎口腔外科(形態機能グループ)	34
歯科顎口腔外科(疾患制御グループ)	34
歯科麻酔疼痛管理科	35

口腔回復系診療科

咬合回復科	36
歯周病科	37
口腔機能回復科	37

院内共同利用施設

歯科インプラントセンター	40
口腔内科・リエゾンセンター	41
嚥下治療センター・歯科	41

歯科診療部門長あいさつ

日頃より東北大学病院歯科診療部門にご支援を賜り、誠にありがとうございます。当院の基本理念は、「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」です。歯科診療部門はこの理念を基に、医科歯科連携を基盤とした高次歯科医療を東北医療圏に提供すべく日々全力で取り組んでいます。

当院は、全国的に見ても医科歯科連携が高いレベルで進んでいる大学病院です。医科と歯科が同じ建物のなかで緊密に連携しているため、患者さんに高度で総合的な医療を提供できる点が当院の特徴と言えます。人生100年時代を迎える中、歯科界が感じている以上に、医療機関には医科歯科連携に対する潜在的な需要があると感じております。当院では、「愛し(医と歯)の関係」をキャッチコピーに掲げ、医科歯科連携体制のもと、高度な専門医療や先端医療技術の提供に努めています。

口腔内科・リエゾンセンターや嚥下治療センターでは、口腔粘膜疾患、口腔顔面痛、味覚障害、嚥下障害など歯科的な難治性疾患に加え、全身疾患や医科領域の疾患が疑われる患者さんの紹介に対して、医科部門と連携して治療に取り組んでいます。また、各診療科、特殊診療施設でも、医科歯科連携体制のもと、口腔内から全身を診る医療を提供していますので、対象となる患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

一方、手術前後の口腔管理や、がん等に伴う口腔の苦痛症状の予防・軽減処置を要する患者さんにおいては、定期管理が可能なステージで、地域の歯科医療機関との連携が不可欠となります。「愛し(医と歯)の関係」を地域とともに進めるためにも、当院からの紹介についてもぜひともご協力いただきますようお願い申し上げます。

これからも皆さまに「地域になくはならない歯科診療部門」と思ってもらえるよう、スタッフ全員の力を結集して尽力してまいります。皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、よろしくようお願い申し上げます。



総括副院長
(歯科診療部門長)

江草 宏

口腔育成系診療科

小児歯科

TEL 022-717-8384/8385(外来) | 科長 山田 重矢



外来担当医表

当科では、小児の歯科治療全般を担当しております。宮城県内外からの紹介を受け、東北地区の拠点診療室として先駆的な診療を行っております。

小児のう蝕治療や予防処置などの一般的な歯科診療のみならず、治療に際し困難を抱える小児の歯科治療の実施や、歯科診療を受容可能になるような行動トレーニングも行っております。また、過剰歯の抜歯、舌小帯や上唇小帯の切除術などの外科的処置、歯並び・咬み合わせの異常に対して、健全な永久歯列へと導くための咬合誘導、全身疾患を有する小児の歯科治療や、歯科麻酔科と連携した鎮静あるいは全身麻酔による集中治療も行なっております。さらに口腔粘膜疾患や口腔機能に対する治療など、小児期における口腔疾患に対応する診療科です。歯並びの治療に関しては、う蝕や口腔習癖等に起因する異常に関して早期に予測・診断し、顎顔面の成長を考慮しながら適切な時期での治療を開始します。また矯正歯科との密な連携により、乳児期から学童期におけるシームレスな治療を行っております。

日本小児歯科学会の専門医研修機関として専門医や専門医指導医の育成にも携わっております。

主な対象疾患

う蝕、歯髄炎、歯周疾患、小帯付着異常、乳歯晩期残存、埋伏過剰歯、癒合歯、歯の萌出異常、歯列・咬合の異常、口腔習癖、歯の外傷、口腔機能発達不全症、歯の形成不全、障害児・有病児の歯科治療

口腔育成系診療科

矯正歯科

TEL 022-717-8376(外来) | 科長 溝口 到



外来担当医表

私たちは以下に示す不正咬合に対する矯正治療を専門に行っております。

1) 歯を配列する治療: 歯の配列に用いる代表的な装置は、ブラケットとワイヤーからなるマルチブラケット装置です。ブラケットは、従来は金属製でしたが、最近では審美的に目立たないプラスチック製のブラケットが用いられています。装置の調整は1か月間隔で行い、歯の移動の治療期間は、2年から3年ほどかかります。当科では顎骨に固定源を求める歯科矯正用アンカースクリューを積極的に適用しており、従来困難であった歯の移動を効率的に行うことができます。

2) 顎骨の整形治療: 成長期の子どもにおいて骨格性の問題がある場合には、整形的装置を用いて顎骨の成長をコントロールする治療を行います。使用期間は1年から2年です。

3) 外科的矯正治療: 骨格性の不調和の程度が大きく、矯正歯科治療単独では良い咬み合わせを獲得できない場合には、矯正歯科治療と顎切り手術を併用する治療が行われます。治療期間は通常の矯正歯科治療と同じく2年から3年ほどを要しますが、途中顎切り手術のために2週間位の入院が必要になります。

主な対象疾患

歯並びや咬み合わせの異常(不正咬合)には、さまざまな種類があります。主な不正咬合としては叢生(そうせい)、空隙歯列、上顎前突、下顎前突、開咬、過蓋咬合、交叉咬合(歯列の左右的非対称)があります。これらの不正咬合は、歯の位置の異常によるもの(歯性)と顎骨の位置や形によるもの(骨格性)に大きく分けることができます。当科の対象疾患は歯性不正咬合や軽度から中等度の骨格性不正咬合に加えて、重度の骨格性不正咬合(顎変形症)が対象疾患となります。

口腔維持系診療科

口腔支持療法科

TEL 022-717-8330(外来) | 完全予約制 | 科長 江草 宏



外来担当医表

医科の治療を遂行する際、お口の状態を良好に保つことはとても大切です。特に、頭頸部がんに対する手術・放射線療法・化学療法、造血幹細胞移植などでは口腔への影響は大きくなります。科名に掲げた「口腔支持療法」とは、がん等の疾病そのものや、がん治療により口腔内に生じる合併症や苦痛症状に対して予防、治療、症状緩和を行うことです。

当科では主に当院で医科処置を実施する患者さんを対象とし、医科での治療に伴う口腔内有害事象(口腔粘膜炎症など)を未然に防ぐため、口腔管理を実施します。具体的には、治療開始前から口腔管理計画を立案し、医科での治療時に問題となる部位の処置やお口のクリーニングを行い、医科の治療スケジュールに合わせたセルフケア方法などを患者さんにお伝えします。治療中も口腔管理を継続し、治療終了後はかかりつけ歯科医院へ経過報告と共にご紹介し、地域の歯科医院との連携を行っています。

また、保険外診療とはなりますが、口臭でお悩みの方への診療も行なっています。機器検査と人の嗅覚等を利用した検査を行い、結果に基づいた専門的な助言と指導を行います。

主な対象疾患

手術やがん薬物療法、放射線療法などを受ける際に加療・管理を要する歯科疾患(むし歯や歯周病、義歯不適合、口腔粘膜疾患、口腔清掃不良などを含む)、がん薬物療法による口腔有害事象、頭頸部放射線療法による口腔有害事象、頭頸部領域における悪性腫瘍手術に関連する口腔有害事象、造血幹細胞移植に関連する口腔有害事象、医科治療後も継続した歯科医学的配慮が必要な方の歯科疾患、口臭症

口腔維持系診療科

顎口腔画像診断科

TEL 022-717-8391(外来) | 科長 飯久保 正弘



外来担当医表

当科が担っている顎口腔領域の画像診断は、口腔疾患の的確な診断および治療のためには必要不可欠なツールです。さらに、近年の歯科医用画像は、口内法エックス線写真やパノラマエックス線写真のような2次元画像から、歯科用CTや口腔内スキャナなどの3次元デジタル画像へと変化し、それらデジタル技術を駆使することで様々な医療支援システムが開発されています。当診療科は、CT、MRI、超音波診断装置、核医学などを用いた画像診断を主な業務とし、医科部門の放射線診断科および放射線部と協力し、安全な検査の実施と質の高い画像読影に務めております。また、インプラント治療シミュレーションなどの画像データを用いたサージカルガイド作製、周術期口腔健康管理部と連携し全身疾患有病者の顎口腔領域の感染巣精査とその治療、口腔内科・リエゾンセンターと連携し口腔粘膜疾患や口腔顔面痛に対する診断と治療なども行っております。

主な対象疾患

顎口腔領域の画像診断の対象となる疾患全般
全身疾患有病者の歯性病巣感染の精査
画像診断は、最新の機器とハイレベルの技術を駆使して的確な画像検査を行い、日本歯科放射線学会の専門医が医科診療部門と連携しながら画像診断を行っています。対象は、当院で画像検査を行った患者さんだけでなく、地域歯科医院からの画像検査依頼患者さんや地域歯科医院にて診断困難であった患者さんの画像診断も行っています。

口腔維持系診療科

歯科顎口腔外科（形態機能グループ）

TEL 022-717-8352(外来)

科長 山内 健介



外来担当医表

歯科顎口腔外科・形態機能グループが担当する疾患は、端的に言えば歯科医院で一般的に診療するう蝕・歯周病ではないもの全般になります。最も身近なものは親知らず（智歯）ですが、それ以外にも顎骨のう胞、顎の奇形・変形、顎関節症、唾液腺疾患など多岐に渡ります。これらの疾患に対する治療（手術）では、一次的にでも顎口腔機能が障害され、摂食・嚥下・発音・呼吸などに影響が出るとともに、顔の一部を担う事から審美的な障害も生まれます。それらの障害を少しでも抑え、また、正常な形態・機能に回復することを目標に、先端的な画像解析システム、新規医療器械・材料を積極的に応用した治療を行っています。機能回復の中でも咬み合わせまでを目標とする場合は、歯科インプラントセンターや歯科全般の診療科と連携して、咬合咀嚼機能までを獲得し、一生涯での機能維持をゴールとします。現在でも地域の歯科医院や総合病院歯科顎口腔外科とも連携していますが、今後は情報通信技術を応用した遠隔医療連携を構築して、宮城県内、東北地方全域でも地域間差違が生じないような顎口腔疾患治療の展開を目指しています。

主な対象疾患

腫瘍、顎変形症、嚢胞、埋伏歯・埋伏智歯、歯性感染症、上顎洞炎、顎骨骨髓炎、粘膜疾患、顎関節症、外傷・骨折、唾液腺疾患、先天・後天奇形、高度歯槽堤萎縮症、薬剤関連顎骨壊死、口腔顔面痛、ドライマウス、シェーグレン症候群、顎関節強直症、習慣性顎関節脱臼、咀嚼筋腱膜過形成症、睡眠時無呼吸症候群

口腔維持系診療科

歯科顎口腔外科（疾患制御グループ）

TEL 022-717-8352(外来)

科長 杉浦 剛



外来担当医表

歯科顎口腔外科の高頻度疾患は、埋伏歯や炎症性疾患です。しかし口腔内には、さらに専門的診断と治療を必要とする、粘膜の異常や口腔がんを含む腫瘍性病変があります。また、全身疾患の口腔症状としての粘膜炎や粘膜異常が存在し、全身疾患の診断や一貫治療の中での口腔管理が必須となってきます。これらの疾患の診断はしばしば困難で、治療に苦慮すること多いのが実情です。歯科顎口腔外科・疾患制御グループは、口腔内に生じるこれらの異常に対して、「早期発見・正確な診断・早期治療介入・医科診療科連携」を行うことを目的に診療グループ化されました。「口腔内に原因不明の異常が遷延する」場合に受診していただければと思います。口腔領域の異常は症状に乏しく、発症した際には進行していることも少なくありません。早期発見（診断）は外科的治療においても薬物療法でもQOL改善の基盤となります。病理学的診断を含む集学的検査を口腔領域の病変にも取り入れております。高頻度疾患である埋伏歯や炎症性疾患は、歯科顎口腔外科としてグループの区別なく担当しております。

主な対象疾患

口腔粘膜異常：口腔粘膜炎（細菌性・ウイルス性）、潜在的口腔悪性疾患（白板症、紅斑症、扁平苔癬、慢性肥厚性カンジタ症など）、天疱瘡・類天疱瘡、シェーグレン症候群、IgG4関連疾患／口腔がん：口腔扁平上皮癌、唾液腺癌／顎骨腫瘍・う胞：エナメル上皮腫、歯原性角化のう胞／高頻度疾患（歯科顎口腔外科として担当）：埋伏歯、過剰歯、歯性感染症、外傷

口腔維持系診療科

歯科麻酔疼痛管理科

TEL 022-717-8352(外来)

科長 水田 健太郎



外来担当医表

当科では歯科・口腔外科の手術における全身麻酔・鎮静管理を行っています。また一般的な歯科治療が困難な方への対応も行っております。

全身麻酔下での一括歯科治療：歯科治療に対する恐怖心や不安感が強い方（歯科治療恐怖症）、口腔内に治療器具が入ると嘔吐反射が生じる方（異常絞扼反射）、歯科治療が苦手なお子さんは、一般的な方法では歯科治療を受けるのが困難です。当科では複数の歯科診療科と連携し、全身麻酔下での歯科治療をチーム医療として行っています。一括で歯科治療を行いますので、通院での歯科治療に比べて治療回数を大幅に減らすことができます。

歯科外来での鎮静麻酔管理（鎮静）：鎮静薬を静脈内に投与し、歯科治療中に感じる不安や緊張を軽減してリラックスした状態で歯科治療を受けていただく方法です。抜歯やインプラント埋入などの処置のときや、歯科治療恐怖症、異常絞扼反射がある方に対して行っています。

局所麻酔薬アレルギー検査：病歴から局所麻酔薬アレルギーが強く疑われる方に対して、局所麻酔薬の即時型皮膚反応検査（プリックテスト、皮内テスト）やチャレンジテストを行っています。

主な対象疾患

歯科、口腔外科手術全般の麻酔管理（全身麻酔、静脈内鎮静法）
歯科治療恐怖症
異常絞扼反射（嘔吐反射）
局所麻酔薬アレルギー

口腔修復系診療科

歯内療法科

TEL 022-717-8337(外来)

科長 齋藤 正寛



外来担当医表

近年飛躍的な進歩を遂げた歯を保存する治療技術は、標準治療としてグローバルに発展し、予知性を確実に高めてきました。歯内療法科では、標準治療として手術用顕微鏡を用いた根の治療、ミニマルインターベンションを軸とした虫歯治療を行っています。虫歯治療は審美性の高いコンポジットレジンを用いたメタルフリー治療を中心に、根の治療に関しは、ラバーダム防湿、手術用顕微鏡、Ni-Tiファイルを使用した術式を採用し、治療抵抗例には、手術用顕微鏡下で実施する外科的歯内療法を実施しております。

当科では再生医療を得意分野としております。例として自己修復能力の低下している難治性疾患に対して積極的に機能回復を導くため、自己血を用いた再生医療を根尖性歯周炎治療に応用しています。また幹細胞移植療法の導入も進めており、東北における再生医療の普及化活動も進めています。またマルファン症候群、炎症性腸疾患を含む難病の歯科治療にも取り組んでおり、歯内療法を中心にリスクの高いケースに対する治療技術の開発にも取り組んでいます。

主な対象疾患

う蝕
歯髄炎
根尖性歯周炎
歯根嚢胞
難病の歯科治療：マルファン症候群
炎症性腸症候群（クローン病、潰瘍性大腸炎）
皮膚疾患の歯科治療：掌蹠膿疱症

口腔修復系診療科

咬合修復科

TEL 022-717-8364(外来)

科長 江草 宏



外来担当医表

咬合修復科では、口腔内の感染と咬合力の制御を基本とし、歯の喪失をこれ以上拡大しないためのエビデンスに基づいた補綴歯科治療を行っています。補綴歯科治療全般を担当し、特に日本補綴歯科学会の定める専門性の高い難症例を治療します。その他特色ある診療として、審美補綴歯科治療、歯周補綴治療、金属アレルギー歯科治療、スポーツマウスガードの製作・提供などに積極的に取り組んでいます。

当科では最新のデジタル歯科技術を導入し、CAD/CAMや3Dプリンターを活用したメタルフリー歯科治療を提供しています。健康保険診療では、臼歯におけるCAD/CAM冠やグラスファイバー補強高強度コンポジットレジンブリッジ治療を数多く行っています。メタルフリー補綴治療には、症例に適した歯冠修復材料およびセメントの選定や、接着技法の専門知識が求められます。当科では、長年蓄積した臨床データと最新の学術情報を治療にフィードバックし、治療の長期予後を高めるよう努めています。また、歯科インプラントセンターと連携し、各症例に最適な上部構造の材料選択から専門性の高いインプラント補綴治療を提供します。

主な対象疾患

- 歯質・歯の破折や欠損：う蝕、歯周病、著しい顎堤吸収などによる咀嚼障害、発音障害、審美障害
- 補綴装置のトラブル：義歯、クラウン、ブリッジの破折
- 噛み合わせの異常：ブラキシズム（歯ぎしり）、咬耗症、すれ違い咬合、咬合平面の乱れ、咬合崩壊、低位咬合、顎関節症
- オーラルフレイル：口腔機能低下症、全身疾患に起因する摂食機能障害
- その他：歯科金属アレルギー、睡眠時無呼吸症候群、スポーツ外傷予防（マウスガード）

口腔回復系診療科

咬合回復科

TEL 022-717-8364(外来)

科長 江草 宏



外来担当医表

咬合回復科は、義歯やインプラントなどの補綴歯科治療により「噛み合わせ」を回復し、口の働きを改善することを専門とします。失われてしまった歯・顎などの一部を装置により再建することによって、歯列・顔貌などの形の回復とともに、「食べる」「しゃべる」「味わう」という人間にとって大切な口の機能の回復・保全を図り、患者さんのQOLの向上・豊かな生活に貢献することを目的とします。

当科では、日本補綴歯科学会の専門医・指導医はもとより、インプラントや顎顔面補綴、顎関節症、睡眠歯科、スポーツ歯科など幅広い専門性を持ったドクターにより構成されており、より高い専門性・エビデンスに基づいた包括的な治療を提供することを心がけております。

新治療技術、新素材を積極的に導入し、患者さんの要望により対応しうる最新治療の提供、新たな治療法の開発にも力を注いでおります。近年では、睡眠時筋電図記録装置による「夜間の歯ぎしり評価」や口腔内スキャナーを使用した「歯の型取り」など治療のデジタル化を積極的に取り入れています。また、顎運動計測装置や咀嚼能力検査装置を使用し、治療効果の見える化を実践しております。

主な対象疾患

- う蝕や咬耗等による歯質欠損
- 少数～多数歯欠損（咬合崩壊・すれ違い咬合などの難症例）
- ブラキシズム（歯ぎしり）
- 顎関節症
- 閉塞性睡眠時無呼吸症（OSA）
- 静脈内鎮静法や全身麻酔下での歯科治療が必要な重度の歯科恐怖症
- 口腔機能低下症
- 摂食嚥下機能障害
- マウスガードによるスポーツ外傷予防

口腔回復系診療科

歯周病科

TEL 022-717-8337(外来)

科長 山田 聡



外来担当医表

当診療科では、歯周病の早期発見と早期治療による口腔の健康確立を目指すとともに、特に中等度以上の歯周病に罹患された患者さんに対して、歯周ポケット検査やエックス線写真などの検査結果をもとに診断を行い、治療計画を立案した上で専門的な歯周治療を実施しています。さらにフラップ手術や歯肉切除術などの標準化された歯周外科手術を含め、先端治療である歯周組織再生手術を実施しています。また、局所的に下がった歯肉などに対して審美性を改善するために歯周形成手術を行うこともあります。また、上記の治療の過程で、歯の欠損部への入れ歯やブリッジの作製、インプラント治療、病的に動いた歯の矯正などを行って、快適に咬めるようにまた審美的にも満足できるようにします。この段階では、当科の担当医と関連診療科の専門医が連携して、それぞれの患者さんに最適な治療を行います。歯周病科には日本歯周病学会および日本歯科保存学会認定の専門医・認定医が数多く在籍しており、最新の専門的な医療の提供を通して大学病院の使命の1つである地域連携について積極的に取り組んでいます。

主な対象疾患

- 歯肉炎
- 歯肉増殖症
- 慢性歯周炎
- 侵襲性歯周炎
- う蝕
- 歯髄炎
- 根尖性歯周炎

口腔回復系診療科

口腔機能回復科

TEL 022-717-8397(外来)

科長 服部 佳功



外来担当医表

口腔機能回復科は、歯学研究科リハビリテーション歯学講座加齢歯科学分野が運営する歯科部門の診療科です。昨年度に高齢者歯科治療部と口腔機能回復科が統合され、現在の診療科となりました。診療科の機能は、高齢者の口腔機能の維持・管理です。高齢者の顎口腔は、生理的な加齢変化に加え、積年の病的変化の蓄積により、歯数の減少、唾液分泌低下、顎顔面や顎部の筋力低下などが生じ、咀嚼や嚥下、発音などの口腔機能を低下させるのみならず、低栄養やフレイルのリスクを高めます。一方、高齢期の運動機能や認知機能、視聴覚機能などの低下は、口腔衛生状態を悪化させ、口腔機能低下に拍車をかける要因として作用します。当科は、高齢者に安全で優しい可撤性義歯による欠損補綴治療を中心に、多様な治療手段を駆使して、高齢者の口腔機能の維持・管理に努めます。外来受診が困難なゆえに歯科医療の受療機会を失いがちな要介護高齢者等に対しては、居宅や入所中の施設、入院中の病院を訪問する歯科訪問診療を提供しています。こうしたアウトリーチ機能を備える診療科は、当院歯科部門では当科のみです。

主な対象疾患

当科は日本補綴歯科学会および日本老年歯科医学会の専門医研修施設です。代表的な対象疾患は、高度顎堤吸収や下顎位不安定などによる可撤性義歯の難症例をはじめとする欠損補綴症例、高齢者の口腔機能低下症、咀嚼障害や嚥下障害です。摂食嚥下機能のリハビリテーションについて、当科は当院嚥下センターに参加し、摂食嚥下障害のリハビリテーションを行っています。歯科訪問診療では、当院独自の診療活動に加え、仙台歯科医師会の在宅訪問歯科診療事業の後方支援を担っています。



外来担当医表

特殊診療施設

障がい者歯科治療部

TEL 022-717-8408(外来)

完全予約制

部長 水田 健太郎

当治療部では知的能力障害などの基礎疾患により、歯科診療を受ける際に特別な配慮が必要な方に、安心して治療に臨めるように歯科診療導入に向けたトレーニングから、う蝕・歯周病管理を含む定期的な予防管理などの、一般歯科診療全般を実施しています。歯科治療が困難な場合には、患者さんの疾患特性に応じて、大きく二つのアプローチにより歯科への適応行動を促しています。一つは心理的手法により適応行動を引き出すこと、もう一つは精神鎮静法や全身麻酔法などによる薬理学的手法により現状の適応で歯科治療を行う方法で、その際は歯科麻酔疼痛管理科と連携し実施しています。

診療には、日本障害者歯科学会認定の専門医や認定医を含む歯科医師が従事し、患者さんの障害の特性に配慮した歯科診療を心がけております。診療は個室で行い、外部からの刺激を遮断することで、歯科診療に向けてのトレーニングや、歯科診療時に周囲の環境から患者さん本人が影響を受けないよう配慮をしています。障害のある方の口腔の生涯にわたる健康支援を通じて、障害のある方のQOLの維持に貢献していきたいと考えています。

主な対象疾患

当治療部では歯科治療に対して協力を得ることが難しく、一般の歯科医院では受け入れが困難である方の、歯科治療導入へのトレーニングや、う蝕(虫歯)の治療や歯周疾患の管理などの一般的な歯科医療を行っています。具体的には、知的能力障害や自閉スペクトラム症、注意欠如・多動性障害などの発達障害、脳性麻痺や筋ジストロフィーなどの身体障害、そのほか、先天異常や染色体異常など一般的な歯科治療を行う上で意思疎通の困難がある方、歯科治療を行うこと自体が身体的に大きな負担になる方など、特別な配慮を必要とする患者さんを対象としています。



外来担当医表

特殊診療施設

総合歯科診療部

TEL 022-717-8410(外来)

部長 菊池 雅彦

当診療部は、2006年度から必修化された歯科医師臨床研修の管理・運営・指導の中心的役割を担っており、毎年、本学歯学部のほか全国の大学から多数の研修医を受け入れています。う蝕や歯周病の治療、義歯治療などのいわゆる高頻度治療を必要とする患者さんに対し、口腔全体を一つの単位として捉えた「一口腔一単位」の診療指針に基づき、新患診査から予防管理に至るまでの一連の歯科医療を研修医が担当医となって実践しています。研修医には日頃より、本学歯学部臨床教育の理念である「考える歯科医師の養成」に則り、患者さんのことを第一に考え、安心・安全で懇切丁寧な診療を行うよう指導しております。なお、症例の種類や全身状態によっては、専門診療科に依頼する場合があります。

また、当診療部では、2021年度より新患予診業務を担当しております。歯科部門には多数の専門診療科がありますが、どの専門診療科に紹介すればよいか判断できない患者さんにつきましては、一旦、当診療部にご紹介ください。研修医と共に診察後、適切な専門診療科を紹介し受診していただきます。

主な対象疾患

新患予診では、高校生以上の患者さんの歯科疾患全般を対象とします。中学生までの患者さんは直接、小児歯科をご紹介ください。また、抜歯依頼や腫瘍、補綴難症例、インプラント治療、矯正治療など依頼内容が明らかな場合は、直接、それぞれの専門診療科にご紹介いただいた方が、新患日の患者さんの時間的な負担が軽減され、診察・検査等の流れがスムーズに進みます。病院案内をよくご覧になったうえでご紹介ください。なお、研修医が担当して診療を行うことに同意される患者さんにつきましては、当診療部で診療を行うことがありますのでご了承ください。

特殊診療施設

顎口腔機能治療部

TEL 022-717-8412(外来)

完全予約制

部長 五十嵐 薫

顎口腔機能治療部は、頭蓋顔面領域の先天性疾患を有する患者さんを主な対象として、調和のとれた機能的な歯並び・咬み合わせを形成し、良好な発音ができるようにする専門外来です。当治療部は東北大学病院唇顎口蓋裂センターにおいて、院内他科とチーム医療を実施しています。矯正歯科治療室(頭蓋顔面先天異常グループ)では、口唇裂・口蓋裂などの頭蓋顔面先天異常のある小児を主な対象として、生後間もなくから治療を行っています。裂が大きく、重度の組織変形を伴う唇顎口蓋裂の新生児に対して、硬質レジンで作製した口蓋床を用いた術前顎矯正治療を行っています。授乳が楽になるとともに、裂を狭め、裂側鼻軟骨を矯正することによって、口唇形成手術等を容易にする効果が得られます。マルチブラケット装置による本格矯正歯科治療では歯科矯正用アンカースクリューを積極的に併用し、良好な治療結果が得られるようになってきました。言語治療室では、言語聴覚士2名が主に口蓋裂に特有の器質性構音障害に対する専門的な言語訓練を行っています。院内他科や地域のことばの教室と連携して、質の高い言語治療を提供しています。

主な対象疾患

口唇裂・口蓋裂、顔面裂(斜顔裂、横顔裂、正中顔裂など)、ベックウィズ・ヴィーデマン症候群、マルファン症候群、先天性外胚葉形成不全、頭蓋骨縫合早期癒合症(クルーゾン症候群、アペール症候群など)、ロバンシークエンス(ピエール・ロバン症候群)、トリーチャー・コリンズ症候群、第一第二鰓弓症候群(ヘミフェイスルマイクロソミア)、鎖骨頭蓋骨異形成症、軟骨無形成症、染色体異常(ダウン症候群、ターナー症候群など)、6歯以上の先天性部分無歯症、その他の顎口腔の先天異常、顎変形症、前歯及び小臼歯のうち3歯以上の萌出不全による咬合異常

特殊診療施設

顎顔面口腔再建治療部

TEL 022-717-8581(外来)

部長 小山 重人

顔面口腔再建治療部では腫瘍手術や外傷、先天性疾患などによって、口腔を形作る骨や組織、顔面の一部を失った方を対象に、その機能と形態および審美性を回復する顎顔面補綴治療を専門に行っています。顎顔面補綴には、顎骨の欠損部を非観血的にあるいは手術等の併用により人工物で補填する顎補綴(顎義歯)と、顔表面を含む実質欠損部を補填修復する顔面補綴(エビテーゼ)があります。最近ではインプラント義歯である「広範囲顎骨支持型装置及び広範囲顎骨支持型補綴」が保険導入され、顎顔面欠損患者に積極的に歯科インプラントの適用を図っています。また、デジタル歯科診療を応用した顎骨再建補綴治療など先端の診療にも取り組んでいます。医歯境界領域の専門診療チーム医療である嚥下治療センターにおいては、頭頸部腫瘍術後(舌接触補助床(PAP)、軟口蓋挙上装置(PLP)や顎義歯で患者介入)の摂食嚥下・リハビリテーションに取り組んでいます。顎義歯は患者口腔内形態を回復することができ、PAPは舌の口蓋への接触を容易にし、PLPは鼻咽腔を閉鎖しますが、これらを適用することにより、嚥下機能の改善を図っています。

主な対象疾患

先天性、腫瘍手術、MRONJ、外傷後の歯・顎欠損による咀嚼障害、審美障害、発音障害、摂食嚥下障害、口腔機能低下症
先天性、腫瘍手術、外傷後の顔面欠損(目、耳、鼻、指など)による審美障害
口唇口蓋裂による咀嚼障害、審美障害、発音障害
顎骨再建補綴症例



外来担当医表



診療科WEB
外来担当医表



院内共同利用施設

口腔内科・リエゾンセンター

TEL 022-717-8708(外来)

センター長 服部 佳功

主な対象疾患

当科は日本口腔内科学会、日本口腔顔面痛学会および日本顎関節学会の専門医研修施設です。口腔粘膜疾患（白板症、口腔扁平苔癬、口腔カンジダ症、天疱瘡、頬天疱瘡、単純ヘルペス、帯状疱疹など）、唾液腺疾患（口腔乾燥症、シェーグレン症候群、唾液腺炎など）、口腔心身症（舌痛症、咬合異常感症など）、顎関節疾患（顎関節症など）、味覚障害などが代表的な対象疾患です。

口腔内科・リエゾンセンターは、2021年4月に開設された、歯科部門の新たな専門外来です。歯科疾患といえば齲蝕や歯周病、それらに起因する歯の欠損が代表的ですが、それ以外にも顎関節症や口腔乾燥症、白板症や口腔扁平苔癬などの粘膜疾患、唾液分泌低下やそれ以外の原因で口渇感を生じる口腔乾燥症、味覚障害、金属アレルギーなど、じつに多くの疾患が存在します。それらは口腔固有の疾患や病変ばかりでなく、口腔以外の疾患や免疫応答などに伴って生じる口腔病変であったり、口腔領域に徴候を表す症候群の部分症状であったり、しばしば集学的な対応が必要です。歯科部門の多くの専門診療科に籍を置く歯科医師が集う本センターでは、これら疾患に対して非外科的な方法による管理を提供します。



診療科WEB
外来担当医表



特殊診療施設

周術期口腔健康管理部

TEL 022-717-8930(外来)

完全予約制

部長 飯久保 正弘

主な対象疾患

全身麻酔下の手術を受けられる患者さんの口腔管理
心臓血管手術や人工関節置換術等の手術を受けられる患者さんの口腔管理
ステロイド剤や骨粗鬆症治療薬を使用される患者さんの口腔管理

各分野の専門歯科医師による集学的な医療を提供するだけでなく、歯科衛生士による口腔ケアとセルフケアの指導を行っています。

近年、手術前後の口腔清潔を行うことで術後合併症の発生が抑制できることが明らかとなり、がん手術、放射線治療、化学療法、心臓血管手術、臓器移植術、人工関節置換術などを受ける患者さんに対する「周術期口腔機能管理」は国策として推進されております。歯科部門では、全ての医科部門診療科の入院患者さんに対する歯科への紹介窓口として2015年4月に周術期口腔支援センターを設置し、迅速に入院患者さんの口腔管理に対応出来る体制を整備しました。2021年4月からは、増え続ける医科部門からのニーズに対応すべく、「周術期口腔健康管理部」に名称を変更し、専任歯科医師を配置し医科歯科連携の更なる強化に努めております。当治療部は、入院患者さんが当院で安心して入院治療を受けていただけるように、口腔管理という立場から全身の健康をサポートしています。また、入院前からの口腔管理の依頼等の前方支援業務、退院時の地域歯科医療機関への紹介や診療依頼等の後方支援業務を管理する地域連携のハブとして機能しています。



診療科WEB
外来担当医表



院内共同利用施設

嚥下治療センター・歯科

TEL 022-717-8581(外来)

完全予約制

副センター長 小山 重人

主な対象疾患

嚥下障害により口から食べることが難しい症例、誤嚥による肺炎を繰り返す症例、およびその危険性のある症例／口腔領域の腫瘍手術、化学・放射線療法後の顎欠損・舌欠損等による摂食嚥下障害（安全に飲み込む力の低下）および口腔機能低下症（食べる力の低下）のある症例／舌接触補助床（PAP）、軟口蓋挙上装置（PLP）を用いた摂食嚥下治療が必要な症例／口腔ケア・管理による誤嚥性肺炎の予防、摂食嚥下訓練が必要な症例

医科診療部門には、「東北大学病院嚥下治療センター」が設置されており、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、リハビリテーション科、歯科、看護部、リハビリテーション部門、管理栄養室、歯科衛生室などの多職種のメンバーが参画し、検査、カンファレンス、治療を実施しています。歯科診療部門においても、主に医科への患者紹介に対して少しハードルを感じている歯科医師の皆さまへの窓口とするため、「嚥下治療センター・歯科」としての運用がなされています。当センターの特長である医科歯科連携を活かした体制から、より多くの食べることに困っている患者さんを診察することができるように努めています。

対象は、嚥下障害が疑われる地域医療施設からの紹介患者さん、当院歯科外来に通院する嚥下障害患者さん、歯科治療後も口腔機能低下症に該当する患者さん等になります。必要に応じ、上記カンファレンスを通じて医科と密な連携を行います。地域医療を担う歯科関連の皆さまと病診連携を充実させ、摂食嚥下リハビリテーションが行える診療体制を確立すること、さらには、教育研修制度の開発・提供・実施を企画し、地域医療に貢献することを目指します。



診療科WEB
外来担当医表



院内共同利用施設

歯科インプラントセンター

TEL 022-717-8426(外来)

センター長 小山 重人

主な対象疾患

う蝕、歯周病、外傷、歯根破折等による歯の欠損
インプラント周囲歯肉炎・インプラント周囲炎
[保険適用インプラントの対象]
・腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等により、広範囲な顎骨欠損又は歯槽骨欠損症例（歯周疾患及び加齢による歯槽骨吸収は除く）またはこれらが骨移植等で再建された症例で、連続した4歯相当以上の顎骨欠損
・医科医療機関の主治医の診断に基づく顎顎口蓋裂、もしくは外胚葉異形成症候群等の先天性疾患で連続した1/3程度以上の多数歯欠損
・6歯以上の先天性部分無歯症または3歯以上の前歯永久歯萌出不全であり、連続した1/3程度以上の多数歯欠損

歯科インプラント診療は治療技術の進歩により適応範囲の拡大・高度化が進んでいます。さらに患者さんの高齢化や全身疾患などを合併している割合も年々増加しているため、より高度な集学的治療が必要とされています。このような状況下、歯科インプラントセンターでは治療に関わる複数の部局の連携による安全で高度なチーム医療を提供しています。また、相談からメインテナンスまでを含む包括的かつ先進の歯科インプラント治療に取り組み、3次元デジタル技術を導入し、画像診断からガイドドサージェリー、印象採得さらにインプラント上部構造作製等に活用しています。腫瘍切除等による大きな顎欠損や、顎口蓋裂など先天性疾患に対する「広範囲顎骨支持型装置及び広範囲顎骨支持型補綴」が保険導入されました。このような難症例に対して、病院機能を活用した全身管理のもと、医療安全に重点を置いた安全かつ高度で先進的な診療を実施しています。一連のインプラント治療が終了した後も、インプラントの予後を良好に保つために、定期的に来院していただく専門的インプラントメンテナンスコースを用意しています。

CENTRAL CLINICAL FACILITY, etc

中央診療施設／特殊診療施設／院内共同利用施設等

看護部	42	集中治療部	45	唇顎口蓋裂センター	48
薬剤部	42	病理部	45	摂食障害治療支援センター	48
診療技術部	43	輸血・細胞治療部	46	てんかんセンター	49
医療安全推進室	43	高度救命救急センター	46	個別化医療センター	49
感染管理室	43	周産母子センター	46	デイサージャリーセンター	49
がんセンター	43	血液浄化療法部	46	嚥下治療センター	49
検査部	44	臓器移植医療部	47	睡眠医療センター	50
手術部	44	メディカルITセンター	47	ジェンダー医療センター	50
放射線部	44	歯科医療管理部	47	脳卒中・心臓病等総合支援センター	50
生理検査センター	44	WOCセンター	47	産業衛生外来	50
技工室	45	栄養管理室	48		
歯科衛生室	45	消化器内視鏡センター	48		

診療技術部

部長 藤巻 慎一 | TEL 022-717-7374



WEBサイト

診療技術部は、医療系国家資格者（臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床心理師、臨床工学士、歯科技工士、歯科衛生士、管理栄養士、社会福祉士、精神保健福祉士など13職種）約340名からなるメディカルスタッフの組織です。関連領域毎に8部門に分かれ、スタッフ個々の専門性や有機的なチーム連携を強みとした医療技術を患者さんへ安全・安心に提供することが我々の使命であると考えています。



医療安全推進室

室長 田畑 雅央 | TEL 022-717-7561 (医療安全推進室受付)



WEBサイト

医療安全推進室は、医療事故（有害事象）による患者さんへの被害を防止し医療の質と安全性を向上させるための各種活動を行っています。特定機能病院である当院の基本理念である「患者さんに優しい医療と先進医療との調和を目指した病院」に沿うよう、より安全に、高度な医療を提供できるようなシステムを構築するため、多職種が協力して日々努力をしています。



看護部

部長 浦山 美輪 | TEL 022-717-7551 (看護管理室)



WEBサイト

高度先進医療を提供するために、看護師にも高度な知識や技術が求められます。そのため、ラダー別に年間50以上の院内研修が行われ、所属部署では、教えられた側が次に教える側になる、屋根瓦式の充実した教育体制が整っています。また、がん看護とクリティカルケアの実践力と教育力を持つ院内認定のAOBAナースが人材育成をサポートし、30名を超える認定看護師、専門看護師が、チーム医療の一員として専門的なケアを牽引しています。



感染管理室

室長 徳田 浩一 | TEL 022-717-7841



WEBサイト

感染制御の資格を有する医師、看護師、薬剤師、検査技師、事務職員など多職種で構成されたチーム（ICT）が院内感染対策の実践、感染症や感染制御に関する職員教育等を行っています。主な活動：ICT院内ラウンド、感染症コンサルテーションと症例カンファレンス、抗菌薬適正使用支援（AST）活動、院内感染対策講演会、行政や地域医療機関との連携



薬剤部

部長 眞野 成康 | TEL 022-717-7528 (薬剤部受付)



WEBサイト

「薬物療法の適正化を通じて、医療の質と安全の向上を目指す」を薬剤部の方針の一つに掲げ、薬剤業務を展開しております。患者さんの入院から退院までの薬学的ケアだけでなく、がん化学療法を含む外来診療にも積極的に関与しています。さらに患者さんの在宅セルフケアをサポートするため、保険薬局ともさまざまなツールを用いて連携し、シームレスな薬物療法の管理を目指しています。



がんセンター

センター長 神宮 啓一 | TEL 022-717-7995 (がんセンター事務局)



WEBサイト

当院は全国の大学病院に先駆けて都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、その後小児がん拠点病院やがんゲノム医療中核拠点病院にも指定され、当センターは東北地方のがん医療の中心となる医療機関のがんセンターとなり、標準治療の普及、正しいがん医療情報の提供、院内がん登録の推進、がんゲノム医療や臨床試験・治験を含む高度がん医療の推進、がん専門の医療従事者の養成などを通じて東北地方のがん医療に貢献しています。



検査部

部長 亀井 尚

TEL 022-717-7374(臨床検査技師長室)



WEBサイト

検査部には、血液検査室、尿一般検査室、生化学検査室、免疫血清検査室、遺伝子検査室、微生物検査室に加え、夜間・休日検査室があります。当部門は東北大学病院の高度先進医療を支える重要な部門であり、質の高い検査結果を迅速に提供しています。また検査結果で異常値が認められた場合は、ただちに主治医へ情報提供する体制を取っています。検査部は365日・24時間体制で対応しており、2011年以降、臨床検査室に特化したISO15189認証を取得し、現在に至っています。



手術部

部長 海野 倫明

TEL 022-717-7403(手術部受付)



WEBサイト

当院手術部は、COVID-19対応の感染症用陰圧手術室、術中MRI脳神経外科手術室など最新の設備を備えた全21室からなる、国立大学病院最大級の手術部です。手術部を支える手術看護師数は86名と大変手厚く、一部の手術を除き手術前には手術部スタッフが訪問いたします。ご不安な点やご質問があればぜひお話しください。安心して手術が受けられるよう、ご説明いたします。



放射線部

部長 神宮 啓一

TEL 022-717-7419(放射線部受付)



WEBサイト

放射線部では、単純X線撮影、マンモグラフィ、CT、MRI、各種透視、歯科診療、血管造影などの画像診断、PET/CTを含めた核医学検査、低侵襲のIVR治療、および次世代放射線治療装置であるMRリニアックや高精度放射線照射を含む放射線治療の業務を、最新の技術で、医療被曝の適正化にも配慮しながら行っています。



生理検査センター

部長 中里 信和

TEL 022-717-7385(生理検査センター受付)



WEBサイト

生理検査センターは各診療科に公平な生理検査の提供・業務の拡充、地域医療に貢献しています。教育では全ての検査項目において独自の教育プログラムを作成し、効率よくスタッフの教育と管理を行っています。研究では各診療科との共同研究や研究協力を積極的に行い、日々進化する医療に合わせた取り組みとさまざまなニーズに対応した臨床・教育・研究すべての業績上昇を目指しています。



技工室

室長 江草 宏

TEL 022-717-8421(中央技工室)



WEBサイト

技工室は、従来の歯科技工に加え、デジタル技術を用いた補綴装置、歯科インプラントのアルバイト、術前顎骨モデルやサージカルガイドなどを製作しています。また、顎骨欠損に対する顎義歯、顔面欠損に対するエピテーゼや気管挿管に使用する歯の保護装置にも取り組んでいます。さらに、医科部門に術前シミュレーションに役立つ臓器モデルを提供するなど、病院診療に幅広く貢献しています。



歯科衛生室

室長 山田 聡

TEL 022-717-8414(歯科衛生士長室)



WEBサイト

歯科衛生室では、全身麻酔下での歯科治療やインプラント埋入手術での介助のほか、入院・手術前後の患者さん、放射線・化学療法中の患者さん、臓器移植患者さん等の専門的口腔衛生処置や口腔機能管理に携わっています。QOLの向上を目指して、治療に伴う口腔粘膜疾患の管理や、術後肺炎の予防、合併症の軽減などに関わり、早期に経口栄養摂取ができるように歯科衛生の観点からの患者支援に努めています。



集中治療部

部長 山内 正憲

TEL 022-717-7690(集中治療部受付)



WEBサイト

当院の集中治療室は、国立大学で初めて開設された伝統をさらに発展し、ICU18床とHCU12床の合計30床で構成されています。広い医療圏を持つ当部門は、東北・北海道中から重症患者さん受け入れており、移植手術や心臓手術を始めとした大手術の術後管理、呼吸不全・循環不全に対するECMOを含めた体外循環管理、重症感染症、多臓器不全、稀有な遺伝子疾患など、昼夜を問わず24時間体制で集約的な治療を提供しています。



病理部

部長 鈴木 貴

TEL 022-717-7440(病理部受付)



WEBサイト

病理部は、患者さんから採取された組織や細胞について、顕微鏡標本を作成し診断を行う部門です。近年では種々の疾患について、治療法の選択に必要な情報提供を行うなど、直接患者さんと接することはありませんが、臨床医を通して診療に深く関わっています。また病気のために亡くなられた患者さんの死因、病気の成り立ちを解明するために、ご遺族の許可を得て病理解剖を行うこともあります。



輸血・細胞治療部

部長 張替 秀郎 | TEL 022-717-7472(輸血・細胞治療部受付)



WEBサイト

専従技師9名(うち認定輸血検査技師8名)により、輸血検査とアルブミンを含む輸血製剤供給に24時間対応しています。院内各部署及びコーディネーターと連携し、自己血採血、自己フィブリン糊作製、ABO各型同種クリオ調製、末梢血幹細胞やリンパ球の採取と調製保管、顆粒球採取、ABO不適合骨髄処理、造血幹細胞検査、ケミリズム検査、移植臍帯血受入、再生医療等製品の調製管理に加え、臓器移植時のリンパ球クロスマッチ業務も開始しました。



臓器移植医療部

部長 岡田 克典 | TEL 022-717-7702(臓器移植医療部受付)



WEBサイト

東北大学病院は心臓、肺、肝臓、膵臓、腎臓、小腸の全ての臓器移植が行える施設であり、また膵島移植実施施設でもあります。2022年末までに604例の臓器移植を行いました。臓器移植医療部は、部長、副部長、スタッフ医師(助教)、レシピエント移植コーディネーター3名、事務補佐員2名からなり、臓器横断的に東北大学病院の臓器移植医療の中心となり、移植を必要とする患者さんやご家族に対する支援を行います。



高度救命救急センター

部長 久志本 成樹 | TEL 022-717-7024(外来)



WEBサイト

救急診療では、“時間”が大切です。緊急性の判断と速やかな治療の開始が大きく転帰に影響します。“緊急を要する病態”であると考えられるときには、適切なタイミングでご紹介ください。集中治療/外傷/熱傷専門施設、ECMOセンターとして広く診療体制を整備しています。また、“外傷再建センター”として、機能的再建が必要な整形外科領域の患者さんの診療を専門チームが積極的に行っています。



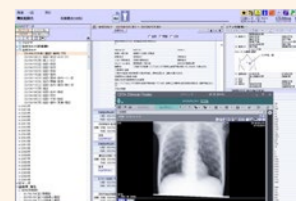
メディカルITセンター

部長 大田 英揮 | TEL 022-717-7504(メディカルITセンター受付)



WEBサイト

医療の質・安全の向上や、診療業務の効率化に寄与するため、電子カルテなどの情報システムの運用や機能改善、電子カルテ記録の定期的な監査などを実施しています。また、安全かつ安定した病院情報インフラを運用するため、コンピュータウイルスなどの脅威から病院情報システムを守る対策や、災害等の緊急事態における継続的事業計画の策定にも積極的に取り組んでいます。



周産母子センター

センター長 齋藤 昌利 | TEL 022-717-7711(周産期救急搬送コーディネート受付)



WEBサイト

産科ではハイリスク妊娠・分娩管理を中心に診療を行っています。年間の分娩数は約850件です。他科と連携し緊急症例などにも対応しています。

新生児室は病床数33床で、生育限界児、母体合併症児、先天疾患の児などを中心に診療します。年間入院患者数は約300名(超低出生体重児30名、人工呼吸管理80名、外科手術約20名)です。



歯科医療管理部

部長 江草 宏 | TEL 022-717-8431(歯科医療管理部)



WEBサイト

歯科医療管理部は、歯科部門における医療安全と感染対策を中心とし、歯科医療情報管理、歯科医療機器や器材の管理、職員等の安全衛生など、歯科医療を行う上で必要となるさまざまな役割を担っています。(写真は、患者さんの転倒転落防止の一環として、リハビリテーション部のご協力により行われた車椅子から歯科用ユニットへの移乗講習会の様子。)



血液浄化療法部

部長 宮崎 真理子 | TEL 022-717-7467(血液浄化療法部受付)



WEBサイト

血液浄化療法部では2022年、全診療科にわたる腎不全患者の入院中の血液透析を2,132件、血漿交換142件、腹水ろ過濃縮再静注を43件行いました。集中治療室や高度救命救急センターでの持続血液ろ過透析1,380件、エンドトキシン吸着36件は全国有数の実績です。多職種で構成されたチームが高い技術で医療を提供するだけでなく、医療関係者向けのセミナーなどを通じて血液浄化療法の発展に貢献しています。



WOCセンター

センター長 海野 倫明 | TEL 022-717-7652(WOCセンター受付)



WEBサイト

WOCとは、Wound Ostomy Contineceの略で、Woundは創傷(褥瘡・瘻孔)のこと、Ostomyは手術で作成された人工肛門や人工膀胱のこと、Contineceは尿や便の失禁のことを示します。当センターでは、これらの診療上の問題に関して皮膚・排泄ケア認定看護師と各診療科の医師が診療科の枠を超えて連携することで専門性の高い医療を提供しています。なお、診療は予約制ですので事前に上記受付まで電話連絡をお願いします。



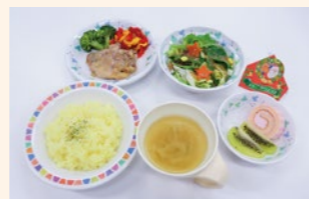
栄養管理室

室長 香取 幸夫 | TEL 022-717-7119/7120(栄養管理室受付)



WEBサイト

東北大学病院の栄養管理室は、「患者さんひとりひとりに優しく配慮し、病院での治療の一環として栄養管理を行う」ことを理念とし、栄養管理手順に則り、16名の管理栄養士が栄養評価、アセスメント、栄養介入を行っています。他職種と意見を交えて、患者さんの疾患・病状・摂食嚥下機能に合わせた食事を設定するとともに、行事食や特別メニューの提供など、入院中の患者さんが食時を楽しめる企画を行っています。



てんかんセンター

センター長 中里 信和 | TEL 022-717-7751(てんかん科外来)



WEBサイト

厚労省の「てんかん地域診療連携整備事業」により平成27年度に発足しました。てんかんは脳の局所的異常興奮を本態とする「てんかん発作」を繰り返す疾患で、乳児から高齢者まで何歳からでも発症します。発作以外の合併症や、病名への偏見や蔑視、差別という社会的問題も少なくありません。当センターでは多くの診療科が連携して医学的問題を解決するとともに、多職種連携により患者さんや家族を心理社会面から支援し、啓発活動にも力をいれています。



消化器内視鏡センター

センター長 正宗 淳 | TEL 022-717-7767(消化器内視鏡センター受付)



WEBサイト

消化器内視鏡センターでは、年間約13,000件の内視鏡が行われています。全個室の検査室に最新のシステムを配置、拡大内視鏡・バルーン内視鏡・カプセル内視鏡・極細径(経鼻)内視鏡・超音波内視鏡・顕微鏡レベルの生体観察可能なEndoCytoスコープを保有し、消化器内視鏡学会専門医、指導医、消化器内視鏡技師(看護師)、臨床工学技士(MEセンター)が協力し最先端の医療を提供しています。



個別化医療センター

センター長 石岡 千加史 | TEL 022-717-8480



WEBサイト

当センターは患者さんのゲノム・オミックス情報を活用してひとりひとりに最適な治療を提案する「個別化医療」を開発・推進する取り組みを行っております。診療部門ではがん診療に関わる診療科が参加しがんゲノム医療であるがん遺伝子パネル検査を行っております。研究部門では病院バイオバンク事業を行い、ゲノム・オミックス解析による次世代の個別化医療研究に役立たせております。



唇顎口蓋裂センター

センター長 今井 啓道 | TEL 022-717-7748



WEBサイト

これまでの治療チームを発展させ2010年に発足した唇顎口蓋裂をはじめとする生まれつきの顔の病気を治療するセンターです。顔の病気は、医科と歯科、及び言語聴覚士など多職種が連携して治療する必要があります。本センターは医科歯科が連携したチーム医療に加え、公認心理士も外来治療に参加した全国でも数少ない施設です。超音波にて胎児診断を受けた御両親へのカウンセリングも行っています。受付は窓口である形成外科の新患外来で承っています。



デイサージャリーセンター

センター長 國方 彦志 | TEL 022-717-7757(眼科外来)



WEBサイト

眼科の日帰り手術をご希望の患者さんは、外来受診時に医師にぜひご相談ください(現在の対象疾患:白内障、翼状片など)。本センターの手術設備は、当院の入院手術設備と変わらない高いレベルであり、経験豊富な医師が万全を尽くして執刀いたします。当院の外来5階デイサージャリーセンターにおいて、スタッフ一同、皆さまをお待ちしています。



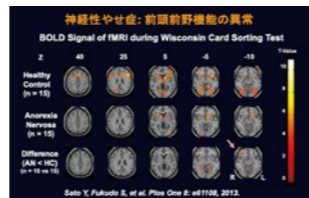
摂食障害治療支援センター

センター長 福土 審 | TEL 022-717-7734(外来)/7328(コーディネーター)



WEBサイト

摂食障害の窓口として、医療連携、患者家族支援、普及啓発活動を行っています。代表疾患が神経性やせ症、神経性過食症、回避制限性食物摂取症です。神経性やせ症は全身の臓器に異常が及ぶ疾患で、致死率が高いため、早期治療が重要です。活動は、院内組織のセンターが宮城県摂食障害支援拠点病院の名称にて、国(厚生労働省)の事業かつ自治体の支援を受けています(心療内科P.15参照)。早期発見・治療と患者さんの地域医療での継続診療の連携をお願いします。



嚥下治療センター

センター長 香取 幸夫 | TEL 022-717-7755(耳鼻咽喉・頭頸部外科外来)



WEBサイト

口から食べることが難しい患者さん、誤嚥による肺炎を繰り返す患者さん、およびその危険性のある患者さんの検査と治療を行っています。耳鼻咽喉・頭頸部外科、歯科、歯科衛生室、リハビリテーション科・部、看護部、栄養管理室、薬剤部等多くのスタッフが協力し、医科と歯科の両方の窓口で患者さんのご紹介に対応しています。摂食嚥下機能の評価と治療(口腔ケア、摂食嚥下訓練、手術治療)に関して、広くご紹介をお待ちしています。



睡眠医療センター

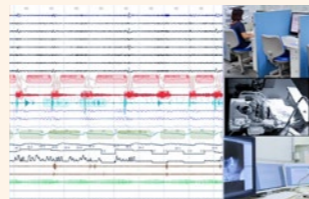
センター長 小川 浩正

TEL 022-717-8740



WEBサイト

睡眠障害には、睡眠呼吸障害、レム睡眠行動障害、レストレスレッグス症候群、歯ぎしり、中枢性過眠症など、さまざまな疾患が関係しています。時に複数の疾患が合併していることもあり、総合的かつ専門的に検査・診断することが必要となります。睡眠医療センターは、大学病院の強みをいかし、内科・外科・歯科の関連診療領域での検査・治療を集約化して包括的に睡眠障害に対する医療を提供します。ぜひ当睡眠医療センターをご利用ください。



ジェンダー医療センター

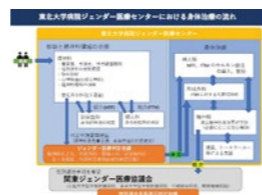
センター長 富田 博秋

TEL 022-717-7737(精神科外来受付)



WEBサイト

生物学的な性と自認する心理的・社会的な性が一致しない性別不合(別称:性別違和、性同一性障害)を有する方には、自認する性別に身体を適合する医療が施行され、法律やガイドラインの整備が行われてきていますが、東北地方は長年これらの医療体制の空白地域でした。本ジェンダー医療センターは、当面、関東の医療機関と連携して、性別不合の身体治療の適否判定、ホルモン療法や手術への導入に取り組み、今後、順次、医療格差の解消に努めて参ります。



脳卒中・心臓病等総合支援センター

センター長 安田 聡

TEL 022-717-8735



WEBサイト

循環器病では、症状の変化に応じた医療・介護・福祉など多岐にわたる支援が必要となります。宮城県/東北大学病院では、国のモデル事業として全国12か所の「脳卒中・心臓病等総合支援センター」の一つに選定され、2022年9月より「脳卒中・心臓病相談窓口」を設置しております。患者さんやご家族の不安、さまざまな疑問に対して、医師、看護師をはじめ各種福祉士、理学療法士、薬剤師など多職種での相談支援を行います。ぜひご利用ください。



産業衛生外来

環境・安全推進センター、産業医学分野

黒澤 一

TEL 022-717-7732(外来)/7874(医局)



WEBサイト

病気や症状が職業関連である場合、働く環境の整備や就業措置が必要になることがあります。労働安全衛生法に基づく法定の特殊健康診断後の対応には産業医の専門的な判断が助けになります。職場の喫煙対策や禁煙教育等についても産業医が職場に助言する立場です。お困りの労働者の症例に関する対応と一緒に検討させていただきます。なお、直接的な治療は行いません、ご承知おきください。



HOSPITAL OVERVIEW

病院概要

[令和5年4月1日現在]
April. 1. 2023

名称	国立大学法人東北大学 東北大学病院	
所在地	〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号	
病院長	張替 秀郎	
建物規模	地上18階 地下2階	
標榜診療科	44科 内科/腎臓内科/血液内科/リウマチ科/糖尿病・代謝/内分泌内科/漢方内科/腫瘍内科/ 循環器内科/感染症内科/老年内科/呼吸器内科/消化器内科/心療内科/外科/消化器外科/ 肝臓・胆のう・膵臓外科/胃腸外科/移植・食道・血管外科/乳腺/内分泌外科/心臓血管外科/ 整形外科/形成外科/麻酔科/救急科/呼吸器外科/産婦人科/泌尿器科/脳神経内科/ 脳神経外科/精神科/小児科/小児外科/小児腫瘍外科/皮膚科/眼科/耳鼻咽喉科/頭頸部外科/ リハビリテーション科/放射線科/歯科/歯科口腔外科/小児歯科/矯正歯科/病理診断科	
許可病床数	1,160床(一般病床:1,118床、精神:40床、感染:2床)	
救急体制	三次救急	
各種指定	<ul style="list-style-type: none"> ■ エイズ拠点病院指定 [平成8年7月17日] ■ がん診療連携拠点病院(都道府県)指定 [平成18年8月24日] ■ 総合周産期母子医療センター指定 [平成25年9月10日] ■ 造血幹細胞移植推進拠点病院指定 [平成26年12月22日] ■ てんかん診療拠点機関指定 [平成27年11月10日] ■ がんゲノム医療中核拠点病院指定 [平成30年2月16日] ■ アレルギー拠点病院指定 [平成30年8月1日] ■ 災害拠点病院(地域災害医療センター)指定 [平成9年3月31日] ■ 肝疾患診療連携拠点病院指定 [平成19年11月6日] ■ 小児がん拠点病院指定 [平成25年2月8日] ■ 医療法上の臨床研究中核病院指定 [平成27年8月7日] ■ 原子力災害拠点病院指定 [平成30年1月1日] ■ 宮城県難病診療連携拠点病院指定 [平成30年4月1日] 	

病院開設承認等 Designation of Medical Institutions

病院開設承認

医療法による病院開設承認	大正 2年 4月 1日
--------------	-------------

特定機能病院

承認年月日	平成 6年 8月 1日
-------	-------------

看護体系

区分	承認年月日
一般病棟 (特定機能病院入院基本料) 7対1入院基本料	平成 19年 6月 1日
精神病棟 (特定機能病院入院基本料) 13対1入院基本料	平成 22年 4月 1日

臓器移植施設認定

臓器名	認定年月日
心臓	平成 15年 6月 2日
心肺同時	平成 23年 9月 6日
肺	平成 10年 4月27日
肝臓	平成 12年 5月22日
腎臓	平成 7年 6月 3日
脾臓	平成 11年 2月15日
小腸	平成 11年12月24日
膵臓	平成 17年10月15日

先進医療承認状況

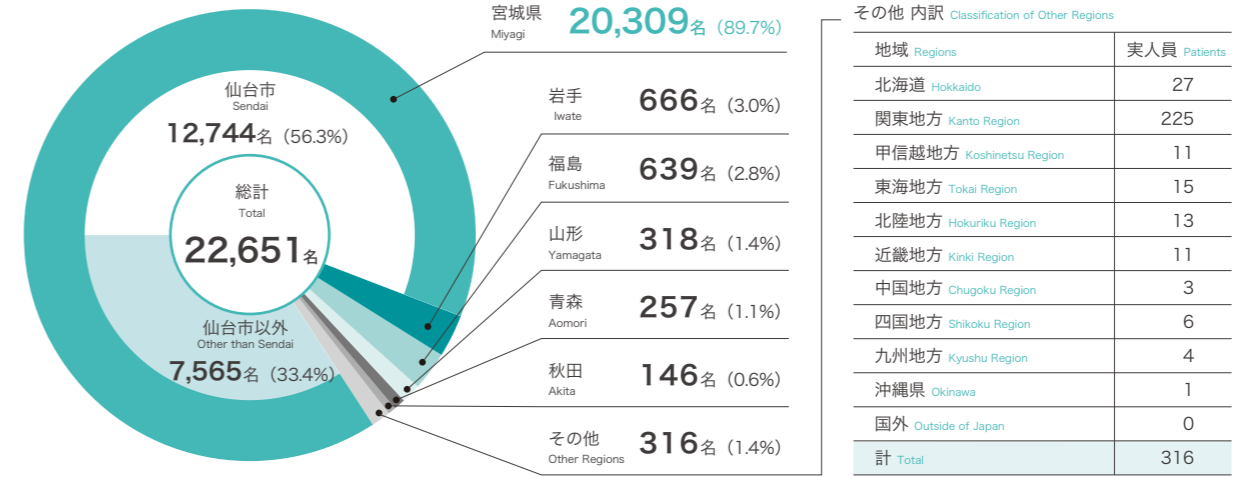
お問い合わせは、実施している診療科外来までお願いします。(健康保険等及び公費負担は適用になりません。)

先進医療技術名	金額	診療科	承認年月日
ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)	1回につき 24,510円	眼科	平成 28年 6月 1日
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断 (PCR法)	1回につき 25,060円	眼科	平成 28年 6月 1日
テモゾロミド用量強化療法	1連につき 113,400円	脳神経外科	平成 29年 1月 1日
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術および十二指腸空腸バイパス術	1回につき 714,640円	総合外科	平成 30年 3月 1日
S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法	1コース当たり 33,823円	総合外科	令和 2年 1月 1日
細胞診検体を用いた遺伝子検査	0円	呼吸内科	令和 2年12月 1日
高齢者切除可能肺癌に対する術前ゲムシタピン+S-1療法と術前ゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法	1回につき 400円	総合外科	令和 4年10月 1日

令和4年度統計 Fiscal Year 2022 Statistics

地域別入院患者数

Inpatient Volumes by Regions



高度救命救急センター

Department of Emergency and Critical Care Medicine

診療状況

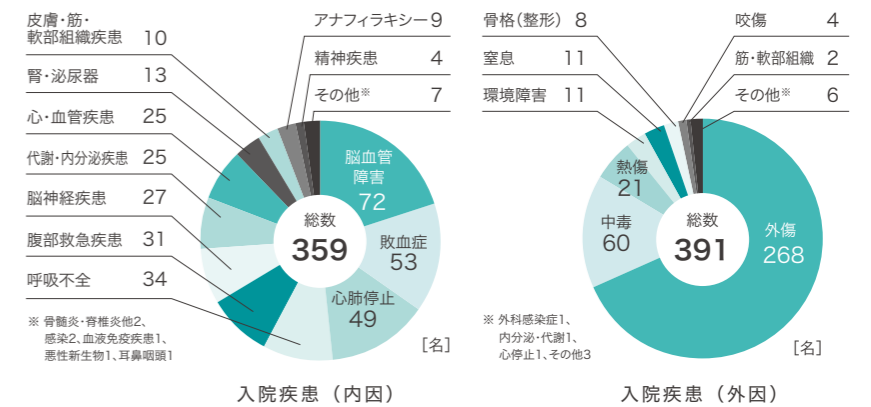
総受診数	5,833	救急車	2,468
総入院数	750	ヘリ搬入	49

ドクターヘリ*出動件数 (当院の活動件数)

要請件数	207
実働件数	183
現場救急	133
転院搬送	16
キャンセル	34
未出動件数	24

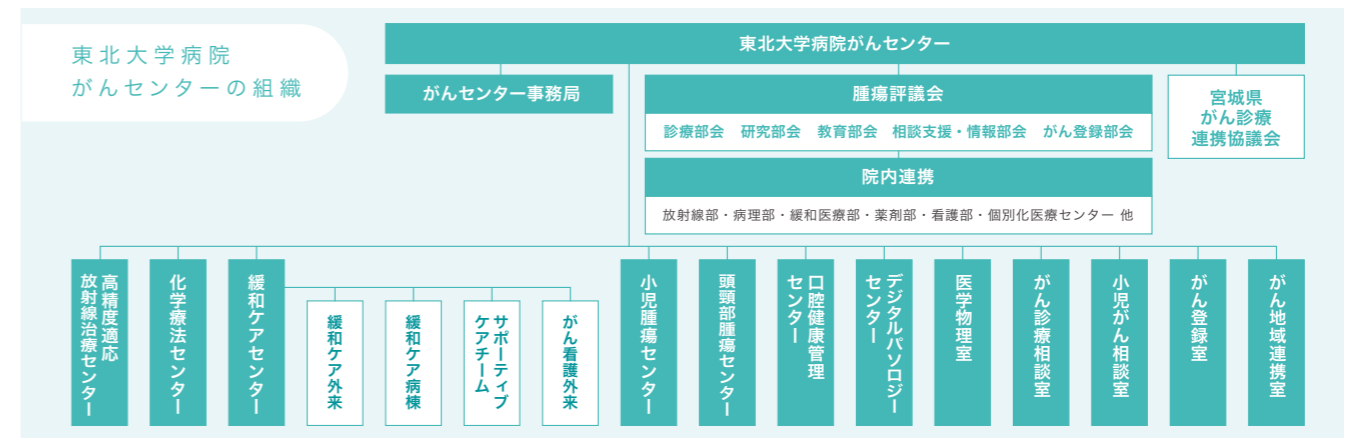
* 仙台医療センターとの共同運航

入院患者数疾患別分類



がんセンター

Cancer Center



診療科別 入院及び外来患者数

Inpatient and Outpatient Volumes by Clinical Departments

診療科等 Clinical Departments, etc.	入院患者数 Inpatients		外来患者数 Outpatients		*2 病床数 Beds
	延数 Cumulative Number	一日平均 Daily Average	総延数 Total Cumulative Number	一日平均 Daily Average	
総合診療科 General Medicine	0	0.0	4,049	16.7	-
循環器内科 Cardiovascular Medicine	13,307	36.5	23,583	97.0	48
総合感染症科 Clinical Infectious Diseases	1,095	3.0	3,877	16.0	1
腎・高血圧・内分泌科 Nephrology, Endocrinology and Vascular Medicine	6,818	18.7	25,648	105.5	25
血液内科 Hematology	11,776	32.3	12,708	52.3	33
リウマチ膠原病内科 Rheumatology	4,669	12.8	23,477	96.6	16
糖尿病代謝科 Diabetes and Metabolism	4,023	11.0	20,293	83.5	15
消化器内科 Gastroenterology	18,074	49.5	36,830	151.6	50
漢方内科 Kampo Medicine	0	0.0	3,630	14.9	0
加齢・老年病科 Geriatric Medicine and Neuroimaging	506	1.4	1,766	7.3	4
心療内科 Psychosomatic Medicine	1,335	3.7	5,298	21.8	5
呼吸器内科 Respiratory Medicine	15,864	43.5	22,851	94.0	46
腫瘍内科 Medical Oncology	7,876	21.6	13,441	55.3	26
総合外科 Department of Surgery	34,924	95.7	45,520	187.3	104
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	11,270	30.9	3,813	15.7	27
整形外科 Orthopedic Surgery	15,756	43.2	27,450	113.0	46
形成外科 Plastic and Reconstructive Surgery	3,027	8.3	7,284	30.0	15
呼吸器外科 Thoracic Surgery	6,809	18.7	6,208	25.5	18
麻酔科 Anesthesiology	381	1.0	3,712	15.3	-
緩和医療科 Palliative Medicine	3,705	10.2	1,764	7.3	22
婦人科 Gynecology	11,609	31.8	25,835	106.3	31
産科 Obstetrics	12,498	34.2	13,941	57.4	40
泌尿器科 Urology	9,723	26.6	18,056	74.3	25
脳神経内科 Neurology	8,956	24.5	8,873	36.5	25
脳神経外科 Neurosurgery	9,900	27.1	6,957	28.6	34
精神科 Psychiatry	9,536	26.1	21,884	90.1	40
小児科 Pediatrics	18,893	51.8	22,569	92.9	64
遺伝科 Medical Genetics	0	0.0	170	0.7	
小児腫瘍科 Pediatric Oncology	0	0.0	136	0.6	
小児外科 Pediatric Surgery	2,419	6.6	3,042	12.5	10
皮膚科 Dermatology	5,861	16.1	29,133	119.9	22
眼科 Ophthalmology	13,508	37.0	42,765	176.0	45
耳鼻咽喉・頭頸部外科 Otolaryngology-Head and Neck Surgery	16,072	44.0	24,653	101.5	48
肢体不自由リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	741	2.0	45,317	186.5	4
てんかん科 Epileptology	1,145	3.1	1,884	7.8	4
内部障害リハビリテーション科 Internal Medicine and Rehabilitation Science	992	2.7	23,654	97.3	4
高次脳機能障害科 Neuropsychology	1,134	3.1	2,973	12.2	4
放射線治療科 Therapeutic Radiology	4,864	13.3	25,577	105.3	18
放射線診断科 Diagnostic Radiology	214	0.6	603	2.5	
救急科 Emergency and Critical Care Medicine	11,971	32.8	2,537	10.4	29
WOCセンター Wound Ostomy Continence Center	0	0.0	1,939	8.0	-
一類感染症診療エリア*1 Biosafety Ward for Category I Infectious Diseases	0	0.0	-	-	2
集中治療部*1 Intensive Care	6,279	17.2	-	-	30
アイソトープ病棟*1 Isotope Therapy Unit	297	0.8	-	-	10
共通病床 Communal Unit	-	-	-	-	73

診療科等 Clinical Departments, etc.*2	入院患者数 Inpatients		外来患者数 Outpatients		*2 病床数 Beds	
	延数 Cumulative Number	一日平均 Daily Average	総延数 Total Cumulative Number	一日平均 Daily Average		
休床病床 Unused Beds	-	-	-	-	66	
医科計 Total (Medicine)	301,251	825.3	615,700	2,533.7	1,129	
口腔支持療法科 Oral Supportive Care and Management	0	0.0	3,325	13.7	31	
矯正歯科 Orthodontics	0	0.0	12,506	51.5		
小児歯科 Pediatric Dentistry	0	0.0	13,417	55.2		
歯科インプラントセンター Dental Implant Center	0	0.0	3,690	15.2		
顎口腔画像診断科 Oral and Maxillofacial Radiology	0	0.0	6,495	26.7		
歯科顎口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	9,699	26.6	35,932	147.9		
歯科麻酔疼痛管理科 Oral Anesthesia and Pain Management	49	0.1	1,466	6.0		
歯内療法科 Endodontics	0	0.0	5,329	21.9		
咬合修復科 Fixed Prosthodontics	0	0.0	8,180	33.7		
咬合回復科 Advanced Prosthetic Dentistry	0	0.0	8,657	35.6		
歯周病科 Periodontics	0	0.0	10,740	44.2		
口腔機能回復科 Prosthetic Dentistry and Oral Rehabilitation Science	0	0.0	5,548	22.8		
周術期口腔健康管理部 Perioperative Oral Health Management	0	0.0	7,755	31.9		
総合歯科診療部 Comprehensive Dentistry	0	0.0	2,859	11.8		
第一総合歯科診療部 Comprehensive Dentistry I			0	0.0		
第二総合歯科診療部 Comprehensive Dentistry II			2,535	10.4		
顎口腔機能治療部 Maxillo-Oral Disorders	0	0.0	5,536	22.8		
口腔内科・リエゾンセンター Oral Medicine Liaison Center	0	0.0	1,527	6.3		
障がい者歯科治療部 Dentistry for the Disabled	83	0.2	3,582	14.7		
顎顔面口腔再建治療部 Maxillofacial Prosthetics Clinic	0	0.0	2,381	9.8		
歯科計 Total (Dentistry)	9,831	26.9	141,460	582.1		31
合計 Total	311,082	852.3	757,160	3,115.9		1,160

*1 一類感染症診療エリア、集中治療部、アイソトープ病棟は患者数のみ再掲

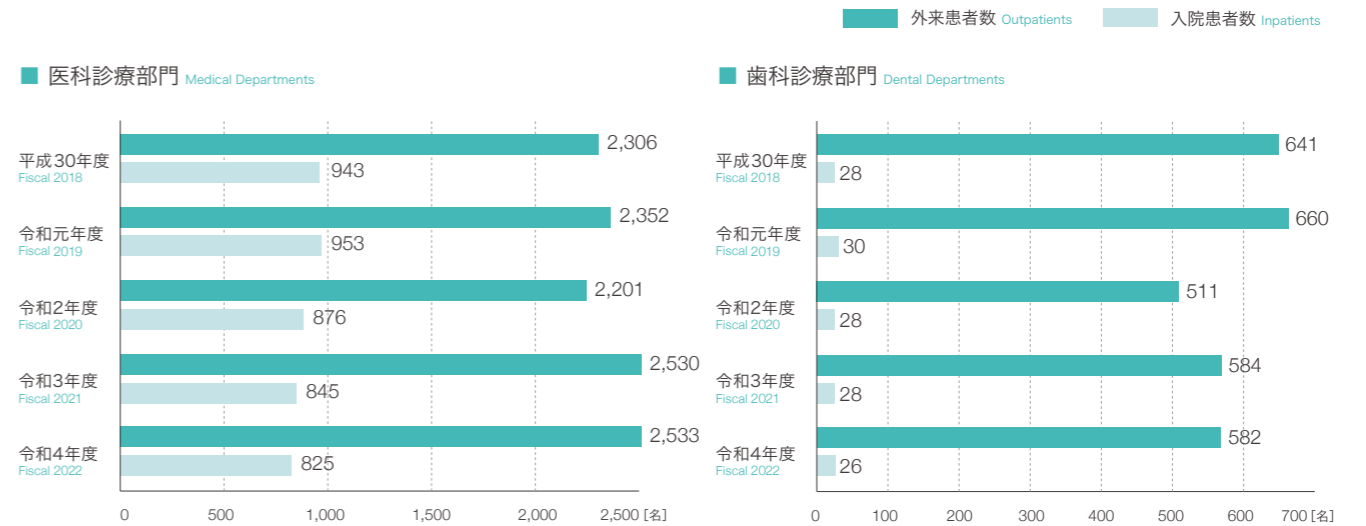
*1 The number of patients of Biosafety Ward for Category I Infectious Diseases and Intensive Care and Isotope Therapy Unit is overlapped with the number of other categories

*2 病床数は令和5年3月31日現在

*2 Number of beds as of March 31, 2023

年度別一日平均患者数

Daily Average of Patients per Fiscal Year



分娩件数・新生児入院数

Number of Births and Infant Hospitalizations

総分娩数（総数の内、帝王切開分娩数） Total Number of Births (of the Total, Number of Births by C-Section)	858 (359)	
新生児集中治療室入院総数 Total Number of Hospitalizations to the Neonatal Intensive Care Unit	260	
超低出生体重児 Extremely Low Birthweight Infants	入院 Hospitalization	死亡 Deaths
出生体重 < 1000g Birthweight	18	0
成育限界児 Infants at Borderline Viability	入院 Hospitalization	死亡 Deaths
出生体重 < 500g Birthweight	4	0
妊娠週数 < 24週 Number of Weeks of Pregnancy	5	0

*入院数、死亡数には重複があります
*There are overlaps in number of hospitalizations and deaths

手術件数

Number of Surgeries

区分 Classifications	件数 Surgeries
総合診療科 General Medicine	0
循環器内科 Cardiovascular Medicine	82
総合感染症科 Clinical Infectious Diseases	0
腎・高血圧・内分泌科 Nephrology, Endocrinology and Vascular Medicine	1
血液内科 Hematology	3
リウマチ膠原病内科 Rheumatology	0
糖尿病代謝科 Diabetes and Metabolism	0
消化器内科 Gastroenterology	3
漢方内科 Kampo Medicine	0
加齢・老年病科 Geriatric Medicine and Neuroimaging	0
心療内科 Psychosomatic Medicine	0
呼吸器内科 Respiratory Medicine	0
腫瘍内科 Medical Oncology	0
総合外科 Department of Surgery	1,624
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	318
整形外科 Orthopedic Surgery	532
形成外科 Plastic and Reconstructive Surgery	319
麻酔科 Anesthesiology	48
緩和医療科 Palliative Medicine	0
呼吸器外科 Thoracic Surgery	330
婦人科 Gynecology	464
産科 Obstetrics	385
泌尿器科 Urology	436
脳神経内科 Neurology	17
脳神経外科 Neurosurgery	250
精神科 Psychiatry	0
小児科 Pediatrics	6
遺伝科 Medical Genetics	0
小児外科 Pediatric Surgery	203
小児腫瘍科 Pediatric Oncology	0
皮膚科 Dermatology	295
眼科 Ophthalmology	1,884

病理解剖件数

Number of Autopsies

死亡患者数 Deaths	502人
病理解剖件数 Pathological Autopsies	28件
剖検率 Autopsy Rate	3.2%
受託解剖数 Consigned Autopsies	12件

臓器移植件数

Number of organ transplantation

	脳死 Donors after brain death	生体 Living donors	心停止 Donors after cardiac death
心臓 Heart	5	-	-
肺 Lung	15	0	-
肝臓 Liver	7	4	-
腎臓 Kidney	2	3	0
膵臓 Pancreas	1	-	-
小腸 Small intestines	0	0	-
膵島 Pancreatic islets	0	-	0

区分 Classifications	件数 Surgeries
耳鼻咽喉・頭頸部外科 Otolaryngology-Head and Neck Surgery	518
肢体不自由リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	0
てんかん科 Epileptology	24
内部障害リハビリテーション科 Internal Medicine and Rehabilitation Science	0
高次脳機能障害科 Neuropsychology	2
放射線治療科 Therapeutic Radiology	0
放射線診断科 Diagnostic Radiology	5
救急科 Emergency and Critical Care Medicine	274
WOCセンター Wound Ostomy Continence Center	0
医科計 Total (Medicine)	8,023
口腔支持療法科 Oral Supportive Care and Management	0
矯正歯科 Orthodontics	0
小児歯科 Pediatric Dentistry	0
歯科インプラントセンター Dental Implant Center	0
顎口腔画像診断科 Oral and Maxillofacial Radiology	0
歯科顎口腔外科 Oral and Maxillofacial Surgery	898
歯科麻酔疼痛管理科 Oral Anesthesia and Pain Management	16
歯内療法科 Endodontics	0
咬合修復科 Fixed Prosthodontics	0
咬合回復科 Advanced Prosthetic Dentistry	0
歯周病科 Periodontics	0
口腔機能回復科 Prosthetic Dentistry and Oral Rehabilitation Science	0
周術期口腔健康管理部 Perioperative Oral Health Management	0
総合歯科診療部 Comprehensive Dentistry	0
第一総合歯科診療部 Comprehensive Dentistry I	0
第二総合歯科診療部 Comprehensive Dentistry II	0
顎口腔機能治療部 Maxillo-Oral Disorders	0
口腔内科・リエゾンセンター Oral Medicine Liaison Center	0
障がい者歯科治療部 Dentistry for the Disabled	28
顎顔面口腔再建治療部 Maxillofacial Prosthetics Clinic	0
歯科計 Total (Dentistry)	942
計 Total	8,965

臨床検査件数

Number of Clinical Laboratory Tests

区分 Classifications	総件数 Total			
	入院(件) Inpatients	外来(件) Outpatients	計(件) Total	
一般検査 General Test	55,669	192,067	247,736	
血液学的検査 Hematologic Test	373,126	576,432	949,558	
生化学的検査 Biochemical Test	1,368,563	2,897,128	4,265,691	
内分泌学的検査 Endocrinological Test	46,702	215,974	262,676	
免疫学的検査 Immunological Test	143,029	368,987	512,016	
微生物学的検査 Microbiological Test	42,553	14,791	57,344	
病理学的検査 Pathological Test	10,171	6,645	16,816	
生理機能検査 Physiological Function Test	循環器機能検査 Cardiovascular Function Test	10,894	28,736	39,630
	脳・神経機能検査 Neurological Function Test	787	990	1,777
	呼吸機能検査 Respiratory Function Test	1,515	6,998	8,513
	前庭・聴力機能検査 Vestibular and Auditory Function Test	9,637	30,597	40,234
	眼科関連機能検査 Ophthalmologic Function Test	33,180	172,477	205,657
	超音波検査 Ultrasonic Imaging	5,908	15,012	20,920
	その他の検査 Other Tests	381	7,175	7,556
小計 Subtotal	62,302	261,985	324,287	
採血・採液等 Blood/Fluid Collection, etc.	0	136,030	136,030	
内視鏡検査 Endoscopic Test	5,425	18,152	23,577	
合計 Total	2,107,540	4,688,191	6,795,731	

放射線部撮影・検査・治療件数

Number of Radiology Images, Tests and Therapies

区分 Classifications	入院 Inpatients	外来 Outpatients	計 Total	
X線撮影 X-Ray	患者数 Number of Patients	48,028	59,657	107,685
	撮影件数 Number of Radiographs	56,543	77,310	133,853
歯科（デンタル） Dental	患者数 Number of Patients	438	11,159	11,597
	撮影件数 Number of Radiographs	668	15,896	16,564
透視件数 Fluoroscopy	3,365	1,283	4,648	
マンモグラフィ件数 Mammography	42	1,339	1,381	
血管撮影件数 Angiography	2,317	119	2,436	
CT検査件数 CT Scan	10,448	34,502	44,950	
MR検査件数 MR	3,635	14,269	17,904	
骨密度件数 Bone Densitometry	571	2,111	2,682	
PET検査件数 PET	241	4,452	4,693	
RI検査件数 RI	1,018	1,455	2,473	
放射線治療件数 Radiotherapy	体外照射件数 External Irradiation	11,769	10,546	22,315
	腔内照射件数 Intracavitary Irradiation	173	58	231
	組織内照射件数 Interstitial Irradiation	4	0	4
	アイソトープ治療件数 Isotope Therapy	70	18	88

薬剤部調剤処方箋枚数・薬剤管理指導件数等

Number of Prescriptions and Pharmaceutical Consultations

区分 Classifications	計 Total
入院処方箋枚数 Inpatient Prescription	191,752
外来処方箋枚数 Outpatient Prescription	院内 In-Hospital Pharmacy 19,967
	院外 Out-of-Hospital Pharmacy 274,036
院外処方箋発行率 Rate of Prescription for External Pharmacies	96.7%
注射処方箋枚数 Prescription for Injections	入院 Inpatient 142,030
	外来 Outpatient 51,326
薬剤管理指導算定件数 Pharmaceutical Consultation (Calculated)	380点 13,596
	325点 12,522
抗悪性腫瘍薬調剤件数 Antineoplastic Drug Adjustment	入院 Inpatient 14,449
	外来 Outpatient 22,819
中心静脈栄養調剤件数 Intravenous Hyperalimentation Adjustment	入院 Inpatient 1,041
	外来 Outpatient 226
薬物血中濃度モニタリング件数 (算定対象外、臨床試験を含む) Therapeutic Drug Monitoring (Including the monitorings for clinical research and the subjects excluded for medical fee calculation)	3,286

歯科技工物製作件数

Number of Technical Dental Work

区分 Classifications	歯科技工室 Dental Technicians Office	
	院内 In-Hospital	院外 Out-of-Hospital
全部床義歯 Complete Denture	20	152
部分床義歯 (ノンクラスプデンチャー含む) Partial Denture (Incl. Non Clasp Denture)	56	739
全部金属冠 Full Metal Crown	65	614
ボンティック Pontic	68	327
陶材焼付製造冠 Porcelain Fused-to-Metal Crown	12	94
オールセラミックス冠 All Ceramic Crown	22	101
インレー Inlay	18	146
研究用模型 Study Model	32	49
顎顔面補綴 (エビテーゼを含む) Maxillofacial Prosthetics (Incl. Epithesis)	10	53
スタビライゼーション型スプリント Stabilization Splint	81	198
ソフトスプリント Soft Splint	30	27
義歯修理 Repair of Denture	46	130
アタッチメント・根面板 Attachment/Root Cap	7	28
矯正装置 Orthodontic Appliance	45	151
外科装置 Surgical Instruments	106	1
支台築造 Abutment Construction	31	86
暫間被覆冠 Temporary Crown	556	1,407
硬質レジン前装冠 Composite Resin Crown	60	489
個人トレー Individual Tray	339	716
インプラント Implant	252	105
硬質レジンジャケット冠 Composite Resin Jacket Crown	0	7
メタルフリーインレー Metal-free Inlay	36	41
金属床 (ノンクラスプデンチャー含む) Metal Base (Incl. Non Clasp Denture)	8	56
高強度レジンブリッジ High-strength Resin Bridge	0	10
サージカルガイド Surgical Guide	80	185
CAD/CAMコンポジット冠 CAD/CAM Composite	54	228
顎骨模型 Jawbone Model	302	0
フルジルコニア冠 Full Contour Zirconia Crown	110	103
歯の保護装置 Tooth Protection Appliance	1,059	659
診断用ワックスアップ Diagnostic Wax Up	422	177
その他 Others	566	3,669
合計 Total	4,493	10,748

* 技工士学校の制作件数は院内に含む

* Technical dental works done in dental technicians school are included in "In-Hospital"

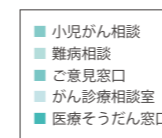
地域医療連携センター

Community Medical Cooperation Center

地域医療連携センターでは、患者さん(ご家族)のさまざまな医療・福祉に関する総合相談窓口、また地域の医療機関等との窓口として、医療ソーシャルワーカー、看護師、事務がお互いに協力しながら院内外の関係機関と、密接で効率的かつ効果的な連携を行っています。

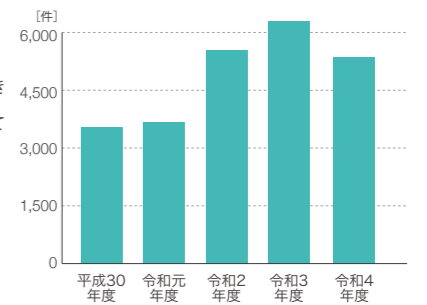
各種相談窓口

患者サービス向上を目的に、相談窓口を地域医療連携センターに集約しています。



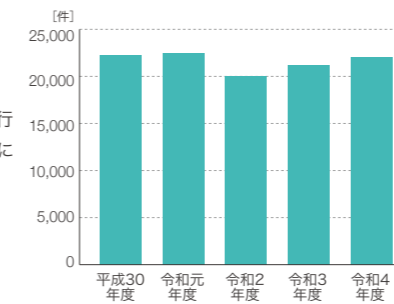
退院・相談支援

患者さんが安心して療養できるよう退院・相談の支援を行っています。



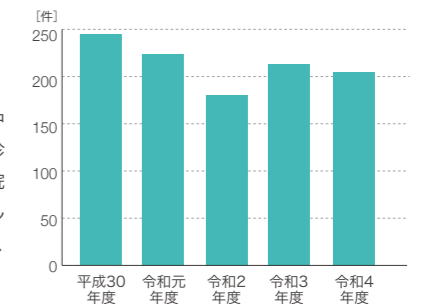
紹介患者さんの診療予約受付

紹介患者さんの予約受付を行い、紹介しやすい環境整備に努めています。



セカンドオピニオンの予約受付

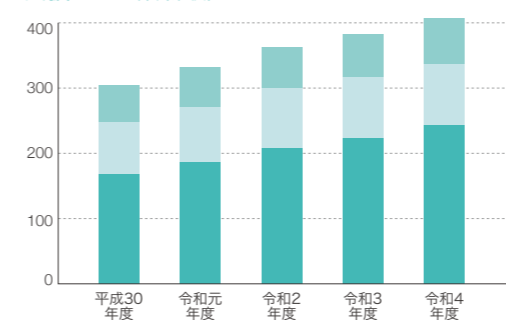
当院以外の医療機関で治療中の患者さんを対象に、現在の診断内容や治療法に関して、当院の専門医の意見や判断を提供します。地域医療連携センターでは、その予約受付を行っています。



臨床研究推進センター

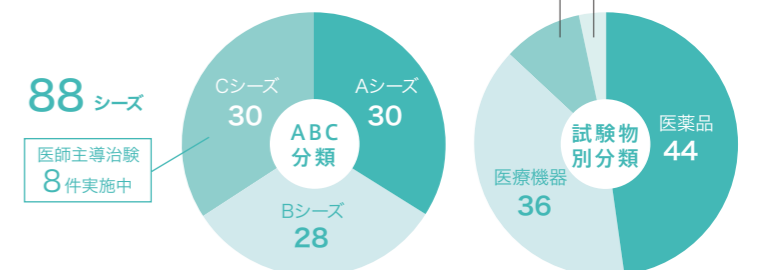
Clinical Research, Innovation and Education Center

支援シーズ数(累積)



開発支援中シーズ

令和5年3月31日現在



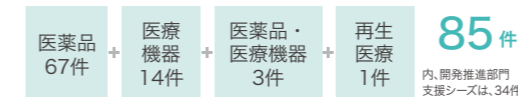
※1 コンビネーションプロダクトの場合は1シーズで複数分類に該当します。

開発支援シーズ数(累積) 406シーズ

令和5年3月31日現在

医師主導治験 実施数

平成25年～令和4年度



PMDA (医薬品医療機器総合機構) 相談実績

令和4年度



沿革

平成15年～平成29年度	東北大学先進工学研究機構 (TUBERO)
平成19年～平成23年度	東北大学未来工学治療開発センター (INBEC)
平成24年度	東北大学未来工学治療開発センター (INBEC) と東北大学病院治験センターを統合 東北大学病院臨床試験推進センター (CRIETO) を設置
平成25年度	東北大学病院が臨床研究中核病院整備事業に選定され名称を東北大学病院臨床研究推進センター (CRIETO) と変更
平成29年度	東京分室を設置

沿革

Historical Timeline

1817 (文化14年)	百騎丁(現東二番丁)に仙台藩医学学校施業所が創設	1972 (昭和47年)	5月 病理部設置	2003 (平成15年)	10月 WOCセンター設置
1871 (明治 4年)	4月 廃藩置県により仙台藩医学学校施業所が廃止	1974 (昭和49年)	4月 事務部を改組し、総務課、管理課、医事課の三課を設置	2004 (平成16年)	4月 外来化学療法センター、地域医療連携センター及び診療技術部を設置
1872 (明治 5年)	5月 仙台藩医学学校出身者により南町に私立仙台共立社病院を開設	1976 (昭和51年)	5月 看護部設置		
1879 (明治12年)	5月 仙台公立病院と改称	1978 (昭和53年)	10月 胸部外科設置(16診療科)	2005 (平成17年)	6月 「救命救急と医療安全の碑」設置
1884 (明治17年)	7月 県立宮城病院と改称	1979 (昭和54年)	4月 臨床講義棟(R2 1,073m)完成		
1888 (明治21年)	4月 明治20年9月30日勅令第48号により県立宮城病院と改称	1979 (昭和54年)	3月 R-I 検査棟(R1 998m)増築	2006 (平成18年)	6月 ログマーク及びキャッチコピーを制定
1911 (明治44年)	4月 北四番丁(現星陵地区)に県立宮城病院の新病院棟が開院	1980 (昭和55年)	9月 外来診療棟(R5-1 15,640m)完成		
1913 (大正 2年)	4月 大正2年3月28日勅令第36号により東北帝国大学医学部専門部附属病院と改称	1983 (昭和58年)	10月 輸血部設置	2007 (平成19年)	7月 集中治療部を廃止し、重症病棟部を設置
1915 (大正 4年)	7月 大正4年7月14日文部省令第10号により東北帝国大学医科大学附属病院と改称	1984 (昭和59年)	3月 神経科精神科病棟(R2 1,767m)完成		
		1985 (昭和60年)	3月 長町分院廃止		
		1987 (昭和62年)	4月 心療内科、形成外科、脳神経内科及び脳神経外科を設置(20診療科)		
		1988 (昭和63年)	4月 小児外科設置(21診療科)		
1918 (大正 7年)	6月 内科(2科)、外科、眼科、産科婦人科、小児科、皮膚科及び耳鼻咽喉科の8診療科(340床)を設置	1988 (昭和63年)	4月 中央診療棟(SR5-2 7,567m)完成	2008 (平成20年)	8月 がん診療連携拠点病院に指定
1919 (大正 8年)	4月 大正8年4月1日勅令第55号により東北帝国大学医学部附属病院と改称	1988 (昭和63年)	4月 脳神経内科を神経内科と改称		
1920 (大正 9年)	1月 精神科(後に神経科精神科と改称)設置(11診療科)	1991 (平成 3年)	3月 第二臨床研究棟(SR9-1 7,960m)完成	2009 (平成21年)	10月 高度救命救急センター設置
1942 (昭和17年)	4月 整形外科、放射線科設置(13診療科)	1991 (平成 3年)	4月 救急部設置		
1944 (昭和19年)	12月 鳴子分院開設	1994 (平成 6年)	5月 老人科設置(22診療科)	2010 (平成22年)	11月 がんセンター設置
1946 (昭和21年)	3月 長町分院開設	1994 (平成 6年)	3月 第二臨床研究棟を医学部2号館と改称		
1947 (昭和22年)	10月 昭和22年9月30日政令第204号により東北帝国大学医学部附属病院と改称	1995 (平成 7年)	4月 医療情報部設置	2011 (平成23年)	2月 医療法上の名称を東北帝国大学医学部附属病院から東北大学病院と改称
1949 (昭和24年)	5月 昭和24年5月31日法律第150号により東北帝国大学医学部附属病院と改称	1996 (平成 8年)	4月 鳴子分院廃止 理学診療科設置(23診療科)		
1958 (昭和33年)	10月 結核病棟 基準看護(一類)承認(24床)	1996 (平成 8年)	6月 周産母子センター(分娩部を改組)、リハビリテーション部及び企画室(事務部)を設置	2012 (平成24年)	2月 一般病棟40床増床(医療法承認病床数1,308床)
1959 (昭和34年)	4月 泌尿器科設置(14診療科)	1997 (平成 9年)	8月 特定機能病院承認		
		事務部に事務部長制が敷かれ、管理課及び業務課を設置	1997 (平成 9年)	8月 第一臨床研究棟を医学部3号館と改称	
1962 (昭和37年)	4月 麻酔科設置(15診療科)	1998 (平成10年)	11月 第二臨床研究棟を医学部2号館と改称	2013 (平成25年)	7月 肝疾患診療連携拠点病院に指定
1964 (昭和39年)	3月 中央診療棟(西) (R3-1 428m)完成	1999 (平成11年)	8月 特定機能病院承認		
1965 (昭和40年)	3月 東病棟(R6-1 9,711m)完成	2000 (平成12年)	4月 診療科再編(内科、外科、産婦人科・泌尿生殖器科、脳・神経・精神科、小児科、感覚器・理学診療科、放射線科)	2012 (平成24年)	2月 未来医工学治療開発センター設置
1966 (昭和41年)	4月 手術部設置	2001 (平成13年)	10月 加齢医学研究所附属病院との統合に伴い100床増床(医療法承認病床数1,296床)		
1967 (昭和42年)	3月 中央診療棟(東) (R2 1,683m)完成	2002 (平成14年)	4月 緩和医療部設置	2013 (平成25年)	7月 脳神経外科と脳血管内治療科を統合し、脳神経外科と改称
1969 (昭和44年)	4月 集中治療部設置	2003 (平成15年)	4月 緩和医療部設置		
1971 (昭和46年)	4月 第一臨床研究棟(SR12-1 14,080m)及び厨房棟(R1-1 1,141m)完成	2003 (平成15年)	2月 R-I 検査棟をPET 検査棟に改修	2013 (平成25年)	8月 重症病棟部を廃止し、集中治療部を設置
1972 (昭和47年)	3月 R-I 病棟及びR-I 検査棟(R1 720m)完成	2003 (平成15年)	8月 医療安全推進室設置		
		2003 (平成15年)	4月 医療情報部を廃止し、メディカルIT センターを設置	2013 (平成25年)	10月 輸血部を改組し、輸血・細胞治療部を設置
		2003 (平成15年)	10月 東北大学病院創設(歯学部附属病院との統合)		

2013 (平成25年)	7月 臨床試験推進センターを臨床研究推進センターと改称	2018 (平成30年)	4月 宮城県難病診療連携拠点病院に指定	2019 (令和元年)	4月 高齢者歯科治療部を廃止し、口腔機能回復科に統合
	9月 先端医療技術トレーニングセンター設置		4月 星の子保育園(八幡町)開園		
2014 (平成26年)	9月 総合周産期母子医療センターに指定	2018 (平成30年)	5月 一般病床16床廃止(医療法承認病床数1,207床)	2021 (令和3年)	4月 周術期口腔支援センターを改組し、周術期口腔健康管理部を設置
	4月 星陵レジデンス(R6 2,129m)完成		5月 一般病棟16床廃止(医療法承認病床数1,207床)		5月 東北大学ワクチン接種センターを設置
2014 (平成26年)	9月 精神科病棟を西病棟13階へ移転	2018 (平成30年)	5月 肝・胆・膵外科、胃腸外科、移植・再建・内視鏡外科、乳腺・内分泌外科を統合し、総合外科を設置	2019 (令和元年)	5月 産学連携室(EDAS-TUH)を設置
	9月 一般病床9床と精神科病床21床を廃止(医療法承認病床数1,232床)		4月 咬合機能成育室を廃止し、顎口腔機能治療部と統合		7月 臨床検査棟(S1 203m)増築
2015 (平成27年)	12月 造血幹細胞移植推進拠点病院に指定	2019 (令和元年)	5月 頭頸部腫瘍センター設置	2020 (令和2年)	9月 宮城県抗体カクテル療法センター(2022年1月に、新型コロナウイルス感染症治療センターと改称)を設置
	3月 新東病棟(R18-2 37,044m)完成		7月 嚥下治療センター設置		7月 産学連携室(EDAS-TUH)を設置
2015 (平成27年)	1月 小児腫瘍センター設置	2019 (令和元年)	4月 一般病棟47床廃止(医療法承認病床数1,160床)	2020 (令和2年)	4月 移植再生医療センターを設置
	4月 一般病棟7床廃止(医療法承認病床数1,225床)		12月 スマートホスピタル推進室設置		7月 脳卒中・心臓病等総合支援センターを設置
2015 (平成27年)	4月 周術期口腔支援センター設置	2020 (令和2年)	1月 課題解決型研究開発実証フィールド「オープン・ベッド・ラボ」を開設	2021 (令和3年)	1月 東北大学ワクチン接種センターを廃止
	7月 病院開設100周年		4月 東北大学診療所を設置		2月 ジェンダー医療センターを設置
2017 (平成29年)	8月 医療法上の臨床研究中核病院に指定	2021 (令和3年)	10月 睡眠医療センターを設置	2023 (令和5年)	腎・高血圧・内分泌科を改組し、腎臓・高血圧内科を設置
	11月 てんかん診療拠点機関に指定		4月 小児外科と小児腫瘍外科を廃止し、総合外科に統合		4月 糖尿病代謝科を改組し、糖尿病代謝・内分泌内科を設置
2017 (平成29年)	12月 てんかんセンター設置	2021 (令和3年)	4月 総合診療科設置	2023 (令和5年)	4月 内部障害リハビリテーション科と肢体不自由リハビリテーション科を統合し、リハビリテーション科を設置
	4月 老年科と加齢核医学科を統合し、加齢・老年病科を設置		4月 予防歯科を改組し、口腔支那療法科を設置		
2018 (平成30年)	7月 脳神経外科と脳血管内治療科を統合し、脳神経外科と改称	2021 (令和3年)	4月 個別化医療センター設置	2023 (令和5年)	4月 保存修復科を廃止し、歯内療法科に統合
	個別化医療センター設置		4月 感染予防対策治療部を歯科医療管理部と改称		
2018 (平成30年)	1月 原子力災害拠点病院に指定	2021 (令和3年)	1月 障害者歯科治療部を障がい者歯科治療部と改称	2023 (令和5年)	
	2月 がんゲノム医療中核拠点病院に指定		2月 先進医療棟(SR5-1 16,044m)完成		

歴代病院長

Chronological List of Directors

大正 2年 4月～大正 5年 4月	内田 守一	昭和17年 6月～昭和19年 3月	丸井 清泰	昭和51年 7月～昭和56年 7月	星野 文彦
大正 5年 4月～大正 7年 5月	山形 仲藝	昭和19年 4月～昭和19年 5月	佐武 安太郎	昭和56年 8月～昭和60年 3月	葛西 森夫
大正 7年 5月～大正10年 7月	熊谷 岱藏	昭和19年 5月～昭和21年 3月	伊藤 實	昭和60年 4月～昭和63年 3月	吉永 馨
大正10年 7月～大正12年 7月	明城 彌三吉	昭和21年 3月～昭和23年 3月	武藤 完雄	昭和63年 4月～平成 4年 3月	多田 啓也
大正12年 7月～大正13年 3月	加藤 豊治郎	昭和23年 4月～昭和28年 6月	篠田 紘	平成 4年 4月～平成 7年 3月	森 昌造
大正13年 3月～大正15年 4月	杉村 七太郎	昭和28年 7月～昭和30年 6月	佐野 保	平成 7年 4月～平成11年 3月	豊田 隆謙
大正15年 3月～昭和 2年 3月	山川 章太郎	昭和30年 7月～昭和34年 6月	立木 豊	平成11年 4月～平成13年 3月	吉本 高志
昭和 2年 3月～昭和 4年 3月	関口 蕃樹	昭和34年 7月～昭和36年 6月	古賀 良彦	平成13年 4月～平成14年11月	玉井 信
昭和 4年 3月～昭和 6年 3月	和田 徳次郎	昭和36年 7月～昭和38年 6月	飯野 三郎	平成14年11月～平成16年11月	山田 章吾
昭和 6年 3月～昭和 8年 3月	太田 正雄	昭和38年 7月～昭和40年 3月	中村 隆	平成16年11月～平成24年 3月	里見 進
昭和 8年 3月～昭和10年 3月	佐藤 彰	昭和40年 4月～昭和42年 3月	横 哲夫	平成24年 4月～平成27年 3月	下瀬川 徹
昭和10年 4月～昭和12年 4月	丸井 清泰	昭和42年 4月～昭和44年 3月	桐澤 長徳	平成27年 4月～平成31年 3月	八重樫 伸生
昭和12年 4月～昭和14年 4月	杉村 七太郎	昭和44年 4月～昭和45年 1月	片桐 圭一	平成31年 4月～令和 5年 3月	富永 悌二
昭和14年 4月～昭和15年 5月	熊谷 岱藏	昭和45年 1月～昭和47年 1月	岩月 賢一	令和 5年 4月～	張替 秀郎
昭和15年 5月～昭和15年 6月	石川 哲郎	昭和47年 1月～昭和47年 6月	山形 敏一		
昭和15年 6月～昭和17年 6月	加藤 豊治郎	昭和47年 6月～昭和51年 7月	荒川 雅男		

病院フロア案内 Floor Guide

[令和5年4月1日現在]
April.1.2023

A-01 外来診療棟	
外来診療棟A	
5F	精神科デイケアルーム 臨床研究推進センター（臨床研究実施部門） ティサージャリーセンター 軽症病児・病後児保育室（星の子ルーム）
4F	皮膚科 眼科 耳鼻咽喉・頭頸部外科
3F	整形外科 脳神経内科 脳神経外科 精神科 リハビリテーション科 高次脳機能障害科 てんかん科 遺伝科 臓器移植医療部 睡眠医療センター
2F	血液内科 リウマチ膠原病内科 糖尿病代謝・内分泌内科 腎臓・高血圧内科 心療内科 麻酔科 循環器内科 心臓血管外科 加齢・老年病科 漢方内科 総合診療科 中央採血室 尿検査室
1F	総合案内 医事課 入退院センター 医療そうだん窓口 がん診療相談室 AYAがん相談窓口 小児がん相談室（がん相談支援センター） 肝疾患相談室 ご意見窓口 地域医療連携センター 防災監視室（警備員室） 患者申出療養相談窓口 診断書窓口 難病相談窓口 臨床研究・治験相談窓口 脳卒中・心臓病相談窓口 セカンドオピニオン外来予約窓口
B1F	メディカルITセンター 医療情報室 カルテ管理室 監視室
外来診療棟B	
2F	総合外科 WOCセンター 食堂
1F	輸血・細胞治療部 緩和医療科 がんセンター
外来診療棟C	
5F	歯内療法科 歯周病科 咬合修復科 咬合回復科 口腔機能回復科 障がい者歯科治療部
4F	歯科顎口腔外科 歯科麻酔疼痛管理科 顎口腔画像診断科 口腔支持療法科 総合歯科診療部 周術期口腔健康管理部 顎顔面口腔再建治療部 嚥下治療センター・歯科 歯科インプラントセンター 口腔内科・リエゾンセンター
3F	小児科 遺伝科 小児外科 小児腫瘍科 形成外科 小児歯科 矯正歯科 顎口腔機能治療部 言語治療室
2F	消化器内科 消化器内視鏡センター 呼吸器内科 呼吸器外科 総合感染症科
1F	放射線診断科 泌尿器科 総合外科 産科 婦人科 がんゲノム医療外来 産業衛生外来 個別化医療センター メディカルITセンター（MMWIN）
B1F	薬剤部 歯科カルテ室

A-02 中央診療棟	
4F	検査部 微生物検査室 血液浄化療法部
2F	放射線部 生理検査センター
1F	画像センター（放射線部）
B1F	高圧酸素治療室 クリニカルスキルスラボサテライト
外来接続棟B	
4F ↓ 3F	看護部
2F	生活習慣病センター（診察室）
外来接続棟C	
3F	精神科
2F	生活習慣病センター（検査室）
臨床検査棟	
4F ↓ 2F	検査部
1F	資料室

A-03 病棟	
西病棟	
PHF	ヘリポート
17F	緩和医療科
16F	【呼吸器センター】呼吸器外科 総合感染症科 腫瘍内科
15F	オープン・ベッド・ラボ（OBL）
14F	糖尿病代謝・内分泌内科 腎臓・高血圧内科 リウマチ膠原病内科
13F	精神科
12F	眼科
11F	脳神経外科 総合外科 泌尿器科
10F	耳鼻咽喉・頭頸部外科
9F	【循環器センター】循環器内科 HCU（CCU）
8F	消化器内科
7F	総合外科
6F	【周産母子センター】産科 MFICU NICU GCU
5F	【小児医療センター／小児腫瘍センター】小児科 小児腫瘍科 遺伝科
4F	放射線治療科 放射線診断科 救急科 腎臓・高血圧内科 糖尿病代謝・内分泌内科 RI 病室
2F	中央倉庫 MEセンター 夜間休日検査室
1F	放射線部 RI 検査 中央監視室・防災監視室 患者サービス係
B1F	栄養管理室 厨房

A-04 先進医療棟	
5F	設備室
4F	集中治療部（ICU・HCU）
3F	手術部
2F	材料部 病理部
1F	高度救命救急センター 第一種感染症病床
B1F	放射線治療科 産業衛生外来 剖検室 霊安室

A-03 病棟	
東病棟	
17F	リハビリテーション部
16F	【呼吸器センター】呼吸器内科 心療内科
14F	血液内科 呼吸器内科 リウマチ膠原病内科
13F	泌尿器科 皮膚科
12F	脳神経内科 リハビリテーション科 高次脳機能障害科 てんかん科 加齢・老年病科
11F	整形外科 形成外科 救急科
10F	形成外科 歯科顎口腔外科 歯科麻酔疼痛管理科 障がい者歯科治療部
9F	【循環器センター】循環器内科 心臓血管外科
8F	総合外科 消化器内科
7F	婦人科 総合外科
6F	【周産母子センター】産科 MFICU
5F	【小児医療センター】小児外科 小児科 小児腫瘍科 形成外科 脳神経外科 院内学級
4F	腫瘍内科外来 化学療法センター 感染管理室 医療安全推進室 看護部
3F	血液浄化療法部 手術部
2F	薬剤部 栄養相談室 薬剤受付窓口
1F	AIラボ
B1F	MRI
B2F	ベッドセンター リネン室

A-05 臨床研究推進センター（旧西病棟）	
5F	オープンラボスペース バイオデザイン部門 デジタルヘルステストラボ
4F	オープンラボスペース
3F	事務室 臨床試験データセンター 開発推進部門 共用実験室 臨床試験品質保証室
2F	CPC 開発推進部門 医療情報部門 知財部門 移植再生医療センター

A-06 仮管理棟	
3F	臨床研究監理センター 病院倫理委員会事務局

建物配置図 Building Arrangement

[令和5年4月1日現在]
April.1.2023



- 東北大学病院 総合案内**
Tohoku University Hospital General Information
- インフォメーション**
Information
- カフェテリア・レストラン**
Cafeteria・Restaurant
- 物販店舗**
Shop
- ATM**
Automated Teller Machine
- バス停**
Bus Stop
- 郵便局**
Post Office
- キャンパス入口**
Campus Entrance

土地：179,214㎡
建物：334,620㎡

- A 01** 外来診療棟
Clinics for Outpatients
- A 02** 中央診療棟
Operation & Medical Check Building
- A 03** 病棟
Ward Building
- A 04** 先進医療棟
Advanced Medical Care Center
- A 05** 臨床研究推進センター
Clinical Research, Innovation and Education Center
- A 06** 仮管理棟
Temporary Administration Building
- A 07** 病院第2駐車場
Hospital Multistorey Car Park 2
- A 08** 病院第1駐車場
Hospital Multistorey Car Park 1
- A 21** 臨床講義棟
Clinical Lecture building
- A 22** 附属図書館医学分館
Medical Library
- A 23** 医学部2号館
School of Medicine Building 2
- A 24** 医学部3号館
School of Medicine Building 3
- A 31** 動物・遺伝子実験支援センター
Support Center for Laboratory Animal and Gene Researches
- A 32** RI星陵サブセンター
RI Seiryō Subcenter
- A 33** 動物実験施設
Institute of Animal Experimentation
- A 34** プリオン研究実験棟
Prion Research Building
- B 01** 医学部1号館
School of Medicine Building 1
- B 02** 医学部4号館
School of Medicine Building 4
- B 03** 医学部0号館
School of Medicine Building 0
- B 04** 医学部5号館
School of Medicine Building 5
- B 05** 先端医療技術トレーニングセンター
Advanced Medical Training Center
- B 06** 教育研究基盤支援棟
Education and Research Base Support Building
- B 07** 医工学実験棟
Graduate School of Biomedical Engineering Laboratory
- B 08** 医学部6号館
School of Medicine Building 6
- B 09** 東北メディカル・メガバンク棟
Tohoku Medical Megabank Building
- B 10** 星陵会館(厚生施設)
Seiryō Hall (Welfare Facilities)
- B 11** フロンティア研究棟
Frontier Research Building
- B 12** 医学部保健学科A棟
School of Health Sciences Building A
- B 13** 医学部保健学科B棟
School of Health Sciences Building B
- B 14** 医学部保健学科C棟
School of Health Sciences Building C
- B 15** 医学部保健学科D棟
School of Health Sciences Building D
- B 16** 立体駐車場
Multistorey Car Park
- B 21** 良陵会館
Gensyō Hall
- C 01** 歯学臨床研究棟(C棟)
Building for Clinical Dental Science (Building C)
- C 02** 歯学基礎研究棟(A棟)
Building for Basic Dental Science (Building A)
- C 03** 歯学実習講義棟(B棟)
Building for Dental Education and Training (Building B)
- C 04** 歯学先端教育支援棟(D棟)
Building for Dental Advanced Education Support (Building D)
- C 05** 星陵レジデンス
Seiryō Residence
- C 06** 病院第3駐車場
Hospital Multistorey Car Park 3
- C 07** 星陵学生サークル棟B
Seiryō Club House B
- C 11** 加齢医学研究所 実験研究棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Center for Basic Aging Research
- C 12** 加齢医学研究所 プロジェクト総合研究棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Center for Clinical Aging Research
- C 13** 加齢医学研究所 スマート・エイジング研究棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Center for Smart Aging Research
- C 14** 加齢医学研究所 先進フロンティア研究棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Laboratory for Advanced Frontiers Research
- C 15** 加齢医学研究所 ブレインダイナミクス研究棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Laboratory for Brain Dynamics Research
- C 16** 加齢医学研究所 ブレインイメージング研究棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Laboratory for Brain Imaging Research
- C 17** 加齢医学研究所 腫瘍動物実験棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Facility for Tumor and Animal Experiment
- C 18** 加齢医学研究所 先端医療実験棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Pre-Clinical Research Center
- C 19** 加齢医学研究所 動物資源実験棟
Institute of Development, Aging and Cancer, Center for Laboratory Animal Resources
- D 01** 星陵体育館
Seiryō Gymnasium
- D 02** 弓道場
Japanese Archery House
- D 03** 星陵学生サークル棟A
Seiryō Club House A
- D 04** 看護師宿舎
Dormitory for Nurse

アクセス Access



- バスをご利用の場合**
JR仙台駅バスのりば ⑨⑬⑭⑮⑳番から乗車し「東北大学病院前」下車。または、㊸番から乗車し「交通局東北大学病院前」下車徒歩約5分。乗車時間は約20分。
 - タクシーをご利用の場合**
JR仙台駅タクシーのりばより、所要時間約15分。
 - 地下鉄をご利用の場合**
仙台市営地下鉄南北線仙台駅から泉中央行きに乗車し、「北四番丁駅」下車後、北2出口より徒歩約10分。
- 東北大学病院**
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1
平日 8:30-17:15 TEL 022-717-7000
時間外・休日診：TEL 022-717-7024
www.hosp.tohoku.ac.jp
 - 東北大学医学系研究科・医学部**
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1
 - 東北大学歯学研究科・歯学部**
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1
 - 東北大学加齢医学研究所**
〒980-8575 仙台市青葉区星陵町 4-1
 - 東北メディカル・メガバンク機構**
〒980-8573 仙台市青葉区星陵町 2-1

外部評価の実施

当院は、公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価(機能種別版評価項目3rdG:ver.2.0)を受審し、所定の認定基準を達していると認められ、令和4年7月8日付けで認定証が交付されました。



禁煙に関する取り組み

当院では、加熱式などの新型タバコを含め、敷地内全面禁煙とし、病院周辺の道路や敷地においても禁煙のご協力を呼びかけています。また、啓発活動や禁煙指導を行うことにより、禁煙について考え始める機会を提供しています。

ロゴマークコンセプト

ハートの形をベースにし、流動性、先進性を表現しています。ハートの二つの変形楕円は、病院と患者さんとの親密なかかわり、医療との密接な関係性を表現しています。また、紺色の球体はエネルギーの上昇と共に、冷静な頭脳を意味します。熱いハートと冷静な、誠実な頭脳を併せ持つ当院の医療の場における存在感を的確に表現したマークです。メインカラーは医療にとって最大のテーマである生命(患者)そして血液を表現し、希望と情熱をも意味します。サブカラーは誠実・勤勉を表現しています。





TOHOKU
UNIVERSITY



東北大学病院

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1

平日 8:30-17:15 TEL 022-717-7000 時間外・休診日: TEL 022-717-7024

